

令和2年度 事業報告

目 次	
1 廣望会・役員会開催状況	P 1
2 財産取得	P 4
3 借入金と償還金の状況	P 5
4 クリーニング工房 CoCo の状況	P 7
5 アトリエ CoCo の状況	P 1 5
6 キッチン CoCo の状況	P 3 5
7 CoCo JAVJAV・Bakery Cafe CoCo の状況	P 5 4
8 スタジオ CoCo ・CoCo レスト の状況	P 6 6
9 アートカフェ CoCo の状況	P 8 7
10 地域生活支援センターCoCo の状況	P 9 5

令和3年5月27日

社会福祉法人 廣望会

多機能型障がい福祉サービス事業所	クリーニング工房 CoCo
多機能型障がい福祉サービス事業所	ア ト リ エ CoCo
多機能型障がい福祉サービス事業所	キ ッ チ ン CoCo
多機能型障がい福祉サービス事業所	CoCo JAVJAV
	Bakery Cafe CoCo
多機能型障がい福祉サービス事業所	スタジオ CoCo
	CoCo レスト
生活介護・フリースペース	アートカフェ CoCo
共同生活援助・短期入所・相談支援・居宅介護	地域生活支援センターCoCo ながの
共同生活援助・短期入所	地域生活支援センターCoCo ちくま

社会福祉法人 廣望会

お陰様で本年度法人設立 23 年にして、新型コロナウイルス感染症の感染拡大という未曾有の年となりました。まさかが現実となった新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のために、徹底した防疫体制を取り、「うつらない」「うつさない」「自分の身は自分で守る」を合言葉に利用者様のご家庭にもご協力をいただきながら進めてきました。

また、就労支援事業のホテル・旅館等のリネンサプライ・クリーニング業、BakeryCafé、弁当業、農作業、施設外就労とすべての仕事的大幅減収となり、大変厳しい状況となりました。就労継続 A 型の所員の皆さんには給料としてコロナ特例雇用調整金を支給、B 型・生活介護・就労移行の所員の皆さんには工賃を減額せざるを得ませんでした。通常の仕事がなく、外出も出来ず、イベントも出来ないという様々な活動の制限をされた中で、所員の皆さんに出来得る限りの仕事の確保とお楽しみ、体力・精神力の維持のための環境の整備及び支援の工夫努力を進めて参りました。

そんな中ではありましたが、本年度は千曲市の重度の障がいのある方々の日中活動の場と様々な生き辛さを抱えている方々の居場所としてのカフェとして、地域のニーズにお応えすべくスタジオ CoCo の従たる事業所「CoCo レスト」(生活介護、フリースペース)を大塚様からご寄付頂きました上山田温泉の土地に令和 2 年 12 月 1 日に開所致しました。

そして、社会情勢・生活環境の変化激しい時代・コロナ禍において、福祉ニーズの多様化、障がいの多様化に伴ってのサービス提供の在り方の難しさを改めて実感するところですが、こんな時だからこそ相談支援及び誰もが拠り所となる居場所を創り、その人らしいその人が望む地域生活の一助となるよう努めて参りました。また、地域の中で支えて頂いていることへの感謝の気持ちを込めて、地域の中で障がいのある方たちと一緒に当法人が出来ることを真摯に考え進めて参りました。そして、障がいのある人もない人も・・・誰もが地域の中で笑顔で「働く」「暮らす」を当たり前の実現できる地域づくりの一端を担うべく、今後においても進めて参りたいと思います。

社会福祉法人 廣望会の役員会等の開催状況

【監事監査】

令和 2 年 6 月 4 日 令和元年度事業に関する監事監査

【理事会・評議員会】

令和 2 年 6 月 13 日 第 86 回理事会

- (1)令和元年度事業報告・決算報告並びに監事監査報告
- (2)新規グループホーム設置事業について
- (3) 土地の寄附を受ける件について
生活介護事業所・フリースペース設置事業について

(4)定時評議員会を決議の省略(書面)により開催することについて
令和2年6月27日 第52回評議員会

- (1)令和元年度事業報告・決算報告並びに監事監査報告
- (2)新規グループホーム設置事業について
- (3) 土地の寄附を受ける件について
生活介護事業所・フリースペース設置事業について

令和2年10月26日 第87回理事会

- (1) CoCo レスト新設の事業計画について
スタジオ CoCo の多機能型定員区分の変更について
- (2)CoCo レスト新設による建設資金の借入れについて
- (3)独立行政法人福祉医療機構からの新型コロナウイルス感染症対応経営資金の借入れについて
- (4)評議員会を決議の省略(書面)により開催することについて

令和2年10月29日 第53回評議員会

- (1) CoCo レスト新設の事業計画について
スタジオ CoCo の多機能型定員区分の変更について
- (2)CoCo レスト新設による建設資金の借入れについて
- (3)独立行政法人福祉医療機構からの新型コロナウイルス感染症対応経営資金の借入れについて

令和2年12月22日 第88回理事会

- (1)日中一時支援事業の開始について
事業計画
予算
- (2)定款変更(目的変更)について
- (3)評議員会を決議の省略(書面)により開催することについて

令和2年12月25日 第54回評議員会

- (1)日中一時支援事業の開始について
事業計画
予算
- (2)定款変更(目的変更)について

令和3年2月24日 第89回理事会

- (1)令和2年度補正予算について

令和3年3月30日 第90回理事会

- (1)令和3年度事業計画について
- (2)令和3年度予算について
- (3)第9期評議員の候補について

【評議員選任・解任委員会】

開催なし

【職員総会・研修】

令和2年3月29日 令和2年度新年度会及び入所式 法人全職員出席
理事長の新年度に向けての訓示
法人新年度計画発表
新入職員紹介
辞令交付
永年勤続者表彰 精励職員理事長賞授与
情報交換会・懇親会

コロナウイルス感染症拡大のため中止

令和2年12月10日 法人全職員出席（パート等も含む）
《研修会》
《総会》

コロナ禍のため中止

【諸会議・その他】

令和2年3月29日 NLSグループ合同による「新年度会・新入職員入所式」

コロナ禍のため中止

- * 毎月1回経営会議（月次報告含む） 出席者：理事長 参与 事務局長 各事業所長
法人の経営状況、各事業・福祉サービスの運営状況について協議を行った。
- * 毎月1回会計月次報告検討会
出席者：会計事務所 参与 事務局長 各事業所長 事務担当
会計事務所より月次の報告を受け、各事業の経営状況について確認、協議を行った。
- * 各事業所にての定期的な職員会議の開催
経営会議及び管理職会議の内容の周知、作業・生活支援上の課題検討、ケース検討・就労事業検討等を行った。
ほか、毎日職員打合せを行い様々な気付き・情報をタイムリーに共有し検討をし、チーム支援を行った。
- * 各種団体の諸会議及び研修等への参加
・知的障害福祉協会・セルフセンター協議会・県社協・県・長野市自立支援協議会・千曲坂城自立支援協議会等の研修及び部会活動等に各事業所より積極的に参加をした。（zoom等）

【社会貢献事業】

- * 地域の小学校との交流会「み～んなともだちプロジェクト」（福祉教育の実践・長野市）
- * 引きこもりの子供たちや大人たちの活動の場の提供（フリースペース・須坂市・千曲市）
- * 荒廃農地の活用（長野市）
- * 長野中央ライオンズクラブとの協力による生活困窮の子供たち・者への支援（フードドライブ・長野市（コロナ禍のため中止））
- * 長野市生活困窮者自立支援事業への支援協力（プチバイト事業/認定就労訓練事業所登録・長野市）
- * 緊急ショートステイの提供（長野市・千曲市・坂城町）

- * 長野県知的障がい福祉協会の活動への積極的参加協力
- * 長野市及び須坂市、千曲市・坂城町の自立支援協議会への積極的参加協力
- * 長野市住民自治協議会積極的参加協力
- * 長野県社会福祉審議会出席
- * 長野県障がい者施策推進協議会出席
- * 長野市社会福祉審議会の地域福祉専門分科会出席
- * 長野市教育センター運営委員会出席
- * ほか、地域の行事活動への積極的参加協力

廣望会並びに施設に関わる財産取得

令和 2年 6月	スタジオ 総事業費	シーカー改造 1,885,246円
令和 2年 6月	クリーニング工房Coco 総事業費	空調設備(食堂・工場) 2,431,000円
令和 2年 7月	Cocoレスト 総事業費	土地 9,390,591円
令和 2年12月	Cocoレスト 総事業費	建物新築 33,197,000円
令和 2年12月	CoCo ホーム青木島(仮) 総事業費	建物内装工事 770,000円
令和 2年12月	Cocoレスト 総事業費	駐車場舗装 1,705,000円
令和 2年12月	Cocoレスト 総事業費	製氷機 231,000円
令和 2年12月	Cocoレスト 総事業費	多段冷蔵庫 550,000円
令和 2年12月	アートカフェCoco 総事業費	空調機 577,500円
令和 3年 2月	Cocoレスト 総事業費	カーテンレール 330,000円
令和 3年 2月	クリーニング工房Coco 総事業費	エアコン 208,250円
令和 3年 3月	アトリCoco 総事業費	パソコン 208,250円
令和 3年 3月	CoCo ホーム表参道 総事業費	パソコン 216,105円
令和 3年 3月	CoCo ホームぼたんの里 総事業費	パソコン

		総事業費	216,105円
令和 3年 3月		居宅介護	パソコン
		総事業費	216,105円
令和 3年 3月		特定相談	パソコン
		総事業費	216,105円
令和 3年 3月		ベーカリーカフェCoCo	焼窯
		総事業費	3,199,900円
令和 3年 3月		アトリエCoCo	ｽｰﾊﾟｰﾊｳｽ新築
		総事業費	2,640,000円
令和 3年 3月		地域生活支援センターちくま	サーマルカメラ
		総事業費	283,800円
令和 3年 3月		キッチンCoCo	サーマルカメラ
		総事業費	283,800円
令和 3年 3月		アートカフェCoCo	パソコン
		総事業費	319,000円

借入金と償還金の状況

令和 2年 7月	福祉医療機構へ償還	840,000円
	" 利息	29,400円
令和 3年 1月	福祉医療機構 利息	23,520円
令和 2年 8月	八十二銀行借入へ返済	12,000,000円
	(ｽﾀｼﾞｵCoCoﾘﾝｸﾞ資材購入資金、5年返済毎年12,000,000円)	
毎 月	八十二銀行借入金利息(年額)	87,952円
	(ｽﾀｼﾞｵCoCoﾘﾝｸﾞ資材購入資金)	
毎 月	福祉医療機構へ返済(年額)	2,292,000円
	福祉医療機構借入金利息(年額)	91,234円
	(地域ﾾﾝﾀｰCoCoちくま 三本木建設時借入金)	
毎 月	八十二銀行借入へ返済(年額)	1,152,000円
	八十二銀行借入金利息(年額)	183,407円
	(地域ﾾﾝﾀｰCoCoちくま 三本木建設時借入金)	
毎 月	福祉医療機構へ返済(年額)	1,548,000円
	福祉医療機構借入金利息(年額)	102,453円
	(アートカフェ 建設時借入金)	
毎 月	八十二銀行借入へ返済(年額)	876,000円
	八十二銀行借入金利息(年額)	33,131円
	(ｽﾀｼﾞｵCoCo送迎バス購入時借入金)	

毎 月	八十二銀行借入へ返済(年額)	9 2 4 , 0 0 0 円
	八十二銀行借入金利息(年額)	1 2 , 8 5 4 円
	(スタジ0 CoCo 機械装置 I R 装置設置時借入金)	
毎 月	八十二銀行借入へ返済(年額)	1 , 5 0 0 , 0 0 0 円
	八十二銀行借入金利息(年額)	1 4 7 , 8 8 0 円
	(スタジ0 CoCo 脱水機設置時借入金)	
毎 月	八十二銀行借入へ返済(3年据置返済)	0 円
	八十二銀行借入金利息(年額)	1 6 9 , 5 8 4 円
	(CoCo レスト建設資金)	
毎 月	福祉医療機構(5年据置返済)	0 円
	福祉医療機構借入金利息(年額)	1 8 , 5 3 4 円
	(運転資金)	

第2種社会福祉事業 障がい福祉サービス事業
多機能型障がい福祉サービス事業所

ク リ ー ニ ン グ 工 房 Co Co

新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言により、年度当初の4月13日より7月31日まで全く仕事のない状態が続き休業を強いられました。

クリーニング工房 CoCoに限らずですが、当たり前のようにあった仕事がない状況は経験がありませんでした。休業中とはいっても、福祉サービス事業所として利用者の方々が、毎日通所できる施設をどの様に運営していくか頭を悩ます日々でした。

雇用調整助成金の制度を利用して、給与面で極端な減収にならないようにして、なおかつ魅力ある日課にするためにはどのようにするか、支援員全員と毎日ミーティングを繰り返しました。

日課の中に、地域の清掃活動やベーカリーCoCoのパンの販売を取り入れ、カルチャー活動を充実させてきました。この活動から、地域の方々から感謝される機会もあり、少しだけ地元地域との結びつきができたように感じました。

また、活動を継続する中でも利用者が感染することもなく、休まずに通所して頂いたことには本当に感謝しています。

前年とは比べ物にはなりませんが、8月からはクリーニングの作業が徐々に戻ってくるようになり、仕事があることのありがたさ、いつもと変わらない日常があることに感謝する1年でありました。

もがき苦しんで、あきらめることなく前を向いた1年を無駄にすることなく、関係する多くの方々へ感謝するとともに、利用者支援員のその力を十分に発揮できるようにしていきたいと思っています。

就労継続支援A型

1 事業の開始

平成10年8月1日 知的障がい者福祉工場操業開始

平成19年4月1日 障害者自立支援法のもと、多機能型事業所となる。

平成30年5月1日 定員を20名から24名に変更する。

令和2年4月1日 定員を24名から25名に変更する。

2 利用者の推移

令和2年3月31日 24名

令和2年11月30日 1名退所 23名

令和3年1月1日 1名入所 24名

令和3年3月31日 現在 24名

3 利用者の内訳

出身市町分布

長野市6 千曲市10名 上田市3 坂城町4名 築北村1名

性別 男性 18名 女性 6名

年齢

20歳～51歳 平均年齢36歳

20代・・・7名 30代・・・7名 40代・・・9名 50代・・・1名

障がい種別

全員知的障がい者療育手帳・・・ B1 9名 B2 14名 A1 1名

その他

男性18名中利用者4名、女性5名中利用者2名がCoCoホーム千曲（当法人運営ケアホーム）より通勤

4 勤務体制

始業時刻... 8 : 40 終業時刻... 17 : 10

休憩... 昼休み（50分）3時休み（20分） 実労時数... 7時間20分

・年間休日90日... 繁忙期及び納期の変更等のため、1年単位の变形労働時間制で運営をしている。原則として木曜日・日曜日は休みとした。（希望者は残業も担っている）

5 利用者の通勤方法

（1）通勤支援 しなの鉄道戸倉駅と事業所間の送迎を行う 12名

（2）徒歩及び自転車 7名

（3）公共の路線バスおよび家族の送迎 5名

6 通所状況

勤務実態（出勤率）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
98.6%	100%	99.6%	95.8%	98.7%	98.4%	98.9%	98.4%	93.5%

1月	2月	3月	年平均
96.8%	96.5%	97.3%	97.7%

全体の通所率は前年度平均とほぼ同様。すべての月で通所率が90%以上である。

7 利用者の給与

給与は最低賃金を確保するよう努力しているが、労働実態に合わせて労働基準監督署の承認を得て最低賃金の適応除外を受けている方が9名いる。通勤費は実質全額支給、有給休暇付与、社会保険・労働保険全員加入。雇用調整助成金の制度を使用。

年収の状況

224,800円～1,000,000円	8名
1,000,001円～1,300,000円	3名
1,300,001円～1,400,000円	1名
1,400,001円～1,500,000円	1名
1,500,001円～1,600,000円	10名
1,600,001円～1,700,000円	1名
平均年収 1,250,000円	
月額平均 105,000円	

(24名 障害者基礎年金受給...2級 24名 年間 822,250円)

8 個別支援計画

プロフィール・アセスメントシート等をひとりひとり作成。ご本人・ご家族・担当職員・所長との個別面談にて「就労継続A型支援計画」を立て、計画に沿って日々の支援を行った。6カ月ごとのモニタリングを実施して見直しをした。

9 利用者の作業内容

洗い場 3名 シーツローラー 4名 浴衣ローラー 1名
多種ローラー 8名 タオルたたみ 8名

A型利用者は洗い場、ローラーでの作業が主である。中には体力等に応じ軽作業のタオルたたみを担う方もいる。

利用者は出勤率にもあるように、真面目に日々勤務をして自分の役割を果たしている。ただし、中には能力後退が顕著であり、限られた作業種にしか従事できない方が複数人見受けられる。

10 職員の指導態勢 総員 14名 (令和3年3月31日)

所長 サービス管理責任者 出荷主任 機械保守・管理担当支援員

支援員4名(パート1名) 作業支援員9名(パート2名) 配送1名

作業支援員は、個別担当を兼務する支援員とともに各作業部署に配置し、利用者の作業指導を始め利用者に無理な作業(出荷に直接関わる作業など)や残業と次の日の段取り、機械メンテナンス等の作業をしている。

11 職員の処遇

服務規程及び賃金規定により処遇している。

障がい者の人権擁護については、平成24年10月の障がい者虐待防止法施行にあたり、特に職員としてあるべき利用者対応・指導方法について、個別指導及び相談に心がけた。

職員研修については、本年度の実績は下記のように実施した。

[研修実績]

所内研修 工場内における危機管理・安全管理と工場運営について
障がい者の人権擁護について

職員研修 長野県サービス管理責任者更新研修
クリーニング師研修 その他

主催・実施主体	内容	出席者
長野県相談支援専門員協会	長野県サービス管理責任者更新研修	2名
その他	安全運転講習会	1名

12 生産活動

取り扱い業務 ホテル・旅館寝具等のクリーニング

シーツ 掛けカバー 枕カバー クロス類 ナプキン類 浴衣 ガウン
 タオル類 一般クリーニングの受付

協力顧客 (株)戸上リネンサプライ 長野リネンサプライ(株) 信州リネンサプライ(株)
 (有)東京洗染 上田市 坂城町 千曲市 労協ながの(つるの湯・
 福祉健康プラザ) 千曲市高齢福祉課 千曲市福祉課 千曲市子育て支援課
 (千曲市内保育園4施設)
 千曲坂城消防本部 ともいきライフ月影 日本レクシー(株)
 (白鳥園) 坂城保育園

生産状況 生産トン数は前年度より約45%減となっている。

13 健康管理

利用者の特性から健康管理には日々のきめ細やかな対応が必要なため
 配慮をしている。(職員も同じ)

日々の配慮

出勤前の家庭での検温・健康観察

施設入場時の消毒ルームの設置・検温・指消毒・健康観察

作業時の巡回指導と職員の直接指導

特定指導、相談

感染症予防のための「手洗い・うがい・消毒」励行のための声かけを

常時実施

熱中症、脱水症状の注意喚起と水分補給の呼びかけを常時実施

特定管理

- ・毎月2回の非常勤安里みどり看護師による健康相談

事業合計 延べ100人実施

健康相談時に体重測定、及び血圧測定、必要に応じて体温測定を実施し、経過的に記録
 をして健康管理に努めている。

生活習慣の相談が主である。また、持病のある方や、体調を崩した方に対しては、健康
 の維持についてのアドバイス等いただいた。

健康相談では、いつもと違う雰囲気の中で色々なことを相談することができている。普
 段ご自分のことを伝えることが苦手で、訴えが少ない方も看護師にいろいろと相談がで
 きていた。

- ・健康診断

日本労働福祉協会長野県支部による健康診断 令和2年6月6日(土)

- ・安里嘱託医師による健康診断 令和2年2月21日(金)

家庭連絡 必要に応じて随時行う。病院へのつなぎも行う。

保健講話

安里嘱託医師による健康診断 令和3年2月17日(水)

講話についてはプリント配布

うつらない、うつさない、ひろげない予防方法。

14 安全・衛生管理

安全管理

日常、機械操作および安全確認を行っている。工場内の機械設備 安全・危機管理に努める、機械設備の保守点検、管理業務の見直し、危険個所に事故防止のためのガード等設置、作業標準手順書の整備、危険区域、部位に注意喚起表示の設置、機械修理時の標記、動作確認等を行っている。

日常的には、管理者の指示のもとに安全・衛生思想の普及や労災事故防止のための点検等を随時行うとともに、事故防止についての声掛けを継続的に行っている。

この他、衛生管理、危険防止として日々施設内外の整備に努めるため、朝礼終了後から作業開始までの時間を利用して、各部署毎に清掃に取り組んだ。

防災訓練

防災計画により、防災訓練を年度内2回実施した。

令和2年 12月 4日(金) 消火・通報・避難誘導訓練

令和3年 2月 1日(月) 消火・通報・避難誘導訓練

避難誘導訓練においては消防署員より「非常によく訓練されている」と評価がある。

15 委託給食

常時利用者 22名

昼食数 年間263日 合計5,786食

検食日誌の記録

利用者の希望・意見の吸収(随時)

誕生日メニューの実施(利用者の誕生日近くに本人の希望メニューによる)

選択メニューの実施(今年度は特に希望を反映)

給食検討会の実施(キッチンCOCO:栄養士・調理員・所長・給食担当)

16 QOL活動の実施状況 - 就労移行支援事業及び就労継続支援B型事業と同様 -

工場稼働日におけるカルチャー教室の実施

・塗り絵・雑巾づくり・貼り絵・楽器練習

・季節に応じたミニ行事 「鏡開き」「節分豆まき」

諸行事の実施および参加

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

生活相談支援 随時或は特定して実施 健康上の問題 仲間関係

経済生活面等 ケースによっては圏域のコーディネーター、関係機関とケア会議を行った。

家族会の運営 家族会総会・家族のつどいは書面にて実施

17 地域への開放状況

千曲市及び周辺市町

・若宮区及び芝原区には区費を納入し区民としての交際をしている。

- ・千曲・坂城自立支援協議会
運営委員会 就労・事業所連絡会 さんさんネット部会 地域支援部会
ケアマネジメント部会 全体会 に ZOOM 参加

同業者関係

環境衛生同業組合に加入、情報を得ている。

現場実習の受入れ

- ・稲荷山養護学校、千曲坂城相談機関センターから体験実習や就職をめざしての実習の受け入れ
 - ・施設研修のための見学受入れ（学校、PTA、県内外の施設、企業等）
- 県及び北信の知的障がい福祉協会の一員として、各会合に ZOOM 参加した

就労継続支援 B 型

1 事業の開始

- 平成 14 年 4 月 1 日 障害者等共同作業訓練事業を開始する
- 平成 15 年 4 月 1 日 補助金認可され、新たにスタート
- 平成 19 年 4 月 1 日 障害者自立支援法のもと、多機能型事業所となる
(就労継続支援 A 型事業・就労移行支援事業)
- 平成 21 年 4 月 1 日 就労継続支援 B 型事業開始 定員 10 名
- 平成 25 年 12 月 1 日 定員を 10 名から 8 名に変更する。
- 平成 30 年 5 月 1 日 定員を 8 名から 10 名に変更する。
- 令和 2 年 4 月 1 日 定員を 10 名から 15 名に変更する。

2 (利用者の状況)

- 令和 2 年 4 月 1 日 15 名
- 令和 2 年 5 月 30 日 1 名所退所
- 令和 2 年 10 月 1 日 1 名入所
- 令和 2 年 12 月 31 日 1 名退所
- 令和 2 年度における総在籍者数 14 名

3 利用者の内訳

- 出身市町分布 千曲市 9 名 上田市 3 名 長野市 1 名 坂城町 1 名
- 性別 男性 10 名 女性 4 名
- 障害種別 知的障がい者 13 名 (A 1...1 名 B 1...7 名 B 2...5 名)
身体障がい者 1 名
- 年齢 23 歳 ~ 59 歳 平均年齢 36.8 歳
20 代... 6 名 30 代... 4 名 40 代... 1 名 50 代... 3 名

4 作業訓練内容

- 事業運営日数 263 日 (基本的には木・日の週休 2 日制 他開所日は希望通所)
- 日 課 8:40 ~ 17:10 昼休み 50 分 3 時休み 20 分
(基本的には本人希望と体調・体力、家庭環境等状況を見ながら、ご本人に

とって無理のない状況で行っている。家族の介護、家事を担っている利用者等もいる)

作業訓練内容 タオル・ガウン・パジャマ・作務衣・ジャージ等のたたみ作業
 公共温泉施設のマットのクリーニング(回収と配達も)
 シーツ等投入補助 洗い場仕分け補助

状況 ・ひとりひとり状況が異なるなかで通所状況も様々である。
 ・安定的な作業をする方が多数いる一方で、中には、作業の力の停滞が顕著に見られる方もいる。障がい特性や、心理的な部分で支援方法に苦慮をする場面もあり、必要に応じて家庭や相談機関との連携を図っている。
 ・14名のうち発達障害・自閉的傾向の方が4割の人数である。障がい特性や個性に合わせ専門的な知識や支援方法が必要であり、職員の支援技術の研さん習得が引き続き課題である。

5 利用者の通所方法

- (1) 通所支援 しなの鉄道戸倉駅と事業所間の送迎を行う 3名
 (2) 徒歩及び自転車 11名
 事業所において通所費市町補助の申請をサポートしている

6 利用者の通所状況

(通所率)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
98.7%	96.7%	99.7%	96.1%	92.2%	97.3%	98.1%	99.7%	98.0%
1月	2月	3月	年平均					
96.8%	99.6%	100%	97.7%					

7 利用者の工賃支給

月	平均工賃額	月	平均工賃額
4月	13,500円	10月	19,600円
5月	13,800円	11月	19,600円
6月	14,600円	12月	20,400円
7月	19,500円	1月	16,600円
8月	18,800円	2月	16,700円
9月	19,500円	3月	19,800円
平均月額 17,700円			

8 個別支援計画

プロフィール・アセスメントシート等をひとりひとり作成。ご本人・ご家族・担当職員・施設長との個別面談にて「就労継続支援B型計画」を立て、計画に沿って日々の支援を行った。6か月ごとのモニタリングを行い見直した。

9 職員の指導体制

所長 サービス管理責任者1名

支援員 4名（うち1名目標工賃達成指導員）

10 健康管理

就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業と同様

11 給食の提供

希望者には給食を提供した（1食260円） 13名 3,419食

利用者の希望・意見の吸収（随時）

誕生日メニューの実施（利用者の誕生日近くに本人の希望メニューによる）

選択メニューの実施（今年度は特に希望を反映）

給食検討会の実施（キッチンCoco：栄養士・調理員・所長・給食担当）

12 QOL活動の実施状況

就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業と同様

13 地域への開放状況

就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業と同様

**第2種社会福祉事業 障がい福祉サービス事業
多機能型（ 就労継続 B 型 生活介護）**

アトリエ CoCo

お陰様で本年度 15 年目を迎えました。本年度はコロナウイルス感染症の恐怖の中、感染症対策に追われた 1 年でありました。過度な恐怖心で通所出来なくなってしまった所員たち、障がい故にマスクをすることが出来ない所員たち、言葉に出来ずパニックを起こしてしまう所員たち・・・をどう支えたらよいか。オープンイベント、一泊旅行、土曜日課の QOL 活動（調理実習・外出活動）、ステージ発表、地域交流（わかほ福祉まつり・若穂文化祭等）、保科小学校との福祉共育の実践など、生活の楽しみが奪われてしまいました。また、ホテル等のタオル類のクリーニング作業の激減、企業への施設外就労の休止、自主製品（野菜類等）の販売会の中止等、仕事がなくなってしまい、日々散歩をしたり、アート活動を行ってきました。所員の皆さんの糧である工賃も減額をせざるを得ない厳しい状況となりました。

しかし、5 月の緊急事態宣言時においても所員の皆さん、そしてご家族の皆さんのニーズにお応えすべく一日も休業することなく開所を継続いたしました。夏以降は所員の皆さんも体調を壊すことなく、風邪もひかずに素晴らしい通所率であったことは大変喜ばしいことでありました。アトリエ CoCo に行きたいと元気に通所される所員の皆さんとこの環境下に出来ること、楽しむことを模索しながら一年間何とか無事に過ごすことが出来たのも、ご家族の皆様、多くのご協力・ご支援をいただいた皆様のお蔭と感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の一時も早い収束を願うばかりです。

ほか、生活困窮者のための就職活動応援のため「まいさぼ長野」よりの依頼によって「生活困窮者就労訓練事業」として本年度も 1 名受け入れ、ご家族・関係機関と連携をして障がい者手帳を取得し、自宅に引きこもっていた方がアトリエ CoCo 就労継続 B 型事業を利用するに至り、毎日生き生きと通所されています。

社会貢献として生活困窮者への支援も含め、より良い地域社会を築き上げていくために、このコロナ禍の中においても、私たちは障害福祉サービスを提供する事業者として地域の中で何を成すべきかを考え、今後も地域の皆様と様々なるチャレンジをしていこうと考えています。

就労継続支援 B 型事業

利用者の推移

令和 2 年 4 月 1 日	長養高等部卒業生受入	...在籍者数	38 名
令和 3 年 3 月 1 日	新規入所	...在籍者数	39 名
令和 3 年 3 月 29 日	移行退所	...在籍者数	38 名
			総在籍者数 38 名

生活介護事業

利用者の推移 令和 2 年 4 月

...在籍者数 22 名

令和3年3月

死亡による退所

...在籍者数 21名

総在籍数 21名

就労継続支援B型事業

1 所員の内訳

出身市町村別

長野市 27名 信濃町 2名 須坂市 2名 飯山市 1名 小川村 1名 筑北村 1名
千曲市 3名 高山村 1名

性別 男 27名 女 11名

平均年齢 37歳（令和3年3月1日現在）

障がい種別 知的障がい 35名 精神障がい 3名

2 通所方法

送迎バス利用 長野駅より 12名 大豆島東団地より 7名 信濃川田駅より 2名
川中島駅より 2名

家族の送迎 3名

バイクまたは車（本人運転による） 3名

徒歩 7名

路線バス 2名

3 日課について

8:50	通所	着替え
8:50 ~ 9:00	朝会	ラジオ体操
9:00 ~ 10:30	作業	
10:40 ~ 12:00	作業	
12:00 ~ 13:00	昼食	休憩
13:00 ~ 14:30	作業	
14:30 ~ 14:50	休憩	
14:50 ~ 15:35	作業	
15:35 ~ 15:45	掃除	
15:45 ~ 16:00	着替え	帰りの会

土曜日は、活動内容によってさまざまに設定する。自由通所日（作業）の場合は10:00～16:00まで。Q L活動の場合は、活動内容によってその都度設定。

毎週木曜日の午後はカルチャー活動

4 通所状況

通所実態（通所率）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
77.4%	69.2%	80.6%	73.6%	67.6%	71.2	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均

75.9%	72.6%	72.9%	73.9%	73.5%	79.8%	74.5%
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

毎週土曜日及び祝日は自由通所日（Q L活動日以外）としているが、通所率は低い。

月2回ほど土曜日に実施しているQ L活動は、今年度はコロナ感染症の影響で取り組めなかった。

精神障がいのある数名は通所率が低いが、その他の所員は概ね元気に安定的に通所した。

5 個別支援計画について

所員に対して、日々支援を行うにあたって、最も大切となってくるのが個別支援計画である。計画を立てるにあたり、事前にご本人やご家族、関係機関等とのケア会議を開き、アセスメントを行い、ご本人のこれまでの歩みや、得意なことや苦手に行っていること、日々の行動や日常生活などで配慮することなどを確認し、個別支援計画を立てる。個人個人のニーズは様々であり、出来上がってくる個別支援計画もそれぞれ違う。この個別支援計画が重要な要素、手段となって支援が展開されていく。

6 就労活動について

《 平均工賃 》

月	平均工賃月額	月	平均工賃月額
4月	16,437 円	10月	22,739 円
5月	9,529 円	11月	20,528 円
6月	11,445 円	12月	26,460 円
7月	16,672 円	1月	20,632 円
8月	14,454 円	2月	20,208 円
9月	16,926 円	3月	30,082 円
平均工賃額 18,843 円			

工賃については、コロナ禍で作業量が大幅に減り、9月までは減額支給を行った。

工賃向上計画にも大きな影響を与えた。

【 クリーニングチーム 】

目標売上額...26,000,000 円 **売上げ実績...11,448,272 円(対目標額 44%)**

< 作業内容 >

【 洗い場 】

- ・洗濯物の洗浄・乾燥
- ・雑巾類のたたみ作業及び出荷準備
- ・機械類のメンテナンス

【 タオル班 】

- ・タオル類を中心に仕上がり状態の確認、タオルたたみ、袋詰め及び出荷準備

【 私物 】

- ・私物類の仕上がり状態の確認、たたみ作業、及び出荷準備
- ・結束バンド仕分け及び封入作業

【配送】

- ・長野リネンサプライ(株)本社工場様、長野リネンサプライ(株)須坂工場様、ホテル国際 21 様、十福の湯様、コトリの湯様、㈱トレス様及び若穂病院様への納品回収

<実施内容>

- ・ A 班はシミ・皺に厳しい白タオル中心、B 班は色タオル・雑巾中心で作業を進めた。C 班には静かな場所が必要な所員さん用に個別のスペースを設定した。
- ・ 作業を効率良く行う為、所員の作業配置、作業場の机のレイアウト変更等を行った。

<運営面において>

- ・ 大きなけがや事故もなく、進めることができた。
- ・ 回収したタオルを全てたたんでも、東横イン、ルートイン中野、エーゲ海やエールフランスのタオルがお客様からの発注の枚数に届かないという事があり、適宜湯通しを入れるなどして調整しながら進めた。
- ・ 機械類の故障が多かった。
- ・ 出荷タオルの数え間違いも何度かあり、職員による結束前の数量チェックを徹底した。仕上がったタオルに関しても台車に乗せてから職員がチェックをするなど不備のないよう努めた。

<評価・課題>

- ・ 例年に比べタワ方の残業が格段に減っている。コロナ禍で作業量が減っているのも一因。
- ・ 機械の故障やトラブルも何度かあったが、作業を前倒したりと、その都度臨機応変に対応できた。
- ・ 所員の数が多く、作業スペースが十分にとれなかった。作業配置の工夫を随時検討。
- ・ 相性の良くない所員については、作業場を別にしたり、できるだけバッティングしないよう心がけたが、限られた空間の中なので回避できずトラブルになることが多々あった。
- ・ 施設外就労等で外に出てしまう所員が多く、職員も不足していて仕事が思うように進まない事が多々あった。
- ・ 昨年まで課題となっていた不良タオルの山は、どのように処理したらよいか関係機関に確認をし、適切に処理する。
作業場にため込まないように、比較的作業量の落ち着いている日を不良タオルの整理日とする。
- ・ タオルの種類が頻繁に変わったが、所員もその都度変更に対応しながら作業を頑張ることができた。
- ・ 前年に比べ機械類の大きな故障は減ったものの、継続的にエラーの出ることが多々あった。その都度関係機関に連絡を取り早急な対応ができた。
- ・ 作業場前に山積みとなっていた染み抜きも少しずつ仕上げ、大型連休中の在庫不足を防ぐことに繋がった。

【 農作業チーム 】

目標売上額...2,300,000 円

売上げ実績...1,895,662 円

<作業内容>

- ・ 野菜の栽培(種や苗から作る)

- ・花束の販売(仕入れ)
- ・アトリエ内(家庭通知等)及び出張・外部(市役所・総合福祉センター等)での販売
- ・畑の管理・整備
- ・ベーカリーカフェ CoCo・キッチン CoCo 等への配達

<評価・課題>

- ・コロナ禍の為、イベントが出来なかった、無かったことで売上が伸びなかった。
- ・販売価格を 100 円→120 円に値上げをした。
例年通りに行けば目標売上額をクリア出来たと思うがイベント等が相次ぎ中止となったことが響いた。
- ・新たな試みを図った。
にんにくの販売サイズの追加(100gのみ→100g・500g・1kg)
カブトムシの幼虫・成虫の販売(山田園芸・一般顧客)
- ・以前からの継続で、堆肥を重点的に沢山入れる事、雑草対策として野菜に応じてマルチシートを使用した事で出来の良い美味しい野菜を沢山作る事が出来た。
- ・収穫した野菜は売り切るようにし在庫や破棄を減らすこと、市場も有効活用し全て売り切る事が出来た。
- ・家庭通知を行い宣伝、営業することで、所員の家庭からも沢山注文を頂けた。
- ・小豆に関して、例年の反省を活かし雑草処理の対応をしたが、やはり雑草の成長のほうが早く、また収穫量が減ってしまった。
- ・堆肥取りのチームワークが良くなり、所員それぞれが役割をよく理解し、以前よりも時間を短縮して作業を行うことが出来てきている。
- ・各々が自分のやりやすいやり方を考えながら行うことが少しずつ出来てきた。

<今後について>

- ・R3年度からジュース用トマトの栽培を開始する。
- ・農作業班の使える車両を1台増やして欲しい。
現在軽トラックとステップワゴンを使っているが、年々職員及び所員の人数が増えている。(職員4名所員9名 計13人)乗れたとしても10人までの為、行けない人がいることになり他班にも迷惑をかけてしまう。また車両の確保も前もって行わないといけない
- ・前年に引き続き、時期によって作業が重なってしまい、また人員不足等で雑草の処理が追い付かず、収穫量が減ってしまう事がある。マルチシートを有効活用し、出来るだけシートを敷いて対応をしていく。
- ・所員それぞれの特性を活かし、バランス良く作業が出来るように個々の特化した面を見つけ、更なるスキルアップを目指していく。
- ・雨の日や冬場に出来る作業として、軽作業からきのこキャップの作業を分けてもらえることになり継続していく。新たな作業の模索
- ・熱中症対策として、休憩を細かく取り、こまめな水分補給や塩飴の支給等行っていく。
- ・キッチン CoCo、ベーカリーカフェ CoCo との打合せを時期毎に行い、なるべく希望に応じていけるようにしていく。

・出張販売新規の場所模索

【 移動販売チーム 】

< 販売活動報告 >

野菜販売全体を見れば売上は上がったが、目標以上には程遠い状況。

・野菜売上...918,333 円 (前年比 +218,037 円)

水曜日...市役所・ふれあい福祉センター他

今年度は昨年度から続くコロナウイルスの影響で人通りが少なく集客することが厳しい状況が続いた。昨年度同様、早い段階から販売をスタートする事が出来た。今年度も豆類等が残っていたこともあり、3月まで販売を実施。売上は中々伸びなかった。

金曜日...社会福祉総合センター・長野合同庁舎他

社会福祉総合センターが2月途中で終了し、新たに長野合同庁舎での販売を開始した。新鮮な野菜を楽しみにしてくれている常連さん達はいるが、タイミングによって皆外へ出払ってしまっていたり、同じ野菜が続くと飽きてしまったり...そういったことが理由として考えられる。接客を通じてニーズを聞いていければと思う。

JAVJAV

市役所等での売れ行き次第だが、不定期で販売させてもらっている。来るのを待っていてくれる所員さんもいる為、今後も継続して行こうと思う。

アトリエ内販売(家庭通知等...)

家庭通知での宣伝や、送迎で来た親御さんへの声掛け等で、売上アップへと繋げる事が出来た。来年度も引き続き、宣伝・声掛けを続けていく。

キッチン CoCo

・売上げ...521,581 円 (前年比 +45,396 円)

今年度は、再度関係を構築する事で、以前のように安定して購入してもらおう事が出来て、多少の売り上げアップに繋がった。今後も、関係を密にして、消費してもらえるように努めていく。

ベーカリーカフェ CoCo

・売上げ...198,687 円 (前年比(2月まで) +86,875 円)

今年度は再度関係を立て直し、頻繁に声を掛けることで多くの野菜を使用してもらえる事が出来、売上増へと繋がった。次年度も継続して声を掛けていく。

イベント販売

・イベント販売売上...0 円 (前年比(2月まで) -214,620 円)

コロナ禍で全てのイベントが中止又は延期になった為、売上はなし。

【 喫茶サロンチーム 】

売上実績...234,600 円

- ・所員4名、職員3名で、毎日所員1~2名、職員1名体制の当番制で行った。
- ・毎日平均10名弱程度の利用者が来てくれた。最も少ない時は1日4名、多いときでは15名ほどの利用があった。
- ・4月から9月までは、冷たい飲み物のみの提供で、定番のメニューの他にお楽しみメニューを毎日出した。お楽しみメニューは大変人気があった。

- ・10月から3月までは、冷たい飲み物のほかに、温かい飲み物も提供した。寒いときは、ココアやミルクティーの注文がたくさんあった。
ジュースの種類を昨年度よりも増やした。
- ・お菓子も定期的に種類を変えたりして、メニューに飽きがこないように工夫をした。

<今後の課題>

- ・所員さんによってレベルに大きく違いがあり、何度も同じことを言うことがあり、職員が手を差し伸べないと出来ないことも多かったので、来年度はもっとスムーズに業務がこなせるように、支援をしていく。
- ・お客さんに対してもう少し声掛けが出来るようにしていきたい。
- ・色々なアイデアを出し合い、季節感を出したり、喫茶サロンの雰囲気をもたらしつつ、さらにはくつろげる空間となるようにし、毎日安定した客数になるようにしていく。
- ・常連のお客さんが固定されているので、新しいお客さんを増やすような工夫を考える。
- ・所員さんが慣れてきたこともあり、ついつい作業が雑になってしまったり、だれてしまったりすることがあるので、常にお客様をもてなすという心掛けをすることを声掛けをして、来てもらうお客さんに気持ち良く過ごしてもらうようにしていく。
- ・毎年講習会を受けているが、学んだことをなかなか生かせていないので今後は是非生かせるように支援をしていく。

<売上実績>

R 2.4	23,500	R 2.11	14,600
R 2.5	22,200	R 2.12	16,100
R 2.6	27,000	R 3.1	15,800
R 2.7	18,700	R 3.2	14,100
R 2.8	16,200	R 3.3	17,200
R 2.9	24,800	合計	234,600
R 2.10	24,400		

コロナの影響でイベント関係が全て中止となり、売り上げが大幅に減少した。
今年もしばらくはイベントの開催は見込めないで、日々の集客に努めたい。
日によって客数は違うが、平均して10人の客数を確保したい。
次年度の売上目標は、1か月平均2万円、年間で24万円を目指す。

【 所外就労チーム 】

売上実績 (R1 年度) ...¥6,196,223-

長野リネンサプライ(須坂工場)

売上実績 (R2 年度) ...¥2,016,960- -¥43,073

作業について

実施内容

所員参加人数 < 3月第4週実績 >

月	火	水	木	金
3.5	3	2	4	2

- ・アトリエ専用の作業場で、ラバーシーツの検品・仕分け・たたみ作業を行なった。
- ・アトリエ CoCo 職員を常時 1 名配置し、作業に集中し品質の安定を保つこと、スピードアップを指導した。

運営面

- ・ラバーたたみを終了次第、工場 2 階にてタオルたたみを行った。

評価、課題

- ・ラバーシーツのたたみ直しは、相当な時間のロスなので、たたみ直しの少ない方法を繰り返し教えていく。

エア・ウォーター

売上実績 (R2 年度) ...¥921,599 + ¥99,192-

実施内容

所員参加人数 < 3 月第 2 週実績 > (月・水・金のみ実施)

月	火	水	木	金
3		2		3

- ・中国からの材料が入らず、途中中断をはさみながら実施した・。

運営面において

- ・机に向かい個人で作業する作業であり、集団での共同作業の多いクリーニングに馴染めない障がい特性を持った参加者が実力を発揮でき全体の作業量が増えた。

評価、課題

- ・従業員さんからの励ましや声掛けにより、一層の作業意欲に繋がりました。

今後に向けて

- ・予告なく作業が切れることも今後予想されるため、切れた時の作業の回しを考えていきたい。

ケアプラザ若穂

売上実績 (R2 年度) ¥325,710 + 30,408-

所員参加人数 < 3 月第 4 週実績 > (月・火・金のみ実施)

月	火	水	木	金
4	5			4

- ・浴室清掃、シーツ交換作業。限られた時間内に作業が完了できている。

運営面

- ・訪問時に全員で元気な挨拶ができ施設の方に暖かく受け入れていただいている。
- ・シーツ交換が出来る所員が限られており、風邪等で複数名欠席すると施設職員の方にお手伝いいただくことがあった。

評価、課題

- ・分担場所を集中して責任をもって行うことができた。
- ・挨拶を徹底した。事務所だけではなく、職員や利用者さんにも挨拶ができるようになってき

た。今後も続けていきたい。

- ・目標時間を決めて、そこに向かってみんなで協力して終わるようにしている。
- ・私語を控え、作業に集中するよう促している。時々私語が増えてしまう人もいたので、今後も集中できるようにしていきたい。

公民館清掃

売上実績 (R2 年度) ...¥316,800 + ¥2,880-

実施内容

所員参加人数 < 3 月第 2 週実績 > (月・水・木 実施)

月	火	水	木	金
3	3			3

- ・保科 (月曜) 綿内 (火曜) 川田 (金曜) の各公民館の、広間、料理教室、トイレ、廊下、階段、下駄箱の清掃業務。

- ・主に、ほうきの後みんなで水モップまたは、ぞうきんに分かれる。

運営面において

- ・週三回で午前中だけの作業。
- ・3名の所員のチームを組み、職員一人が付き添った。
- ・時間の制約を受けないので休む人が出てもカバーしやすい作業であった。

評価、課題

- ・冬は水モップが出来ないので時間が余る。そのため窓拭き等見付け掃除をして夏にできなかったところを隅々まで掃除することが出来た。
- ・地域の若穂公民館をきれいにしていくと言う気持ちを持ち、チームとして取り組めた。

川田駅・綿内駅トイレ清掃

売上実績 (R2 年度) ...¥197,450- + ¥8,450

実施内容

所員参加人数 (火・水・金 実施)

月	火	水	木	金
	3	4		3

- ・川田駅・綿内駅トイレ・・・女子トイレ、身障者用トイレの清掃業務

- ・ボランティアで、トイレ・駅の周りのゴミ拾いをしています。

運営面において

- ・週3回で午前中1時間での作業
- ・3～4名の所員のチームを組み、職員1人が付き添った。

評価、課題

- ・それぞれ分担して、便座のブラシ、トイレ内の掃き掃除、洗面台、ゴミ拾いに分かれて責任を持って行うことができた。
- ・駅を使う方に大きな声で挨拶ができた。今後も続けていきたい。

【封入封緘チーム(佐川急便所外)】

売上実績...1,231,035 - ¥137,852-

佐川急便(株)様への所外実習を1年間継続して実施も定期的作業量が全体的に減少したということもあり目標売上には届かなかった。

特に本年においては、定期以外の大口のスポット作業がほとんどなくなり、作業委託代の落ち込みが顕著だった。アイデア作業については、単価が合わず取り入れない方向とする。

仕事自体のハンドリングが全く取れないため、所外実習で出ている強みが生かされなかった。

上記のような状況により、定期的作業だけ出向き、それ以外は、軽作業の板作業をする方向で考えていきたい

7 イベントについて

新型コロナウイルス感染拡大で、オープンイベント及びCoCo家族旅行は実施できなかった。

所員の皆さんのモチベーションを下げない工夫が必要となった

8 QOL活動について

イベント同様に一回も企画できずに終わった。

9 カルチャー

毎週木曜日の午後に、スポーツカルチャー、音楽カルチャー、なんでもカルチャーに分かれて実施。

カルチャーの時間に年4回大掃除を、年2回防災訓練を行った。

スポーツカルチャー

主として南長野運動公園体育館を借り、好きなスポーツを行った。年度当初は新型コロナウイルス感染拡大を受けて、緊急事態宣言が終わるまでは、ドライブなどで凌いだ。

音楽カルチャー

昨年度に引き続き外部講師を招き、アート活動を行った。その作品が11月の展覧会に出品することができ、所員のモチベーションも上がった。

なんでもカルチャー

それぞれ課題を決め集中して活動ができた。塗り絵の作品が多かった。

10 保健衛生について

立岩囑託医の指導の下に、年間計画に沿って実施した。

健康相談について

日時 : 毎週(火) 13:00~16:30に一人10分程

実施者 : 囑託看護師 : 米沢先生(~9月8日迄)
齊藤先生(以降~)

実施内容 : 体重測定、血圧測定、健康相談

相談者数 : 毎回24~27名程受診。

生活介護の方...毎回

就労継続B型の方 月1回.....約10名

3~6ヶ月に1回.....約30名

まとめ

・職員に話している事とは別に自分の思いや出来ごとを、健康相談の時間に相談をするという方が多い。家庭や仕事や趣味や休日の出来ごと等。健康相談で、先生と関わる事を楽しみにして

いる所員さんも多い。

- ・時間がかかったり、相談しながら八つ当たりしてしまう方もいるので、そのような時は、担当職員と一緒に入室して対応した。
- ・健康相談の結果は、職員の朝会で周知し、緊急の場合は、担当職員と個別に話をしたり、地域生活支援センターや給食係にも相談し、全員で共有した。
- ・健康状態が思わしくない場合は、担当職員から結果を家庭へ報告してもらった。主に通院依頼や血圧や体重が基準値を大幅に上回っている方へ連絡した。肥満については、アトリエだけでなく家庭でも気を配っていただく必要があるが、間食や食事の量は、なかなか変わらない。
- ・体重が増え続けている方が、何名かいらっしまった。

< 齊藤看護師より >

- ・体重増加に苦勞されている方が目立つ。体重記録表を本人と見て、少しの変化にも声をかけている。
- ・相談時間が長引いてしまう方には担当者の協力を得、15分～20分経過時、次の方が待っていることを分かって頂く工夫をしている。
- ・コロナ感染防止のマスクは、その都度正確に付けるように話しているが、どうしても付けない方、鼻が出てしまう方がいる。
- ・血圧が高い方には、生活面についてお聞きし、塩分等に注意するよう話す。

健康講話・AED講習会

今年度はコロナ禍で実施できなかった。

健康診断について

< 1回目 >

- 日時 : 10月15日(木) 13:30～17:00
10月29日(木) 13:30～17:00
- 実施機関 : 特定非営利活動法人 メディカルチェック
- 実施内容 : 身長・体重測定、血圧測定、尿検査、視力検査、聴力検査、
(血液検査、胸部レントゲン、心電図) 医師による問診

< 2回目 >

- 日時 : 12月8日(火) 13:30～16:00
12月9日(水) 13:30～16:00
- 実施者 : 立岩内科小児科医院 立岩孝之医師
- 実施内容 : 問診及び聴診

インフルエンザ予防接種

< 一回目 >

- 日時 : 11月7日(水) 13:00～14:00
- 実施機関 : 立岩内科小児科医院 (立岩先生 + 看護師さんの2名)
- 実施内容 : 予防接種
- 実施人数 : 75名 (所員 + 職員 + 他事業所)

<二回目>

日時 : 11月13日(火) 13:00~14:00

(実施機関・内容については同上)

実施人数 : 41名(所員+職員+他事業所)

まとめ(以上、保健行事について)

- ・今年度はコロナ流行もあり、一連の保健行事が例年のような日程で推進できず、10~12月の年末に集中した。
- ・健康診断の予約がなかなか取れない中、立岩先生のお計らいでメディカルチェック様をご紹介頂いた。初の業者だったが、事前の打ち合わせも細かくでき、スムーズに実施できた。
- ・インフルエンザ問診票...何点か直前に記入不備に気付く。事前にチェック必要。

その他の活動について

- ・コロナウイルス対策(次亜塩素酸水ミスト等設置、ドアノブ・手指消毒、1時間毎の換気、所員・職員の検温、パーテーション設置、健康観察等)
- ・毎日特に給食前の手洗い・うがい・消毒の実施。マスク着用の励行。
- ・医薬品の管理・補充・整理整頓。ノロ処理セットの用意と管理。
- ・月末の金曜日に歯ブラシ・コップ・上履きを持ち帰るよう呼びかけ。
- ・AEDの管理。

まとめ(その他活動について)

- ・コロナウイルス対策は、3密を避ける対策を取りながら重点的に行っていく。
今後も国の方針を注視しつつ、これからも障害者施設として適切な措置を取るようしていく。
- ・健康チェック表を配布し、毎朝検温と咳・鼻水等体調の観察をして頂くよう、家庭やホームとも連携を取っていく。
- ・手洗い、うがい、消毒は、給食前に毎日実施できた。
- ・夏場や冬場の着替えや入浴について、定期的に声がけをし、清潔を保つようしていく。
- ・コップ・歯ブラシ、上履きを月末の金曜日に持ち帰るようにした。お家の方にとっては、交換時期や臭いの確認等、使い方を把握できたのではないかと思う。
- ・今年度コロナで実施できなかったAED講習、健康講話については、時期を見て実施できればと思う。

11 給食について

所員さん

- ・4月より、新入所員さんを1名迎える。食堂の見守りを通しての気づきについて、全体で情報共有を図って行きたい。

保健衛生に関することについて

- ・コロナ対策として、向かい合わないよう、距離を置いて食べるようにした。手すり等の消毒を毎日2回担当者が行っている。
- ・熱中症・インフルエンザ・ノロウイルス、食中毒等について、保健衛生係と連携して注意・予防を呼びかける。
- ・健康診断での結果の振り返りをして、アトリエでの食事量の見直し・調整を行う。

係の活動について

- ・喫食記録については、ミスがないように二重チェックし厨房に伝える。
- ・給食検討会は年3回、(春・秋・3月)に計画していく。

アレルギー対策について

- ・食品アレルギーによる事故を防ぐために、給食アンケートにて「食物アレルギー」の項目を作り、身体に影響が出る食材や、その症状、度合い、医師からの指示等の確認項目を入れ込む。必ず親御さんに確認してもらい、皆で情報共有を図る。(好き嫌いアレルギーを混同している所員さんも多い。アレルギーとはしっかり区別を付けて行きたい)
- ・実習生の受け入れの際にも、必ず先生に「食物アレルギー」の有無や症状、程度について確認をとり、情報共有を図っていく。

来年度からの課題等

- ・おかずの味が濃い物と薄い物があるので、調理の段階で何らかの調整をする。
- ・揚げ物が続かないようにメニュー作りの段階で気をつける。
- ・日によっておかずのボリュームに差があるので、毎日同じくらいの量になるよう調整する。
- ・旬の野菜を使っていく。
- ・木曜日は、麺の日とする。

その他

- ・キッチンと農作業班との打ち合わせを行い、キッチンが必要としている野菜や農作業班がキッチンへ提供したい野菜等の情報を共有していきたい。

12 防災安全について

実施内容・時期

- ・自衛消防団の編成及び調整(4月に見直し及び変更)
- ・職員緊急連絡網の作成(4月に見直し及び変更)
- ・避難訓練の実施(5月29日・10月26日)

5/29 実施の訓練では、長野市の指定避難所である、若穂中学校・若穂中央公園まで歩いて避難する取り組みを行った。

- ・若穂消防署の方と打ち合わせ。消防計画作成(変更)届出書の提出。(5月)
- ・消防立ち入り検査の対応
- ・消防点検の実施:(毎月実施)
- ・総合点検:(年2回実施)丸登電業に依頼。

評価・課題

< 避難訓練 >

- ・若穂中央公園への避難訓練は、半数以上が歩くことができた。
- ・緊張感のある避難誘導ができた。職員による大きな声での呼びかけもできていた。ほとんどの所員がスムーズに行動できた。
- ・避難時間が3分代で速やかに避難が行なえた。多くの所員が予定どおりの行動が出来ている。

< 消防点検 >

・避難口、避難経路、消火設備（消火器含む）の場所は、その都度確認して安全を確認して
いけるようにしたい。今後も継続していく。また、係だけでなく、各作業担当場所で気付い
たことがあれば、対応していただけるように確認等行っていきたい。

13 地域との協働について

今年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大により、今まで当たり前に来たこと
が、全くできない年となってしまった。

体験実習等は必要最小限の件数で行ったに過ぎなかった

長野養護学校...2名 稲荷山養護学校...2名 信大附属特別支援学校...1名

地域諸団体と連携も全く行うことができなかった。

保科小学校との交流会についても同様。

14 職員研修について

毎朝の打ち合わせ会、職員会議・ケア会議(週1回)を行い、日常の気づきを共有し、自己の
支援の振り返りにつとめた。昨年に引き続き、ワークを多く取り入れ、参加者の声を多く拾
えた。作業チームのストレングスや5ピクチャーズを行い、売上目標や振り返りができた。
また、日常業務の知識及び技術の研鑽につとめた。

11月より、全員参加の職員会議を月初めに行うことで、今までにない気づきも生まれた。

また、障がい者虐待防止の研修も行った。

外部の研修はほとんどがリモート研修となった。

主催・実施主体	研修名	出席者
社会就労センター関係	長野県セルフブロック会議	1名
	福祉就労強化事業「工賃アップ基礎セミナー」	1名
	福祉就労強化事業工賃ステップアップセミナー	1名
長野県知的障がい者 福祉協会関係	知障協代表者会	1名
	会計研修	2名
	県知障協総会	1名
	知障協施設長会研修	1名
	知障協事務部会	1名
	精神領域セミナー	1名
	自閉症セミナー	1名
長野市自立支援 協議会関係	長野市障害ふくしネット しごと部会(毎月)	1名
	長野市ふくしネット運営部会(毎月)	1名
長野県・県社協関係	苦情対応システム研修会	1名
	虐待権利擁護研修会	2名
その他	中小企業家同友会	1名
	感染症予防講習会	1名

	サービス管理責任者更新研修	1名
	安全運転管理者講習	1名

15 CoCo 家族会ながのについて

事務局をアトリエ CoCo 内におき、運営を補佐した。

家族会についても他の取り組み同様、コロナ禍で全く取り組みができなかった

16 職員体制について

所長 1名 サービス管理責任者 1名 目標工賃達成支援員 1名

生活支援・職業指導員 6名 事務員 1名

看護師(嘱託) 1名 医師(嘱託) 1名 運転手(嘱託) 1名

生活介護事業

1 所員の内訳

出身市町村別

長野市 21名 千曲市 1名

性別 男 10名 女 12名

平均年齢 33.5歳(令和2年4月1日現在)

障がい種別 知的障がい 22名 身体障がい 2名(重複記載)

2 通所方法

送迎バス利用 長野駅より 4名 信濃川田駅より 2名 川中島駅より 2名

家族の送迎 12名

バイクまたは車(本人運転による) 0名

徒歩 0名

路線バス 2名

3 日課について

8:50	通所	着替え
8:50 ~ 9:00	朝会	ラジオ体操
9:00 ~ 10:30	作業	
10:40 ~ 12:00	作業	
12:00 ~ 13:00	昼食	休憩
13:00 ~ 14:30	作業	
14:30 ~ 14:50	休憩	
14:50 ~ 15:35	作業	
15:35 ~ 15:45	掃除	
15:45 ~ 16:00	着替え・帰りの会	
	着替え	帰りの会

土曜日は、活動内容によってさまざまに設定する。自由通所日（作業）の場合は10：00～16：00まで。月2回ほど土曜日に実施しているQ L活動は、今年度はコロナ感染症の影響で取り組めなかった。

毎週木曜日の午後はカルチャー活動

4 通所状況

通所実態（通所率）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
65.7%	60.9%	69.9%	64.5%	61.6%	65.4%	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
66.7%	63.5%	66.3%	67.4%	64.2%	66.2%	65.1%

毎週土曜日及び祝日は自由通所日（Q L活動日以外）としているが、通所率は低い。

月2回ほど土曜日に実施しているQ L活動は、定員を設けている。

利用量が少ない所員数名は通所率が低いのと、長期欠席の所員がいるため、平均を下げてしまっている。その他の所員は概ね元気に安定的に通所しており、通所率は上記数字より高い。

5 生活介護について

生産活動の他に、利用者の重度化に伴い、マンツーマン支援・食事介助、トイレ介助・外出支援など、個人個人のニーズに合わせた支援を提供している。昨年度から、利用者増に加え、作業スペースを2ヶ所にし、改革を図った。今後についても、利用者の変化に柔軟に対応できる支援体制を整えていきたい。

6 個別支援計画について

就労継続支援B型事業と同様

7 就労活動について

《 平均工賃 》

月	平均工賃月額	月	平均工賃月額
4月	9,240 円	10月	13,591 円
5月	5,600 円	11月	11,455 円
6月	6,534 円	12月	15,543 円
7月	9,709 円	1月	11,739 円
8月	8,623 円	2月	11,773 円
9月	10,345 円	3月	15,679 円
平均工賃額 10,825 円			

【軽作業チーム】

目標売上額...1,500,000 売り上げ実績...2,063,984

仲間と力を合わせて仕事に集中 ~余暇の時間も生み出そう~

<作業内容>

自主生産 ウェス加工・販売 ロンドロール販売

		エア・ウォーター(株)	20	7,200
		S&S コンポーネンツ	60	21,600
		オート信州(株)	4	1,440
		オリオン機械(株)	50	18,000
		小林サイクルモーター商会	10	3,600
		(株)鈴木	381	137,160
		テクノエクセル(株)	10	3,600
		長野市衛生センター	20	7,200
		長野ジェコー(株)	340	122,400
		その他	2	720
B T (カット)	枚	須坂工場	3400	3,800
		アクアテック	200	1,440
		その他	450	3,240
B T			0	0
F T		(有)アリスエック	120	1,800
		三浦工業株式会社	1960	35,280
		その他	500	9,000
合 計 金 額				488,430

ウエス 月別売上

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
43,980	25,640	34,800	43,530	33,120	52,140	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
42,500	38,660	66,320	29,820	32,120	45,800	488,430

ベーク板売上

月	枚 数	金 額
4	2,430	24,300
5	2,110	21,100
6	5,950	59,500
7	6,050	60,500
8	3,450	34,500
9	8,520	85,200
10	4,110	41,100

11	3,425	34,250
12	6,425	64,250
1	6,070	60,700
2	11,480	114,800
3	8,555	85,550
合 計	68,575	685,750

ロンドロール、ファイル売上金額

月	ロンドロール	ティッシュペーパー	合 計
4	5,760	6,400	49,120
5	18,240	1,600	42,720
6	3,840	800	30,240
7	6,240	0	20,560
8	31,680	8,000	29,840
9	17,760	1,200	56,240
10	4,320	0	44,000
11	16,800	800	34,320
12	11,520	3,200	33,280
1	28,320	8,800	59,360
2	69,600	8,800	36,800
3	6,720	1,200	117,120
合 計	220,800	40,800	261,600

きのこキャップ売上

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
3,450	3,500	4,600	46,00	0	4,600	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
5,750	0	5,750	4,600	4,600	4,600	46,000

その他売上

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
3,025	1,000	0	0	0	0	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
0	50,750	0	0	0	2,400	57,175

8 イベント活動

就労継続支援 B 型事業と同様

9 QOL 活動について

就労継続支援 B 型事業と同様

他に軽作業チームの独自のレクレーションを実施

10 カルチャー

就労継続支援 B 型事業と同様

11 保健衛生について

就労継続支援 B 型事業と同様

12 給食について

就労継続支援 B 型事業と同様

13 防災安全について

就労継続支援 B 型事業と同様

14 地域との協働について

就労継続支援 B 型事業と同様

15 職員研修について

就労継続支援 B 型事業と同様

16 家族会ながのについて

就労継続支援 B 型事業と同様

17 職員体制について

所長 1名 サービス管理責任者 1名 就労支援員 1名

生活支援・職業指導員 2名 事務員 1名

看護師(嘱託) 1名 医師(嘱託) 1名 運転手(嘱託) 1名

令和2年度 キッチン CoCo 事業報告

第2種社会福祉事業 障がい福祉サービス事業 多機能型事業所(就労継続支援A型事業及び就労継続支援B型事業)

キッチン CoCo は、障害のある人の働く場を提供し、支えていくという就労系の事業所としての役割は担えていると思います。就労継続支援 A 型事業を実施していることにより、ハローワーク(公共職業安定所)を主に利用等の問い合わせが継続的にあります。

就労継続支援 A 型を利用しながら一般企業への就職を志している方、就労継続支援 A 型の継続的の利用を望んでいる方等、多様なニーズのもとでの利用実態があり、就労継続支援 A 型という事業を障害のある人が各々において自分らしく働くための手掛かりとして頼りにされていることと思います。今後の利用者の更なる増加の見込みも感じております。就労継続支援 A 型及び B 型の多機能型事業所としての運営体系の下で、障害のある人の個人個人の就労面でのニーズに丁寧に確実に応えることで、個人個人の生活が実り豊かなものとしておられるように今後も貢献していきたいと思っております。

当事業所の利用者たちは、お弁当の製造及び販売業務、配達及び回収業務、法人内の昼食提供業務、そして所外実習等においては、それぞれ自らの就労や作業面等での課題に挑み、各々の目的や目標に向かって歩んでいます。また、他法人が運営する、障害のある子どもたちが利用する事業所の昼食提供業務を受託して業務を行っており、障害のある人の就労の場として価値ある場を作ることができており、そして法人側からの業務の遂行状況等に関する評価も高くあります。そこで働く人たちにとっても嬉しく感じ自信を持って働くことができております。

令和3年度もこれまでと同様に事業所全員が協力し合い、個々が持てる力を存分に発揮して事業所運営にあたっていきたいと思っております。

(利用者の推移)

・就労継続支援 A 型事業(定員 10 名)	総在籍者数	7 名
令和2年5月	1名退職	・・・ 在籍者 9名
令和2年10月	1名B型に移行	・・・ 在籍者 8名
令和3年1月	1名退職	・・・ 在籍者 7名
・就労継続支援 B 型事業(定員 10 名)	総在籍者数	6 名
令和2年6月	1名退所	
令和2年10月	A型より移行	・・・ 在籍者 5名
令和2年11月	1名入所	・・・ 在籍者 6名
令和3年3月31日現在		
登録者数 13名(就労継続支援 A 型 7名・就労継続支援 B 型 6名)		

就労継続支援 A 型事業

1 所員の内訳

- (1) 利用者総数 7名 (令和3年3月31日現在 利用者数7名)
- (2) 出身市町村別 長野市 7名
- (3) 性別 男性1名 ・ 女性6名
- (4) 年齢 44.6歳 (令和2年度末)
- (5) 障がい種別 知的障がい者 2名
精神障がい者 5名

2 通所方法

- (1) 徒歩または自転車 0名
- (2) バイクまたは車(本人運転による) 5名
- (3) 公共交通機関利用 2名
- (4) 送迎(長野電鉄村山駅発着) 0名
- (5) 家族による送迎 0名

3 日課について

(基本)

8:15 ~ 12:15まで	着替え 作業 *途中に朝会・休憩あり
12:15 ~ 13:15まで	お昼 休憩
13:15 ~ 15:30まで	作業・掃除・帰りの会等
15:30	帰宅

利用者の体調や事情等によっては、個別に時間の調整をしています。

土または日曜日は、作業状況や活動内容によって様々に設定しました。

4 通所状況

通所実態(通所率)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
82.7%	81.4%	90.9%	84.1%	76.2%	86.9%	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
92.0%	88.1%	81.0%	85.7%	85.7%	88.2%	85.1%

5 個別支援計画 就労継続支援 B 型事業と同様

個別支援計画では、本人や家族との面談や、関わってきた関係者等を含めた会議を開くなどして、アセスメントを行い、本人のそれまでの歩みや、得意なことや苦手なこと、行動や日常生活上等で配慮すること等々を確認し、本人の願いをベースにして個別支援計画を作成しました。特に本人の願いを重視して、面談をする中で願いやニーズ把握するように努めました。さらには、面談日以外にも、適時に相談を受け、困っていることや頑張りたいことを聞き、そこからニーズを拾って作成するようにしました。もし、生活の面などの困り感や希望があった時に

は、他の機関と連絡をとり繋げるようにし、個別支援計画の目標として取り組めるものは入れるようにしました。

そして、6カ月ごとに1回の見直しを行いました。来年度も、本人の願いをベースに、より良い支援に繋がるように計画的に面談等を行い、定期的に支援計画を作成していきたいと思いをします。

6 就労活動について 就労継続支援B型事業と同様

【 お弁当製造、販売、配達作業 】

(1) 作業実績及び作業風景等

各所員が意欲的に作業に就いていました。目標を持って作業に取り組み、任されたことは責任を持って行き、分からないことは職員に聞きながら、働くことの楽しさや厳しさ、やり終えた達成感や喜びを感じられていると思います。また、身支度や食品に携わる際の衛生管理や、盛り付けのときの技術や目配り（おかずが決められた所に確実に適量入れられたなど）確認を取りながら進めています。配達的时候は、身支度に気をつけ、お客様に挨拶をすることや走らず慌てないように落ち着いて作業できるように声掛けしています。

平日の昼食を主に、平均180食のお弁当を作り配達しております。法人内の6箇所の事業所の昼食の提供も行っており、食数は180食位です。

児童発達支援センター「にじいろキッズらいふ」より受けている業務委託は継続して運営しており、A型利用者1名及び職員2名で対応しています。平均60食程度及びおやつ35食程度の数を提供し、稼働日数は年間でにじいろキッズらいふが開所する約220日でした。前日に食材を納品して、当日現場にて調理、配膳、食器の洗浄、おやつ提供、翌日の食器の準備などの作業をしています。

安心・安全な食材を吟味し、野菜が豊富で手作り感のあるおいしい弁当をお届けできるよう日々努めています。

(2) 評価及び課題等

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大により、多くのイベントが中止になったため、特注弁当や美替わり弁当の注文数がかなり減ってしまいました。新規受注の増加やリピーター増加につながるようなメニュー構成や、味付け、盛り付けの工夫など課題はまだありますが、食中毒などの事故が無いよう細心の注意と心構えで毎日の作業に取り組んでいきたいと思いをします。

今後も、安心・安全・美味しい食を追求し、所員・職員一丸となって着実に成果を上げられるようにひとつずつ丁寧に対応していきたいと思いをします。

【 所外就労 】

令和2年度も、事業所の外での作業を、2か所において委託を受けて行いました。

㈱角藤 ワインボトルのラベル貼り

ワインボトルのラベル貼りの作業を委託され、週1回程度で半日程度行いました。所員1名が、職員1名の付き添いにて作業にあたりました。作業内容はワインラベルのカットやワインボトルにそれぞれのラベルを貼るものであり、ミリ単位での精密さを求められるものであり、失敗するとやり直しが難しい作業です。集中力を求められ、かなり緊張するものでしたが、責任感

を持って取り組むことができました。また、責任ある作業を任せられ、自身にも繋がっています。
にじいろキッズらいふ昼食等提供業務

他法人が運営する児童発達支援センターにじいろキッズらいふにて、厨房での業務を委託され、祝日を除く月曜日から金曜日まで、職員2名と所員1名で作業にあたりました。同事業所を利用される方の昼食やおやつの提供業務です。作業内容は、キッチン CoCo でカットや下処理をした食材を、にじいろキッズらいふ所属の管理栄養士の指導のもとで調理や盛り付け、食器の洗浄等を行いました。食事の提供時間に間に合わせるという緊張感のある作業ですが、職員及び所員ともに連携して作業に取り組むことができました。また、所員は所内よりいっそうの集中力を求められ、緊張感や責任感を持って取り組むことができました。所内で行う作業とは違った空気の中で行うことで、所内での作業に対しても良いモチベーションになるようです。

【給与額について】

月	平均給与額	月	平均給与額
4月	79,249円	10月	91,332円
5月	69,739円	11月	84,990円
6月	86,882円	12月	95,585円
7月	84,759円	1月	78,532円
8月	73,110円	2月	81,456円
9月	83,545円	3月	101,849円
平均給与額 83,639円 支払い総額 8,531,192円			

7 カルチャー・衛生講習 就労継続支援B型事業と同様

(1) 実施日、実施内容、参加者数等

日付	実施タイトル	参加者数
実施した内容		
5/21(木)	熱中症予防・対策について	9名
熱中症にならないために予防策の周知を図る。		
6/18(木)	新型コロナウイルス感染予防について	10名
新型コロナウイルス感染状況の説明、及び予防対策について、再度、話をする。 手洗いうがい・マスク着用・アルコール消毒等を促し、3密防止等の説明をする。		
7/16(木)	熱中症予防・対策について	8名
配達担当・厨房担当、それぞれの業務中に気をつけることについて話し合う。暑さで体力・気力とも消耗しているので、仕事に支障が出ないように体調管理に気をつける。		
8/20(木)	新型コロナウイルス感染予防について	9名
新型コロナウイルス感染状況の説明、及び予防対策について説明。 手洗いうがい・マスク着用・アルコール消毒等を促し、徹底するよう話をする。		
9/18(金)	消費者被害防止見守りネット情報	9名
長野市消費者センターからメールで送られてくる消費者被害の情報を提供。		

身近なところで起きている特殊詐欺や、電話での勧誘等について説明する。		
10/23(金)	インフルエンザ予防・対策について	10名
インフルエンザの予防接種のよびかけ。また、もしかかった場合の説明。外出する時にはマスクの着用。年末年始などでかけることも増えてくるので、人混みに行くときには特に注意をする。		
11/20(木)	栄養士による衛生指導	8名
食品を扱う仕事のため、衛生面について栄養士から説明。 手洗い・うがいなどの行い方についてあらためて説明し、徹底して行うよう促す。		
12/25(水)	防災について	13名
前年秋の台風被害について話しをし、避難経路などの説明をした。		
1/23(木)	新型コロナウイルス感染予防について	10名
新型コロナウイルス感染状況の説明、及び予防対策についての話をする。 手洗いうがい・マスク着用・アルコール消毒等を促し、3密防止等の説明をする。		
3/11(木)	消費者被害防止見守りネット情報	8名
長野市消費者センターからメールで送られてくる消費者被害の情報を提供。 身近なところで起きている特殊詐欺や、電話での勧誘等について説明する。		

(2) カルチャー・衛生指導のねらいについて

順調に働き続けていくために、また日常生活を安心して送っていくために、知っておくべき知識や取り組むべき行動等についての学びの時間として行いました。職員が所員から受ける相談ごとや仕事への取り組み方等から課題を拾い上げ、資料を参考にし伝えるようにしました。

今回は、長野市消費者センターよりメールで送られてくる、詐欺被害等の情報を提供する機会を設けました。身近なところで起きている詐欺被害等に注意するように呼びかけ、家庭でも被害にあわないように、話し合う時間を設けてほしい事をお伝えしました。また、今年も新型コロナウイルス感染予防について、再度確認し徹底するよう説明をしました。来年度も所員の日頃の様子から、大事だと思われるものを学びとして取り上げながら行ってきたいと思います。

(3) 評価及び課題等について

実施頻度について

月に1回、木曜日に行いました。所外実習や衛生講習・健康相談といった他の活動もあり、月1回程度が妥当だと思われます。カルチャーの予定日に作業が忙しかったり、職員の配置がうまくできなかつたりと実施できない時もありましたが、その場合には翌週に行うようにしました。

実施内容について

熱中症予防・対策、インフルエンザやノロウイルスに対する予防・対策、新型コロナウイルス感染防止を徹底するための注意喚起に努め、それぞれ感染者が一人も出なかったことが

結果につながっています。

新たに、長野市消費者センターよりメールで送られてくる、詐欺被害等の情報を提供する機会を設け、身近なところで起きている詐欺被害等について説明をし、家庭でも被害にあわないように十分注意をするように呼びかけました。

参加者について

所員全員参加をめざして行ったが、当日休みの所員や、洗浄の作業などをしていて、参加できない所員がいます。皆がそろうのは難しいですが、そのような場合には必ず後で個別に行うようにしました。

来年度について

来年度も同様の目的で実施していきたいと思います。内容については、所員の希望を聞いたり、職員側で必要と思われるものを考えたりしながら行っていきたいと思っています。

8 QOL 活動 就労継続支援 B 型事業と同様

(1) QOL 実施内容

月日	企画名	参加者
6/13(土)	ピザ屋 ねこポポでお食事会	6名
11/7(土)	アートカフェ展&お食事会	6名

(2) QOL 活動のねらいについて

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大により、QOL 活動がほとんど企画することができず、緊急事態宣言が解除された機会をみて、計画できたのは 2 回だけになってしまいました。

(3) 評価及び課題等

実施内容について

今年度も新型コロナウイルス感染拡大により、イベントが中止となることが多く、希望に添える企画が少なくなってしまいました。緊急事態宣言が解除された一時に企画できた 2 回の活動は楽しめたのではないかと感じています。

実施頻度について

新型コロナウイルス感染防止のため自粛を余儀なくされ、出かけることが困難になってしまいました。新型コロナウイルス感染が早く収束することを願いつつ、計画を立てていきたいと思っています。

参加者数について

時間的・金銭的に厳しいという理由により参加しない所員もあり、できるだけお金がかからない企画を考えていきたいと思っています。

来年度について

QOL 活動再開を皆さん心待ちにしています。非常事態宣言が解除され、自粛しなくてもよくなったら、皆さんの意見を取り入れて計画していきたいと思っています。スポーツやカラオケ等でリフレッシュできるものや教養を深めるもの、所員同士の親睦を深めるための親睦会等、できるだけ多岐にわたって実施していきたいと思っています。

9 保健衛生について 就労継続支援 B 型事業と同様

(1) 健康診断について

- 2 回実施 -

第 1 回目

- ・日時 : 令和 2 年 10 月 15 日 (木) 13 : 30 ~ 17 : 00
令和 2 年 10 月 29 日 (木) 13 : 30 ~ 17 : 00
- ・実施 (依頼) 機関 : (特非) メディカルチェック
- ・実施内容 : 身長・体重測定、血圧測定、尿検査、視力検査、胸部レントゲン、聴力検査 (対象者のみ)、血液検査 (対象者のみ)、心電図 (対象者のみ)、医師による触診及び問診
- ・受信者数 : 19 名

第 2 回目

- ・日時 : 令和 2 年 12 月 8 日 (火) 及び 12 月 9 日 (水)
- ・実施 (依頼) 機関 : 立岩内科小児科医院 立岩孝之医師
- ・実施内容 : 触診及び問診
- ・受診者数 : 12 名受診

その他

第 1 回目の診断結果が出来次第、データを立岩 Dr. と看護師にお渡しして、ご意見・ご指導を頂きました。頂いたご意見・ご指導は面談や健康相談を通じてご本人達に伝えました。

(2) 健康相談について

三木看護師 (嘱託) により、月に 2 回程度 (水曜日)、1 人 20 分程度かけて行いました。

月	回数	延相談者数	月	回数	延相談者数
4 月	2 回	14 名	1 0 月	2 回	14 名
5 月	2 回	15 名	1 1 月	0 回	0 名
6 月	1 回	7 名	1 2 月	1 回	6 名
7 月	1 回	8 名	1 月	2 回	12 名
8 月	2 回	13 名	2 月	2 回	13 名
9 月	1 回	6 名	3 月	2 回	14 名
実施回数 18 回			延相談者数 122 名		

(3) 肥満対策について

12 月の健康診断において肥満状態にある所員が 4 名。肥満に関しては自覚をしているようですが、自宅での食事量や間食の自己管理が難しいと思われます。キッチン CoCo にて提供している昼食はおかずやごはんの量が決まっているので食べ過ぎると言うことは無いのですが、家庭等での食事量が多かったり、間食もとったりするため生活全般的に多めの様です。日常的に適切な量と内容の食事をとるように意識を持っていただきたいと思います。職員側から

の意識付け等の働きかけはこれからも必要であり、面談や健康相談等を通してこれからも働きかけをしていきたいと思えます。

(4) 血圧について

- ・毎月の健康相談にて、血圧測定を実施しました。数名の所員は測定日によっては血圧が高い時もありますが、常時ではないので様子を見ています。
- ・年間を通して低血圧傾向にある所員が1名いますが、三木看護師からは、日常生活に支障はないとの話があり様子を見ています。

(5) 救急箱について

風邪薬、胃腸薬、鼻炎、痛み止め等の経口薬、及び消毒液、絆創膏、湿布、目薬等、かゆみ止め並びに体温計を整えています。施設の衛生管理上、手の傷を露出しないよう絆創膏が使われることが多かったです。一部の風邪薬や目薬・湿布薬などのように全く使用しない薬もありました。

(6) 服薬支援について

個別に服薬支援を行っている所員が2名います。頭痛によるかかりつけ医より痛み止め、精神安定剤等の頓服薬を処方されています。頭痛のとんぱく薬の保管は職員が行い、症状や服薬希望の訴えがあったときには様子を見て渡す等の服薬支援を行いました。

(7) 「傷病記録」について

服薬、静養等の場合、必要な情報はケース記録に残しその都度支援を行いました。

(8) 嘱託の医師と看護師との連携について

今年度も2回、立岩医師による健康診断を、そして、三木看護師による健康相談を基本的に月2回実施しました。

健康診断については第1回目の健康診断の結果のデータを立岩医師と三木看護師にお渡し、診断結果に応じて、必要な場合には各所員個別に指導及び助言等をいただきました。また日常の情報交換や共有を通して、所員個別の健康状態や対応等について指導や助言をいただき、所員の健康管理支援や日常や年度等の健康衛生活動の取り組みにつなげています。

(9) 個別の健康情報について

精神的な疾患を持ち、メンタル面での配慮や支援を必要とする所員が増えてきています。基本的には年間を通して継続して安定している所員が多い中、時期や状況によって、感情的に不安定な状態になり、躁鬱等のそれぞれが抱えている症状が出てきて、困ったり苦しんだりする様子も伺えます。所員の状態を日常的にしっかりと把握をし、また休んでいるときも電話や訪問等を行って連絡をとり、状態の確認と把握を行っています。そのうえで、必要な支援を行い、そして当事業所のスタッフ間でも所員個人の基本的な情報と日々における状態について情報共有を行い、事業所スタッフ全員で連携して支援にあたっています。

(10) 衛生講習について

作業及び日常生活での衛生意識の向上を目的として、その都度職員による衛生講習を行いました。(インフルエンザ予防・ノロウイルス予防・熱中症予防・新型コロナウイルス感染予防等)

(11) 清掃について

清掃については、所員によってそれぞれに応じた支援を受けながら、作業室や生活区域のスペースを担当場所ごとに行いました。特に作業室は、お弁当を作っている箇所であり、常に衛生面を意識して丁寧にしっかりと行いました。

(12) その他

毎日の朝会において、爪・手指の傷・身だしなみとともに健康状態の確認を行いました。毎日、通所して来た際も含めて外から帰ってきた時には、インフルエンザ・風邪の予防も含めて、日常的に手洗い及びうがい液でのうがいを行いました。今年度インフルエンザに罹った方はいませんでした。

ノロウイルスやインフルエンザが流行る時期には、朝会や衛生講習等で予防及び対処法について触れ、また予防及び対処マニュアルを配布して衛生の徹底に努めました。特に11月にはインフルエンザの予防接種の呼びかけをし、アトリエCoCoにて嘱託医である立岩先生に、インフルエンザの予防接種を実施していただきました。多くが予防接種を受けましたが、経済的に余裕がなかったり、以前に予防接種を受けた際体調を壊した等、個人個人の事情により接種されない方もいましたが、来年度も呼びかけはしていきたいと思えます。

10 給食について 就労継続支援B型事業と同様

- ・給食を楽しみに通所する所員が多いです。内容は、日替わり弁当とほぼ同じメニューで提供をしています。自分たちが、仕込み・盛り付けをした弁当が商品としてお客様に届くというのは、所員たちのやりがいやモチベーションのアップにつながっている様に感じます。
- ・給食検討会にて、給食に関する情報交換及び共有を行い課題検討を行いました。嗜好調査やアレルギー等のアンケートをとり、必要に応じて対応をしてきました。嗜好による配慮は行いましたが、アレルギー対応の所員はいませんでした。1名、生卵のアレルギーがある方がいますが、生玉子を提供することはありません。

11 旅行について 就労継続支援B型事業と同様

(1) 実施内容等

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、家族旅行は中止となりました。

《評価及び課題》

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、家族旅行は中止しました。

来年度は未定ですが、感染防止対策を徹底しながら、慎重に検討をしていきたいと思えます。

12 防災訓練について 就労継続支援B型事業と同様

(1) 防災訓練

第1回目

- ・実施日：令和2年4月24日(金) 13:00~13:15
- ・参加者：所員11名 職員4名 計15名
- ・内容：避難訓練。厨房ガスコンロから火災が発生したと想定して避難訓練を行いました。
- ・反省点：実際に火災が起きたときには、発生時点で誘導することとなります。次回の訓練では、火災が起きた時点で避難を誘導する、というやり方で行うようにしたいと

思います。腰を低くし、ハンカチや裾などを口元にあてるということができていない所員もいたため、次回は事前にその大切さ等もレクチャーもしてから行うようにします。

第2回目

- ・実施日：令和2年12月29日(火) 13:00～13:15
- ・参加者：所員10名 職員6名 計16名
- ・内容：避難訓練。厨房内の洗浄機から火災が発生したと想定して避難訓練を行いました。
- ・反省点：今回は前回の変更点として、「初期消火の段階で、119番通報(仮定)と避難誘導」を行いました。また、前回の火災発生元はガスコンロだったが、今回は洗浄機としました。事前に避難のレクチャーもしたため避難も順調でした。

(2) 消防設備点検

毎月実施しました。業者による総合点検として年に2回(令和2年4月及び10月)実施しました。

(3) その他

- ・職員緊急連絡網の作成及び配布。
- ・消火器、非常警報装置、誘導灯、火災探知報知機の設置場所等を確認。

13 地域との協働について 就労継続支援B型事業と同様

- ・見学や研修を受け入れました。
(特別支援学校等の先生及び生徒、保護者、民生委員、社協関係者、他事業所等)
- ・地域の諸団体等との連携を図っていますが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、様々なイベントが中止となりました。
(長野市障害ふくしねっと、長野県セルフセンター協議会、若穂住民自治協議会、長野市商工会若穂支部等)

14 職員研修について 就労継続支援B型事業と同様

- ・ケア会議や職員会議を定期的実施し、日常業務の情報交換や支援や作業における知識及び技術の研鑽に努めました。
- ・サービス管理責任者更新研修はリモート研修になりました。知識や技術の向上に努めました。

15 職員体制について

所長	1名
サービス管理責任者	1名
職業指導員	1名
生活支援員	2名
賃金向上達成指導員	2名
看護師(嘱託)	1名
医師(嘱託)	1名

就労継続支援 B 型援事業

1 所員の内訳

- (1) 登録者数 6名 (令和3年3月31日現在)
- (2) 市町村別 長野市 6名
- (3) 男女別 男性2名・女性4名
- (4) 年齢 平均48.2歳(令和2年度末)
- (5) 障がい種別 知的障がい者 4名
精神障がい者 2名

2 通所方法

- (1) 徒歩または自転車 4名
- (2) バイクまたは車(本人運転による) 0名
- (3) 公共交通機関利用 1名
- (4) 送迎(アトリエ CoCo・グループホーム) 1名
- (5) 家族による送迎 0名

3 日課について

8:15 ~ 12:00まで	朝会 作業
12:00 ~ 13:00まで	お昼 休憩
13:00 ~ 15:00まで	作業 掃除 帰りの会等
15:00	帰宅

利用者の体調や事情等によっては、個別に時間の調整をしています。

土または日曜日は、作業状況や活動内容によって様々に設定しました。

4 通所状況

通所実態(通所率)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
85.5%	98.1%	96.4%	87.0%	75.0%	90.9%	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
93.6%	90.5%	86.2%	85.7%	63.3%	97.1%	75.4%

5 個別支援計画 就労継続支援 A 型事業と同様

個別支援計画では、本人や家族との面談や、関わってきた関係者等を含めた会議を開くなどして、アセスメントを行い、本人のそれまでの歩みや、得意なことや苦手なこと、行動や日常生活上等で配慮すること等々を確認し、本人の願いをベースにして個別支援計画を作成しました。特に本人の願いを重視して、面談をする中で願いやニーズ把握するように努めました。

さらには、面談日以外にも、適時に相談を受け、困っていることや頑張りたいことを聞き、そこからニーズを拾って作成をするようにしました。もし、生活の面などの困り感や希望があった時には、他の機関と連絡をとり繋げるようにし、個別支援計画の目標として取り組めるものは入れるようにしました。

そして、6カ月ごとに1回の見直しを行いました。来年度も、本人の願いをベースに、より良い支援に繋がるように計画的に面談等を行い、定期的に支援計画を作成していきたいと思ひます。

6 就労活動について 就労継続支援 A 型事業と同様

【 お弁当製造、販売、配達作業 】

(1) 作業実績及び作業風景等

各所員が意欲的に作業に就いていました。目標を持って作業に取り組み、任されたことは責任を持って行い、分からないことは職員に聞きながら、働くことの楽しさや厳しさ、やり終えた達成感や喜びを感じられていると思ひます。また、身支度や食品に携わる際の衛生管理や、盛り付けのときの技術や目配り（おかずが決められた所に確実に適量入れられたなど）確認を取りながら進めています。配達の際は、身支度に気をつけ、お客様に挨拶をすることや走らず慌てないよう落ち着いて作業できるように声掛けしています。

平日の昼食を主に、平均 180 食のお弁当を作り配達しております。法人内の 6 箇所の事業所の昼食の提供も行っており、食数は 180 食位です。

児童発達支援センター「にじいろキッズらいふ」より受けている業務委託は継続して運営しており、A 型利用者 1 名及び職員 2 名で対応しています。平均 60 食程度及びおやつ 35 食程度の数を提供し、稼働日数は年間でにじいろキッズらいふが開所する約 220 日でした。前日に食材を納品して、当日現場にて調理、配膳、食器の洗浄、おやつ提供、翌日の食器の準備などの作業をしています。

安心・安全な食材を吟味し、野菜が豊富で手作り感のあるおいしい弁当をお届けできるよう日々努めています。

(2) 評価及び課題等

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大により、多くのイベントが中止になったため、特注弁当や美替わり弁当の注文数がかなり減ってしまいました。新規受注の増加やリピーター増加につながるようなメニュー構成や、味付け、盛り付けの工夫など課題はまだありますが、食中毒などの事故が無いよう細心の注意と心構えで毎日の作業に取り組んでいきたいと思ひます。

今後も、安心・安全・美味しい食を追求し、所員・職員一丸となって着実に成果を上げられるようにひとつずつ丁寧に対応していきたいと思ひます。

【 工賃額について 】

月	平均月額工賃額	月	平均月額工賃額
4月	18,105 円	10月	22,777 円
5月	15,306 円	11月	20,350 円
6月	21,836 円	12月	23,980 円
7月	21,200 円	1月	21,830 円
8月	16,811 円	2月	18,153 円
9月	20,935 円	3月	34,306 円

平均月額工賃額 21,282 円 (時給換算 265 円) 支払い総額 1,319,462 円

7 カルチャー・衛生講習 就労継続支援 A 型事業と同様

(1) 実施日、実施内容、参加者数等

日付	実施タイトル	参加者数
実施した内容		
5/21(木)	熱中症予防・対策について	9名
熱中症にならないために予防策の周知を図る。		
6/18(木)	新型コロナウイルス感染予防について	10名
新型コロナウイルス感染状況の説明、及び予防対策について、再度、話をする。 手洗いうがい・マスク着用・アルコール消毒等を促し、3密防止等の説明をする。		
7/16(木)	熱中症予防・対策について	8名
配達担当・厨房担当、それぞれの業務中に気をつけることについて話し合う。暑さで体力・気力とも消耗しているので、仕事に支障が出ないように体調管理に気をつける。		
8/20(木)	新型コロナウイルス感染予防について	9名
新型コロナウイルス感染状況の説明、及び予防対策について説明。 手洗いうがい・マスク着用・アルコール消毒等を促し、徹底するよう話をする。		
9/18(金)	消費者被害防止見守りネット情報	9名
長野市消費者センターからメールで送られてくる消費者被害の情報を提供。 身近なところで起きている特殊詐欺や、電話での勧誘等について説明する。		
10/23(金)	インフルエンザ予防・対策について	10名
インフルエンザの予防接種のよびかけ。また、もしかかった場合の説明。外出する時にはマスクの着用。年末年始などでかけることも増えてくるので、人混みに行くときには特に注意をする。		
11/20(木)	栄養士による衛生指導	8名
食品を扱う仕事のため、衛生面について栄養士から説明。 手洗い・うがいなどの行い方についてあらためて説明し、徹底して行うよう促す。		
12/25(水)	防災について	13名
前年秋の台風被害について話しをし、避難経路などの説明をした。		
1/23(木)	新型コロナウイルス感染予防について	10名
新型コロナウイルス感染状況の説明、及び予防対策についての話をする。 手洗いうがい・マスク着用・アルコール消毒等を促し、3密防止等の説明をする。		
3/11(木)	消費者被害防止見守りネット情報	8名
長野市消費者センターからメールで送られてくる消費者被害の情報を提供。 身近なところで起きている特殊詐欺や、電話での勧誘等について説明する。		

(2) カルチャー・衛生指導のねらいについて

順調に働き続けていくために、また日常生活を安心して送っていくために、知っておくべき知識や取り組むべき行動等についての学びの時間として行いました。職員が所員から受ける相談ごとや仕事への取り組み方等から課題を拾い上げ、資料を参考にして伝えるようにしました。

今回は、長野市消費者センターよりメールで送られてくる、詐欺被害等の情報を提供する機会を設けました。身近なところで起きている詐欺被害等に注意するように呼びかけ、家庭でも被害にあわないように、話し合う時間を設けてほしい事をお伝えしました。また、今年も新型コロナウイルス感染予防について、再度確認し徹底するよう説明をしました。来年度も所員の日頃の様子から、大事だと思われるものを学びとして取り上げながら行ってきたいと思います。

(3) 評価及び課題等について

実施頻度について

月に1回、木曜日に行いました。所外実習や衛生講習・健康相談といった他の活動もあり、月1回程度が妥当だと思われます。カルチャーの予定日に作業が忙しかったり、職員の配置がうまくできなかつたりと実施できない時もありましたが、その場合には翌週に行うようにしました。

実施内容について

熱中症予防・対策、インフルエンザやノロウイルスに対する予防・対策、新型コロナウイルス感染防止を徹底するための注意喚起に努め、それぞれ感染者が一人も出なかったことが結果につながっています。

新たに、長野市消費者センターよりメールで送られてくる、詐欺被害等の情報を提供する機会を設け、身近なところで起きている詐欺被害等について説明をし、家庭でも被害にあわないように十分注意をするように呼びかけました。

参加者について

所員全員参加をめざして行ったが、当日休みの所員や、洗浄の作業などをしていて、参加できない所員がいます。皆がそろうのは難しいですが、そのような場合には必ず後で個別に行うようにしました。

来年度について

来年度も同様の目的で実施して行ってきたいと思います。内容については、所員の希望を聞いたり、職員側で必要と思われるものを考えたりしながら行って行ってきたいと思います。

8 QOL 活動 就労継続支援 A 型事業と同様

(2) QOL 実施内容

月日	企画名	参加者
6/13(土)	ピザ屋 ねこポポでお食事会	6名
11/7(土)	アートカフェ展&お食事会	6名

(2) QOL 活動のねらいについて

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大により、QOL 活動がほとんど企画することができず、緊急事態宣言が解除された機会をみて、計画できたのは2回だけになってしまいました。

た。

(3) 評価及び課題等

実施内容について

今年度も新型コロナウイルス感染拡大により、イベントが中止となることが多く、希望に添える企画が少なくなっていました。緊急事態宣言が解除された一時に企画できた2回の活動は楽しめたのではないかと感じています。

実施頻度について

新型コロナウイルス感染防止のため自粛を余儀なくされ、出かけることが困難になってしまいました。新型コロナウイルス感染が早く収束することを願いつつ、計画を立てていきたいと思えます。

参加者数について

時間的・金銭的に厳しいという理由により参加しない所員もあり、できるだけお金がかからない企画を考えていきたいと思えます。

来年度について

QOL活動再開を皆さん心待ちにしています。非常事態宣言が解除され、自粛しなくてもよくなったら、皆さんの意見を取り入れて計画していきたいと思えます。スポーツやカラオケ等でリフレッシュできるものや教養を深めるもの、所員同士の親睦を深めるための親睦会等、できるだけ多岐にわたって実施していきたいと思えます。

9 保健衛生について 就労継続支援A型事業と同様

(1) 健康診断について

- 2回実施 -

第1回目

- ・日時 : 令和2年10月15日(木) 13:30~17:00
令和2年10月29日(木) 13:30~17:00
- ・実施(依頼)機関 : (特非)メディカルチェック
- ・実施内容 : 身長・体重測定、血圧測定、尿検査、視力検査、胸部レントゲン、聴力検査(対象者のみ)、血液検査(対象者のみ)、心電図(対象者のみ)、医師による触診及び問診
- ・受信者数 : 19名

第2回目

- ・日時 : 令和2年12月8日(火)及び12月9日(水)
- ・実施(依頼)機関 : 立岩内科小児科医院 立岩孝之医師
- ・実施内容 : 触診及び問診
- ・受診者数 : 12名受診

その他

第1回目の診断結果が出来次第、データを立岩Dr.と看護師にお渡しして、ご意見・ご指導を頂きました。頂いたご意見・ご指導は面談や健康相談を通じてご本人達に伝えました。

(2) 健康相談について

三木看護師(嘱託)により、月に2回程度(水曜日) 1人20分程度かけて行いました。

月	回数	延相談者数	月	回数	延相談者数
4月	2回	14名	10月	2回	14名
5月	2回	15名	11月	0回	0名
6月	1回	7名	12月	1回	6名
7月	1回	8名	1月	2回	12名
8月	2回	13名	2月	2回	13名
9月	1回	6名	3月	2回	14名
実施回数 18回			延相談者数 122名		

(3) 肥満対策について

12月の健康診断において肥満状態にある所員が4名。肥満に関しては自覚をしているようですが、自宅での食事量や間食の自己管理が難しいと思われます。キッチン CoCo にて提供している昼食はおかずやごはんの量が決まっているので食べ過ぎるということはないのですが、家庭等での食事量が多かったり、間食もとったりするため生活全般的に多めの様です。日常的に適切な量と内容の食事をとるように意識を持っていただきたいと思います。職員側からの意識付け等の働きかけはこれからも必要であり、面談や健康相談等を通してこれからも働きかけをしていきたいと思います。

(4) 血圧について

- ・毎月の健康相談にて、血圧測定を実施しました。数名の所員は測定日によっては血圧が高い時もありますが、常時ではないので様子を見ています。
- ・年間を通して低血圧傾向にある所員が1名いますが、三木看護師からは、日常生活に支障はないとの話があり様子を見ています。

(5) 救急箱について

風邪薬、胃腸薬、鼻炎、痛み止め等の経口薬、及び消毒液、絆創膏、湿布、目薬等、かゆみ止め並びに体温計を整えています。施設の衛生管理上、手の傷を露出しないよう絆創膏が使われることが多かったです。一部の風邪薬や目薬・湿布薬などのように全く使用しない薬もありました。

(6) 服薬支援について

個別に服薬支援を行っている所員が2名います。頭痛によるかかりつけ医より痛み止め、精神安定剤等の頓服薬を処方されています。頭痛のとんぷく薬の保管は職員が行い、症状や服薬希望の訴えがあったときには様子を見て渡す等の服薬支援を行いました。

(7) 「傷病記録」について

服薬、静養等の場合、必要な情報はケース記録に残しその都度支援を行いました。

(8) 嘱託の医師と看護師との連携について

今年度も2回、立岩医師による健康診断を、そして、三木看護師による健康相談を基本的に

月2回実施しました。

健康診断については第1回目の健康診断の結果のデータを立岩医師と三木看護師にお渡し、診断結果に応じて、必要な場合には各所員個別に指導及び助言等をいただきました。また日常の情報交換や共有を通して、所員個別の健康状態や対応等について指導や助言をいただき、所員の健康管理支援や日常や年度等の健康衛生活動の取り組みにつなげています。

(9) 個別の健康情報について

精神的な疾患を持ち、メンタル面での配慮や支援を必要とする所員が増えてきています。基本的には年間を通して継続して安定している所員が多い中、時期や状況によって、感情的に不安定な状態になり、躁鬱等のそれぞれが抱えている症状が出てきて、困ったり苦しんだりする様子も伺えます。所員の状態を日常的にしっかりと把握をし、また休んでいるときも電話や訪問等を行って連絡をとり、状態の確認と把握を行っています。そのうえで、必要な支援を行い、そして当事業所のスタッフ間でも所員個人の基本的な情報と日々における状態について情報共有を行い、事業所スタッフ全員で連携して支援にあたっています。

(10) 衛生講習について

作業及び日常生活での衛生意識の向上を目的として、その都度職員による衛生講習を行いました。(インフルエンザ予防・ノロウイルス予防・熱中症予防・新型コロナウイルス感染予防等)

(11) 清掃について

清掃については、所員によってそれぞれに応じた支援を受けながら、作業室や生活区域のスペースを担当場所ごとに行いました。特に作業室は、お弁当を作っている箇所であり、常に衛生面を意識して丁寧にしっかりと行いました。

(12) その他

毎日の朝会において、爪・手指の傷・身だしなみとともに健康状態の確認を行いました。毎日、通所して来た際も含めて外から帰ってきた時には、インフルエンザ・風邪の予防も含めて、日常的に手洗い及びうがい液でのうがいを行いました。今年度インフルエンザに罹った方はいませんでした。

ノロウイルスやインフルエンザが流行る時期には、朝会や衛生講習等で予防及び対処法について触れ、また予防及び対処マニュアルを配布して衛生の徹底に努めました。特に11月にはインフルエンザの予防接種の呼びかけをし、アトリエCoCoにて嘱託医である立岩先生に、インフルエンザの予防接種を実施していただきました。多くが予防接種を受けましたが、経済的に余裕がなかったり、以前に予防接種を受けた際体調を壊した等、個人個人の事情により接種されない方もいましたが、来年度も呼びかけはしていきたいと思えます。

10 給食について 就労継続支援A型事業と同様

- ・給食を楽しみに通所する所員が多いです。内容は、日替わり弁当とほぼ同じメニューで提供をしています。自分たちが、仕込み・盛り付けをした弁当が商品としてお客様に届くというのは、所員たちのやりがいやモチベーションのアップにつながっている様に感じます。
- ・給食検討会にて、給食に関する情報交換及び共有を行い課題検討を行いました。嗜好調査や

アレルギー等のアンケートをとり、必要に応じて対応をしてきました。嗜好による配慮は行いましたが、アレルギー対応の所員はいませんでした。1名、生卵のアレルギーがある方がいますが、生玉子を提供することはありません。

11 旅行について 就労継続支援 A 型事業と同様

(1) 実施内容等

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、家族旅行は中止となりました。

《評価及び課題》

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、家族旅行は中止しました。

来年度は未定ですが、感染防止対策を徹底しながら、慎重に検討をしていきたいと思いをします。

12 防災訓練について 就労継続支援 B 型事業と同様

(1) 防災訓練

第1回目

- ・実施日：令和2年4月24日(金) 13:00～13:15
- ・参加者：所員11名 職員4名 計15名
- ・内容：避難訓練。厨房ガスコンロから火災が発生したと想定して避難訓練を行いました。
- ・反省点：実際に火災が起きたときには、発生時点で誘導することとなります。次回の訓練では、火災が起きた時点で避難を誘導する、というやり方で行うようにしたいと思いをします。腰を低くし、ハンカチや裾などを口元にあてるということができていない所員もいたため、今回は事前にその大切さ等もレクチャーもしてから行うようにします。

第2回目

- ・実施日：令和2年12月29日(火) 13:00～13:15
- ・参加者：所員10名 職員6名 計16名
- ・内容：避難訓練。厨房内の洗浄機から火災が発生したと想定して避難訓練を行いました。
- ・反省点：今回は前回の変更点として、「初期消火の段階で、119番通報(仮定)と避難誘導」を行いました。また、前回の火災発生元はガスコンロだったが、今回は洗浄機としました。事前に避難のレクチャーもしたため避難も順調でした。

(3) 消防設備点検

毎月実施しました。業者による総合点検として年に2回(令和2年4月及び10月)実施しました。

(3) その他

- ・職員緊急連絡網の作成及び配布。
- ・消火器、非常警報装置、誘導灯、火災探知報知機の設置場所等を確認。

13 地域との協働について 就労継続支援 B 型事業と同様

- ・見学や研修を受け入れました。

(特別支援学校等の先生及び生徒、保護者、民生委員、社協関係者、他事業所等)

- ・地域の諸団体等との連携を図っていますが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、

様々なイベントが中止となりました。

(長野市障害ふくしねっと、長野県セルフセンター協議会、若穂住民自治協議会、長野市商工会若穂支部等)

14 職員研修について 就労継続支援 B 型事業と同様

- ・ケア会議や職員会議を定期的実施し、日常業務の情報交換や支援や作業における知識及び技術の研鑽に努めました。
- ・サービス管理責任者更新研修はリモート研修になりました。知識や技術の向上に努めました。

15 職員体制について

所長	1名
サービス管理責任者	1名
職業指導員	2名
生活支援員	1名
目標工賃達成指導員	2名
看護師(嘱託)	1名
医師(嘱託)	1名

相談支援事業(計画相談)

令和2年12月末にてキッチン CoCo の相談支援事業は終了いたしました。

第2種社会福祉事業 障がい福祉サービス事業
多機能型（ 就労継続B型 就労移行 ）

CoCoJAVJAV（主）・BakeryCoCo（従）

一年を通し、新型コロナウイルス感染予防への対応に終始することとなりましたが、CoCoJAVJAV、BakeryCoCoともに皆さんにご協力をいただきながら、活動を進められたことが大変ありがたいです。

特に BakeryCoCo は店舗の営業方法から対応に追われました。飛沫防止のビニールカーテンの設置をはじめ、パンを個包装することからイートインの中止など、店舗営業について試行錯誤しました。外販が中止となったときもありましたが、法人内の事業所より注文販売などのご支援や様々なご協力をいただいたおかげで、影響部分をカバーする以上の力をお借りしました。また、地域の飲食店応援企画等に参加させていただくなど、地域の力も活用させていただきながら営業した一年となりました。

これからも、皆さんの元気と笑顔を大切に、進めて参ります。

利用者の推移

就労移行支援

令和 2年 9月 1名 入所 ……在籍者数 1名
総在籍者数 1名（令和3年3月末）
別途：就労アセスメントのための就労移行利用者数・・令和 2年 4月 1名
令和 2年 5月 1名

就労継続B型支援

令和 2年 4月 1名 就労移行支援事業より移行入所
1名 就労アセスメントより入所 ……在籍者数38名
7月 3名 入所
2名 退所 ……在籍者数39名
9月 1名 退所 ……在籍者数38名
11月 1名 退所 ……在籍者数37名
12月 1名 入所
1名 退所 ……在籍者数37名
令和 3年 2月 1名 入所
3名 退所 ……在籍者数35名
総在籍者数35名（令和3年3月末）

就労移行支援事業

1 所員の内訳（令和3年3月末）

- （1）出身市町村： 長野市 1名
- （2）性別： 男性 1名 / 女性 0名
- （3）年齢層： 40代 1名

(4) 障がい種別： 精神障がい1名

2 通所方法

(1) 徒歩及び自転車等 1名

(2) 公共交通機関(バス・電車) 0名

(3) 家族による送迎 0名

3 日課について

時間	内容
9:00 ~ 9:15	朝礼・ラジオ体操
9:15 ~ 10:30	作業
10:30 ~ 10:40	午前休憩
10:40 ~ 12:00	作業
12:00 ~ 13:00	昼食休憩
13:00 ~ 14:30	作業
14:30 ~ 14:50	午後休憩
14:50 ~ 15:45	作業
15:45 ~ 15:55	掃除
15:55 ~ 16:00	着替え・帰りの会

月曜日から金曜日を開所とし、土・日曜日は休みとする。土・日曜日に行事等がある場合は開所とする。

4 通所状況

通所実態(通所率)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	年平均 48.2%
- %	- %	- %	- %	- %	36.3%	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
40.9%	43.4%	60.0%	60.0%	45.0%	52.1%	

5 個別支援計画について

就労訓練においてはどのような作業をしていきたいか、どのような活動をしたいかなど面談を踏まえ、目標設定をしている。目標についてはまとめをして評価し、その後の方向性を決めていくようにする。利用者、ご家族の意向と希望をお聞きし、また、こちらからも提案をするなかで日々の生活が充実していかれるように支援を行う。

6 就労活動について

平均工賃

月	平均工賃月額	月	平均工賃月額
4月	- 円	10月	2,880 円
5月	- 円	11月	5,440 円
6月	- 円	12月	5,100 円
7月	- 円	1月	7,480 円

8月	- 円	2月	5,780 円
9月	2,560 円	3月	12,200 円
平均工賃額 5,920 円			

【 クリーニング 】

《 作業内容 》

- ・日帰り温泉施設、ホテル、美容室等のタオル類の水洗いきリーニングを行う

客先数：14件

アイテム品：BT・FT・BM・サウナマット・スリッパ

- ・高齢者施設利用者の私物品ネットクリーニング

客先数：9件

《 全体として 》

- ・コロナ禍により昨年度よりも年度当初は50%近く落ち込み、7月ごろより75%、その後は85%ほどで推移した。
- ・4月～11月の間は、私物品ネットクリーニングを受注するなどし、作業量の確保に努めた。また、タオル類の客先を2件増やした。(受注減の部分に補充するかたちで)

《 就労訓練 》

- ・クリーニング作業においても、様々なことに携われるように支援を行った。
- ・コロナ禍により作業量の確保が課題となるなかで、作業ではないことについても活動として取り込みながら、日課を立てていった。

【 施設外就労 】

『 長野リネンサプライ(株) 』

《 作業内容 》

- ・電車車両の座席カバー一部の仕上げ補助
- ・月・火・木・金曜日の午前：所員3名、職員1名

《 全体として 》

- ・単調作業の繰り返しなので、分かりやすい作業内容である。
- ・一般就労を目指す方の第一歩として活動できるようにする。

【 一般ドライクリーニング 】

《 作業内容 》

一般のお客様のドライクリーニングの受付、または配達

《 全体として 》

- ・コロナの影響があり、年度前半は利用が少なく、後半のほうがお客様はいらしたが年間を通して減少した。
- ・ドライクリーニングから布団クリーニングまで、いわゆる一般の方のクリーニング店として営業、受付を行い、お客様は法人関係者やご近所の方が主である。
- ・官公庁においては優先調達法の関係から利用があり、回収納品をしている。カーテンクリーニング受注が大半であった。

7 QOL 活動について

活動日・活動内容・参加者数

- ・主な活動は中止となった。

8 カルチャー

活動日・活動内容

月	日	曜日	内 容
8	19	水	涼む会
9	30	水	クイズ大会
10	30	金	ハロウィン
12	16	水	クリスマス会
	29	火	仕事納めの会
1	4	月	仕事始めの会

- ・上記のとおり実施
- ・飲食を伴わず、ソーシャルディスタンスを保てるよう配慮して進めた。

9 保健衛生について

《 健康相談 》

実施日：毎月第1火曜日、第3水曜日の9時より

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日	9	14	11	9	7	10	8	12	10	11	12	10
	24	22	26	24	28	25	23	27	25	22	26	25

看護師：富田看護師

内 容：体重・血圧測定、日頃の健康や生活の相談

○血圧測定について

- ・健康相談時の血圧測定にて、再測定者が4～5人のときがある（30歳代の方も含まれる）
- ・高血圧症の診断を受け、治療中の利用者もいる。
- ・食事の味付けについてその都度確認している。
- ・高血圧症予備群として、対応させていただいている状況。

○相談事項について

- ・日常生活全般のこと、健診結果等に対し、対応に苦慮することある。
- ・身体に関する経過報告は可能である。対策等の説明時には頷いて意思確認はできるが、実践することは難しい様子。
- ・検診結果の意思コメントに合わせ、説明をプラスしているが、次回の確認ではかわされてしまうこともある。
- ・ダイエットで目標設定し努力している利用者にも、基本方法や理解しやすいように、実践しやすいように説明をしているが結果が出にくい。
- ・利用者の方の思いも念頭に入れ、確認を繰り返したり、同じ説明をするなどして実践している。

○「集団生活」における利用者各自の意識UPについて

- ・年間を通し「手洗い、うがい」の励行、指導

- ・夏季における「熱中症」予防と指導
 - ・「体力維持」のための生活指導
 - ・利用者からの質問や確認事項等に基づく個別指導
 - ・“わかる！”、“やってるよ！”等のうれしい反応が聞かれ、「繰り返し作戦」続行中である
- 《 健康診断 》

令和2年10月15日(木) 特定非営利活動法人メディカルチェックによる健康診断

10月29日(木) ”

令和2年12月 8日(火) 嘱託医立岩先生による健康診断結果の問診

12月 9日(水) ”

健康診断の結果より

- ・有所見者 76.7% (利用者、職員含む)
- (うち、男性 37.3% 女性 39.5%)
- (BMI が 57.2%、血中脂質が 83.4%、糖代謝が 50%を占めている)
- ・健康相談において、健康診断の結果をもとに対応していただいている。

《 保健総括 》

令和3年 3月10日(火)・アトリエ CoCo 食堂

- ・嘱託医立岩先生、アトリエ CoCo・キッチン CoCo・アートカフェ CoCo と共同

《 感染症対策 》

・新型コロナウイルス対策を講じ、施設内に持ち込まない、という意識のもと、対策を継続している。

・インフルエンザ予防について、今年度もアトリエでの予防接種の希望を伺い、11月4日(水)に開催した。

《 家庭との連携 》

・健康相談や健康診断での結果等について、必要なことを家庭へ報告し連携が取れるようにしている。

・服薬されている方は、処方箋の写しを頂いている。

・頓服や頭痛薬などの薬については、必要な方はお預かりし管理している。

《 熱中症予防について 》

・気温や天気を確認しながら熱中症予防飴や塩飴の配布、冷蔵庫で冷やしたタオルを午前、午後と数回ずつ配布、また水分補給はこまめに行うようにした。

特に洗い場においては、こまめに休憩を設けている。

《 常備薬について 》

・常備薬については、急な体調不良への対応(腹痛、胃腸薬、風邪薬)、個人で服薬をしている利用者へは、その薬と常備薬とを確認し、場合によっては常備薬の服薬を避けていただいている。

10 給食の提供

・希望者に給食を提供(キッチン CoCo より提供)

・各種、季節のカルチャーに合わせたメニューの提供。

・コロナ対策として、食事開始時間をずらすこと、対面にならないよう席の変更や次皿塩素酸水

の設置、食事以外はマスクを外さない等の対応をしている。

11 防災訓練・安全について

- ・ 消防計画、自衛消防団の編成、職員緊急連絡網の作成（変更作成）
- ・ JAV & Bakery 緊急避難場所：信州大学工学部グラウンド
- ・ 地震や災害について朝礼で話をするときには、通所時に緊急避難する場所についての確認を行い「家に帰ったら、家族へも緊急避難先がどこなのか話をするように」と、その都度、話をしている。

防災訓練

- ・ 防災グッズ、救急セット、防災ヘルメットを用意し、訓練の際に使用した。
- ・ 地震発生時における避難方法について訓練する。
- ・ 令和2年9月3日（木）避難訓練

消防設備点検

- ・ 毎月実施
- ・ 総合点検：年2回、令和2年4月16日・令和2年10月6日実施、三益消防機材(株)へ依頼

AEDの設置

- ・ 緊急時の対応として設置をしている。
- ・ AED取扱いを玄関へも表示し、近隣地域への協力体制も取れるようにしている。（犀川河川敷でのスポーツ活動もあり、緊急時の利用も考えられる）

防犯カメラの設置

- ・ 危機管理の面から、防犯カメラの設置を行い、駐車場入り口やその周辺から建物裏側までを覆う形で設置とした。
- ・ 所員、職員の安心安全を守ることはもちろんのこと、地域の安心安全へもつながっている。

12 地域との協働について

養護学校等の実習生受入れ

月	人数	学校名
11	1名	長野養護
1	1名	信大付属
2	1名	長野養護

- ・ 養護学校の実習生受入れでは、複数名の実習生がいるときには一定期間に集中しないよう各学校へ依頼し予定を組んで頂いている。実習期間はそれぞれの生徒に合わせている。

見学者

月	日にち（人数）		人数計
6	10日（3名）	11日（5名）	8名
7	29日（3名）		3名
8	5日（3名）	26日（2名）	5名
9	25日（2名）		2名
10	16日（3名）	21日（3名） 27日（2名）	8名

1 1	4日(1名) 5日(5名) 18日(2名) 20日(3名)	11名
1 2	8日(3名)	3名
3	4日(2名) 18日(1名) 30日(4名)	7名

・見学には、ケアプランナー等の各関係機関からの見学者も含む。

・見学は随時行っており、事業所内を案内し、質問等を受けている。体験については見学の後に検討していただき、後日、体験日を設けている。

その他

- ・長野市障害ふくしネット(かつどう部会執行部)
- ・地域の諸団体等と連携を行い、様々な地域ネットワーク等に積極的に参加。

13 職員研修について

- ・朝の職員ミーティング時において職員間の情報の周知、職員会議による学び
- ・職員会議での資料として、福祉情報や実践報告などの資料の読み合わせをした。

職員研修

月	日	曜日	内容	氏名
9	9	水	障がい者相談支援従事者現任研修(他ネット講習)	高波
10	7	水	〃	〃
	28	水	〃	〃
	30	金	長野市虐待防止研修	高波

14 家族会について

・アトリエ CoCo・キッチン CoCo と共に「CoCo 家族会ながの」として組織、事務局をアトリエ CoCo におく。

- ・総 会 : 中止
- ・家族のつどい: 中止
- ・役員会 : 年2回

15 職員体制について

所長(サービス管理責任者)1名 就労支援員1名 職業指導員1名
生活支援員1名 看護師(嘱託)1名 医師(嘱託)1名

就労継続 B 型支援事業

1 利用者の内訳(令和3年3月末)

- (1) 現住所 : 長野市 37名
- (2) 性別 : 男性16名/女性21名
- (3) 年齢層 : 19歳~65歳
- (4) 障がい種別: 知的障がい24名 精神障がい12名 身体障がい1名

2 通所方法(重複あり)

- (1) 徒歩及び自転車(自動車) 15名
- (2) 公共交通機関(バス・電車) 13名

(3) 家族の送迎

9名

3 日課について

時間	内容
9:00 ~ 9:15	朝礼・ラジオ体操
9:15 ~ 10:30	作業
10:30 ~ 10:40	午前休憩
10:40 ~ 12:00	作業
12:00 ~ 13:00	昼食休憩
13:00 ~ 14:30	作業
14:30 ~ 14:50	午後休憩
14:50 ~ 15:45	作業
15:45 ~ 15:55	掃除
15:55 ~ 16:00	着替え・帰りの会

CoCoJAVJAV：月曜日から金曜日を開所とし、土・日曜日は休みとする。土・日曜日に行事等がある場合は開所とする。祝日は自由通所日。

BakeryCoCo：火曜日から土曜日を開所とし、日・月曜日は休みとする。日・月曜日に行事等がある場合は開所とする。祝日は自由通所日。

4 通所状況

通所実態（通所率）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	年平均 59.4%
63.3%	62.2%	65.0%	56.3%	55.4%	59.9%	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
59.9%	57.8%	57.3%	59.4%	56.1%	60.7%	

5 個別支援計画

就労移行支援事業と同様

6 就労活動について

平均工賃

月	平均工賃月額	月	平均工賃月額
4月	4,914円	10月	8,982円
5月	3,606円	11月	11,276円
6月	6,082円	12月	9,375円
7月	7,755円	1月	9,566円
8月	7,955円	2月	8,827円
9月	9,236円	3月	15,130円
平均工賃額 8,558円			

【 クリーニング 】

就労移行支援事業と同様

【 パンの製造・販売 】

《 作業内容 》

・コロナ予防対策により、イトインの中止、外販の中止や最小人数で販売に行くなどの対応を行った。

・法人内の事業所の力を借り、少しでも販売先の確保ができるようにと協力をいただいた。地域での注文販売先を一から作っていただいたり、外販をしていただいたりとロスが減り、収入増となるよう配慮をいただいたおかげで、昨年比より収入増となった。

・コロナ禍において、綿半ホールディングスの県下飲食店応援として綿半店舗内外にて販売ができるということで応募し、綿半若里店にお世話になった。敷地内に机を設置し手売り販売をすることや、店舗内に委託販売をさせていただくなど販売先の確保ができ、ベーカリー店舗での販売減の部分を補う以上の収益となった。

就労訓練

・コロナ対策により、皆の安全確保のため外販へは職員1名のみで行うことや、イトインの中止、ビニールカーテンの設置などを行い、営業を続けた。

・健康チェックはこれまでも行っていたので、引き続き、感染防止を含めた保健衛生を保てるよう支援を継続した。

7 QOL 活動について

就労移行支援事業と同様

8 カルチャー

就労移行支援事業と同様

9 保健衛生について

就労移行支援事業と同様

10 給食の提供

就労移行支援事業と同様

11 防災訓練・安全について

就労移行支援事業と同様

12 地域との協働について

就労移行支援事業と同様

13 職員研修について

就労移行支援事業と同様

14 家族会について

就労移行支援事業と同様

15 職員体制について

所長（サービス管理責任者）1名 職業指導員 2名 生活支援員 3名

目標工賃達成指導員 2名 看護師（嘱託）1名 医師（嘱託）1名

地域活動支援センター事業 型（「BakeryCoCo」併設型）
Café CoCo

1 登録利用者数

登録者数：155名（令和3年3月末）

2 開所状況

開所時間：9：30～17：30

開所日数：年間延べ 249日

火曜日から土曜日を開所とし、日・月曜日・休みとする。祝日は不定休にし、利用者がカフェスペースで過ごせる開放日とする。

3 日中活動について

カレンダー教室

月1回開催し、四季に合わせたテーマで手作りのカレンダーを作成する。コロナにより飲食を伴うイベントは中止とし、サンドイッチ教室の代替えとして、カレンダー教室を開催。折り紙、画用紙の種類を自分で選択し、オリジナルの作品を作成するようにした。

CoCo 健康部

季節に流行る病気のこと、タイムリーなテーマを選び健康について講義や話し合いをする。クイズ形式にしたり、自分で考える時間を設けたり進行方法も変えて実施するなど興味を持てるように工夫して開催することが出来た。コロナについての最新情報や、予防の知識や心が沈まないような心の健康を盛り込んだ。

話の終わりには、毎回ぬりえの時間を設けているが、定着することができ、また皆で話をしながら、交流を深める時間になっている。

若里さんば

外食イベントを中止し、コロナ感染が落ち着いてきたため、3密を避け、運動不足解消、屋外での気分転換を目的に開催。30分程度の歩行ができる。解除後の企画で、散歩、おやつ、水分補給を楽しくできた。

各手作り教室

コロナのため外部講師の活動が出来なかったが、手作りマグネット教室、絵てがみ教室、飾り物、うちわ、風鈴づくりを楽しむことができた。人数が増えるときは、2回に分けて3密回避して実施した。家庭に持ち帰って使えるものを作る事ができた。

CoCo 運動部

健康運動士による体操教室を開催。座ったままで普段着で出来ることから、運動が苦手な方も、進行に遅れることなくできた。無理な運動ではなく、静的な動きで、血行を促す運動を学ぶことが出来た。

祝日開放日

3～5人の利用者が以下のようなニーズのもと来所されていた。

- ・自身で、読書、かきもの、絵画、書類、パソコンを持ち込んで、作業される方
- ・なんとなく、いる場所を求めてくる方

・独居、家族と不仲で来る方

また、近隣の活動センターでは祝日開所しているところなく、助かるという評判も聞かれる。一般利用客の出入りがないため、静かな環境で面談もできる。

4 作業体験について

作業体験は随時受け付けをしているが、今年度においては利用はなかった。

5 相談支援について

相談内容

求職や福祉事業所への通所希望の方もおり、相談内容から本人の思いや希望を整理することにより、自身で考えをまとめ一歩進めることができるよう支援している。状況に応じ関係機関と連携をし、状況確認等を行っている。

就職したいのか、就職を障がいオープンで就活するか、就職後、いかに障がい担当や上司とコミュニケーションをとるかなど相談が多かった。

家族、友人について人間関係の相談多い。

新規にて相談に来所される方は、法人内の相談事業所、各関係機関、地活利用者からの紹介、地活通信を見て等により、来所されている。

働いている障がいのある方への相談支援として、メンタルヘルスケアを行った。

ご家族と連携することも多々あり、その都度必要に応じて対応している。

家族を含めた面談、家族のみの面談をすることで、本人、家族の課題、目標作りをする支援をすることが出来た。

ピアカウンセリング

コロナ感染予防の観点より、今年度実施はなし。

6 保健衛生について

食品を扱うため、身だしなみや衛生管理の指導、手洗いうがいの励行、感染症予防として情報提供、食品手袋の使用、アルコール除菌等の衛生管理を行っている。

コロナ感染症などの対応について、今の状況の理解や予防行動ができるように支援を行っている。

情報の共有として、チラシやポスターでの共有を行っている。

7 家族との協働

ご家族の様々な想いに寄り添い、利用者さん自身をサポートできるように協力し合いながら支援を行っている。

ご家族自身が理解することの難しい場面もあり、ご家族へのサポートも必要である。

8 地域との協働

見学や体験などは随時受け付けをしており、利用していただいている。

パンフレットやチラシの掲示や配布をし、地域の方への情報提供を行う。

若里地区の活動や商工会等に所属、参加している。

9 その他

危機管理の面から、防犯カメラの設置をしており、利用者さんや職員の安心安全を守ることはもちろんのこと、ご近所の方にとっての安心へもつながっている。

10 職員体制について

管理者 1 名

支援員 1 名

看護師（嘱託） 1 名

医師（嘱託） 1 名

第2種社会福祉事業 障がい福祉サービス事業
多機能型障がい福祉サービス事業所

スタジオCoCo

スタジオ CoCo は平成 27 年 4 月に開所させていただき、6 年が経過しました。今までも大きな労災が発生したり、浸水被害を被ったりいろいろなことがありました。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大により大きな影響を受けた 1 年でした。緊急事態宣言発令等の影響でホテル宿泊者が減少し仕事量が激減したため、4 月 20 日から 7 月 18 日の期間を中心に一部の職員ならびに A 型利用者を対象に休業としました。それ以降も感染拡大で稼働が下がるたびに稼働時間の短縮等をしてきました。GoTo トラベルが実施された秋には稼働が例年並みとなり残業の続いた時期もありましたが、リネンサプライ事業の収入は年間 2 億 6 7 1 9 万円となり元年度に比べて - 26.6% となりました。

新型コロナウイルス感染症対策としまして、NLS グループの出す行動指針を遵守してきました。「うつらない、うつさない」を合言葉にマスク・手洗い・消毒・換気・防護着着用・食堂内の配置換えと給食の時間による分散・アクリル板設置・電車内のソーシャルディスタンス確保のため開所時刻を繰り下げ等出来る限りのことはやってきました。令和 2 年度には新型コロナウイルス感染症だけでなくインフルエンザになる人もなく、職員・利用者ともに健康な 1 年を過ごすことが出来ました。

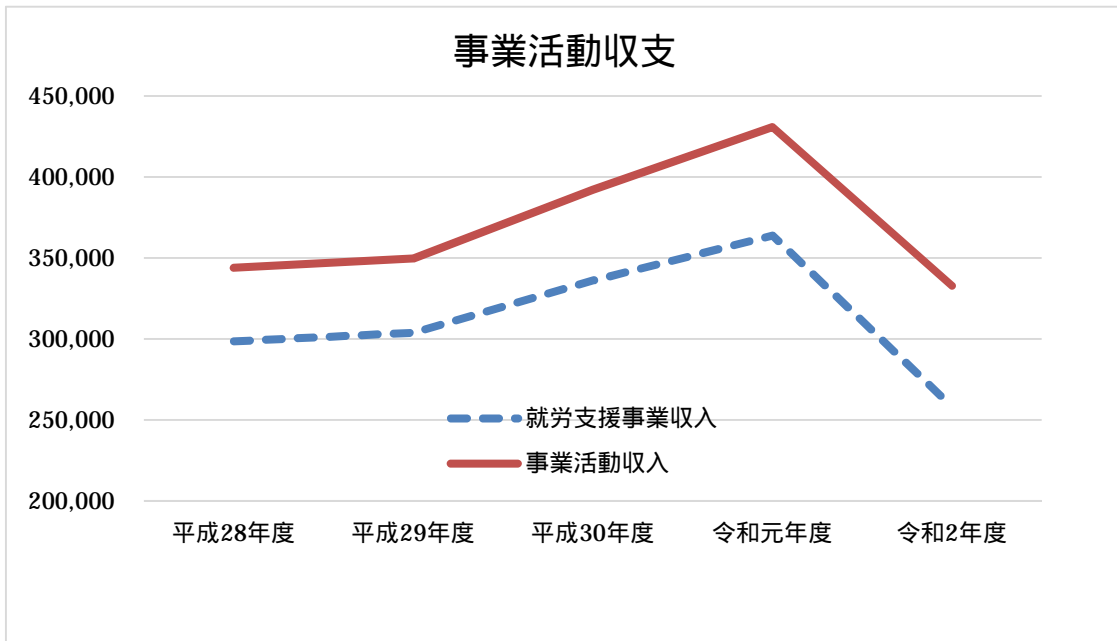
利用者のご家族から土地の提供があり平成 2 年 1 2 月にスタジオ CoCo の従たる事業所として CoCo レストをオープンさせていただきました。生活介護・タイムケア・日中一時支援の 3 事業を行っています。それに伴い利用者定数を A 型 12 人・B 型 10 人・就労移行 6 人・生活介護 12 名に変更致しました。CoCo レストでは 2 月からはカフェの営業も開始(木・金) パンの販売・飲み物の提供を通して地元から認知されるようになってきました。年度末での在籍利用者数は A 型 13 人・B 型 10 人・就労移行 2 人・生活介護 5 人で合計 30 人でした。令和 3 年度は定員 40 人の確保を目指します。

収入・費用の年度間比較

	就労支援事業 収入	福祉サービス事業 収入	事業活動収入計	事業活動費用計
28年度	298,636	34,406	343,897	339,220
増減率	+ 20.7%	+ 52.8%	+ 26.6%	- 20.2%
29年度	303,973	38,355	349,699	341,394
増減率	+ 1.8%	+ 11.1%	+ 1.7%	+ 0.6%
30年度	336,107	48,996	392,225	373,182
増減率	+ 10.6%	+ 27.7%	+ 12.1%	+ 9.3%
元年度	363,946	53,948	428,228	406,091
増減率	+ 8.3%	+ 10.1%	+ 9.2%	+ 8.8%

令和2年度	258,203	57,416	332,772	307,763
増減率	-29%	+6.4%	-22.3%	-24.2%

単位：千円 増減率は前年度比



事業の開始

平成27年4月1日 開所

平成27年6月1日 リネンサプライ・工場の本格稼働開始

利用者の推移

就労継続支援A型事業

定員 12名

年月日	移動状況等	在籍者数
令和2年4月1日		12名
令和2年12月7日	1名入所	13名

* 令和2年12月1日 定員数を14名から12名に変更

就労継続支援B型事業

定員 10名

年月日	移動状況等	在籍者数
令和2年4月1日	就労移行支援事業より1名異動	12名
8月4日	1名退所	11名
10月15日	1名退所	10名

就労移行支援事業

定員 6名

年月日	移動状況等	在籍者数
令和2年4月1日	1名入所	2名

* 令和2年12月1日 定員数を10名から6名に変更

生活介護事業

定員 12名

年月日	移動状況等	在籍者数
令和2年4月1日		5名

* 令和2年12月1日 生活介護事業 従たる事業所 CoCo レスト開所
定員数を6名から12名に変更(主:6名 従:6名)

就労継続支援A型事業

1 利用者の内訳

出身市町別 長野市2名 千曲市7名 上田市2名 坂城町2名
性別 男性10名 女性3名
平均年齢 28歳(21~40歳/ 20代...8名 30代...4名 40代...1名)
障がい種別 知的障がい 療育手帳 A1...1名 B1...3名 B2...7名
精神障がい 精神障がい者保健福祉手帳 1級...1名 3級...1名

2 通勤方法

- (1) スタジオ CoCo の送迎バス利用 しなの鉄道戸倉駅と事業所間 6名
(うち1名は CoCo ホーム千曲より通勤)
(2) 徒歩及び自転車 1名(うち1名は CoCo ホーム三本木より通勤)
(3) 自家用車(本人運転による) 4名
(4) 自家用車(家族の運転による) 1名
(5) 50CCバイク 1名

3 勤務体制

始業時刻 8:40 終業時刻 17:10

休憩 昼休み(50分) 15時休み(20分)

実労働時間 7時間20分

年間休日 90日

- ・繁忙期及び納期の変更等のため、1年単位の变形労働時間制で運営をしている。原則として木曜日・日曜日は休みとした。希望者は残業も行っている。
- ・「就労継続支援A型労働者 就業規則」に準じた運営を行っている。

4 通所状況

通所率

R2.4	R2.5	R2.6	R2.7	R2.8	R2.9
97.2%	97.3%	97.3%	98.2%	93.4%	97.8%

R2.10	R2.11	R2.12	R2.1	R3.2	R3.3	平均
97.9%	96.6%	96.2%	96.9%	96.9%	97.0%	96.9%

安定した通所状況で昨年より平均0.4%の増加となった。

5 利用者の給与

給与は、労働実態に合わせ労働基準監督署の承認を得て決定している。最低賃金を確保できるよう努力しているが、最低賃金の減額特例を受けている方は、9名いる。通勤費は全額支給、有給休暇付与、社会保険・労働保険全員加入。

尚、本年度は新型コロナウイルス感染症に係る雇用調整助成金が含まれている。

年収の状況

800,000 以下	1 名	
800,000 円～1,000,000 円	0 名	
1,000,001 円～1,200,000 円	5 名	
1,200,001 円～1,300,000 円	1 名	
1,300,001 円～1,400,000 円	1 名	
1,400,001 円～1,500,000 円	1 名	
1,500,001 円～1,600,000 円	0 名	
1,600,001 円～1,700,000 円	4 名	計 13 名

平均年収 1,367,612 円

月額平均 113,993 円

障害基礎年金受給状況 2 級 10 名 年間 781,700 円

1 級 1 名 年間 977,125 円

6 個別支援計画について

通所する利用者一人ひとりの願いに沿った計画を立て日々の支援を行った。計画を立てるにあたりご本人、ご家族との面談や関係機関とのケア会議を経て、アセスメントを行い「就労継続支援 A 型計画」を立てる。また 6 ヶ月ごとのモニタリングを行い、見直しを行った。

7 利用者の作業内容

洗い場 2 名 ホーフロール 5 名 シーツロール 4 名
浴衣ロール 1 名 タオルたたみ 1 名

A 型利用者は洗い場、仕上げロールでの作業を主としている。中には精神面等の支援の必要性から軽作業のタオルたたみを担う方もいる。

8 生産活動

取り扱い業務 ホテル・旅館寝具等のクリーニング
 シーツ 掛けカバー 枕カバー クロス・ナプキン類
 浴衣 ガウン タオル類 一般クリーニングの取次ぎ
 布団リース

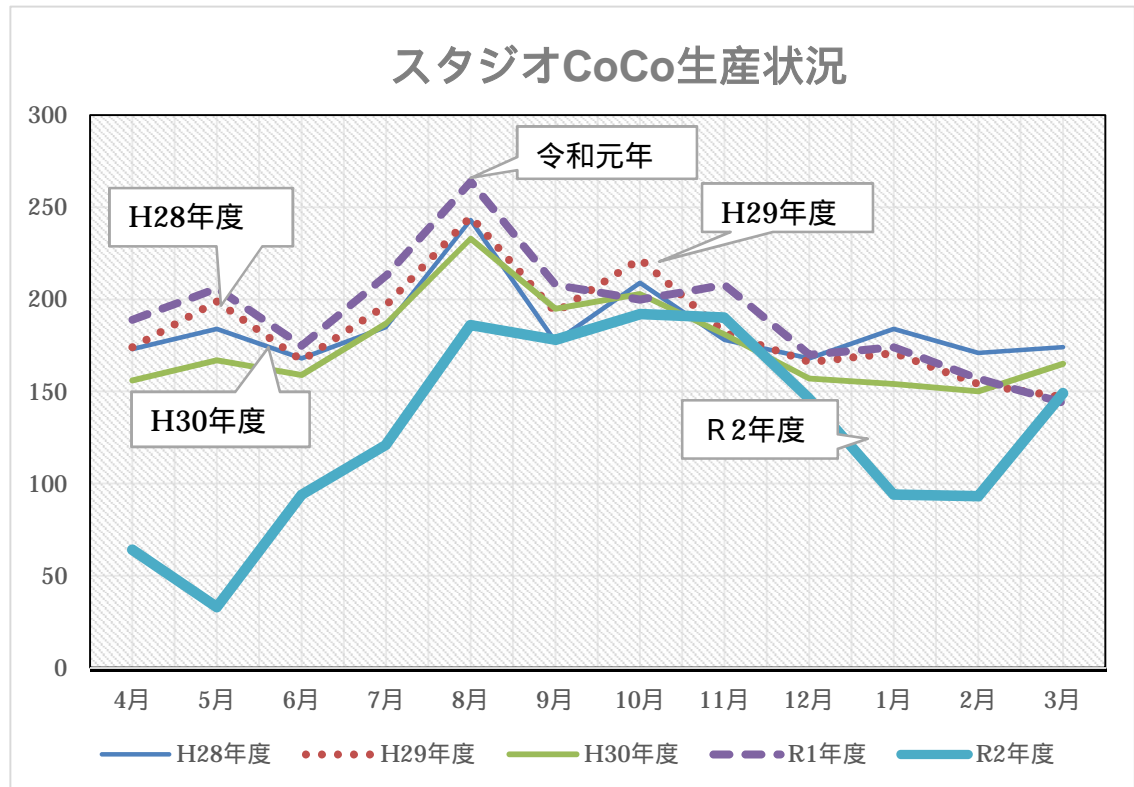
生産状況

年度初めの 4 月に緊急事態宣言が出され稼働が落ち込んだ。NLS グループの生産を 1～2 工場に集約する動きもあり、4 月から 7 月までは A 型利用者・職員の一部は休業として生産重量は大幅に減少した。GoTo トラベル、GoTo イートの影響もあり 9 月～12 月は平年に近い生産量となったが令和 3 年の年が明けて緊急事態が再び宣言され、1 月・2

月も生産減となった。

増減は前年度比（単位：千円）

年 度	28 年度	29 年度	増減率	30 年度	増減率	令和元年	増減率	令和 2 年	増減率
就労支援 事業収入	298,636	303,973	+1.8%	336,107	+10.6%	363,946	+8.3%	258,203	-29%



○月別生産重量

(単位：t)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28年度	173	184	168	185	243	177	209	178	168	184	171	174	2214
H29年度	174	199	167	197	245	193	222	182	166	171	154	147	2217
H30年度	156	167	159	187	233	195	203	181	157	154	150	165	2107
R1年度	189	206	175	213	264	208	200	208	170	174	157	144	2308
R2年度	64	33	94	121	186	178	192	190	146	94	93	149	1,540

9 配送業務

- ・ 配送担当職員：4名 一部外注にて配送業務を行っている。
スタジオ CoCo で仕上げをしているリネン品の納品回収を主な業務としている。
- ・ 事業所所有車：7台（4tトラック2台 2tトラック2台 ハイエース3台）
- ・ 担当エリア：

長野市内 2 名 上田市内 1 名 千曲・篠ノ井方面 1 名 斑尾・上越方面 1 名

10 健康管理

(1) 日々の配慮

- ・朝会時の健康観察と声掛け
- ・作業時の巡回指導と担当職員からの直接指導
- ・特定指導・相談
- ・新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ等感染症予防のための「手洗い・うがい・消毒・マスクの着用」の徹底。声掛けの常時実施
- ・熱中症、脱水症状の注意喚起と水分・塩分補給等の声掛け・保冷剤の支給を実施

(2) 健康相談

日 時：月 1 回 基本的に第 2 火曜日 13:00～15:00

場 所：食堂・和室

内 容：体重測定・血圧測定・面談による健康相談

状 況

日	人数及び実施状況
令和 2 年 4 月	実施なし
5 月	実施なし 4.5 月の全員の通所状況・健康状態等詳細を書面にて安里医師、安里看護師へ報告をした。必要な対応の指示を仰いだ。現時点での体調不良者なし。
6 月 16 日 (火)	17 名 A 型・生活介護中心で実施。 事前に体調・睡眠・自宅での過ごし方、看護師への質問等の聞き取りを行ってから実施をした。
7 月 14 日 (火)	17 名
8 月 25 日 (火)	9 名
9 月 8 日 (火)	10 名
10 月 13 日 (火)	10 名
11 月	実施なし
12 月 16 日 (水)	11 名 10 月の健康診断結果に沿って相談を受けた。
1 月 12 日 (火)	11 名
2 月 9 日 (火)	29 名 全員の体重測定・血圧測定等実施

* 令和 2 年度の健康相談は新型コロナウイルス感染予防のため前年度 3 月から 5 月まで見合わせ 6 月から再開をした。

場所は医務室ではなく広い食堂和室を使用し常時、換気と器具等の消毒をして実施した。

まとめ

- ・日常的な相談が多い。新型コロナウイルス感染症の感染予防に関する対応についての指導が多かった。

- ・コロナ禍にあってストレスなどによる精神面での変調も細かく聞いていただいた。休日や帰宅後の自宅での過ごし方や運動の様子なども聞きとりアドバイスをいただいた。
- ・毎回体重測定、血圧測定を合わせて実施している。体重の増減等に対し運動の必要性や食生活の改善・飲酒等についての指導が多かった。
- ・通院、服薬をしている利用者の必要な情報や健康診断の結果を医師、看護師に把握していただき必要な指導をいただいた。本人に伝えるとともにご自身での健康管理や対応だけでは不十分と思われる方には事業所からご家庭に連絡を行なった。

(3) 健康診断

全日本労働福祉協会による健康診断 41名(利用者28名/職員13名)

日 時：令和2年10月6日(火)14:30~16:30

実施機関：(財)全日本労働福祉協会

実施内容：身長・体重測定・血圧測定・尿検査・視力検査・聴力検査・血液検査・胸部レントゲン、心電図・医師による問診

安里院長による健康診断 29名(利用者29名)

日 時：令和3年3月6日(土)13:30~14:30

場 所：食堂・和室

まとめ

- ・院長、看護師に診断結果を確認いただき、健康相談につなげた。合わせて、就業制限の部分について重労働可否のご教示をいただいた。
- ・結果に「要精検」と出た方には、通知を出し医療機関への通院をすすめた。
- ・安里医師の健康診断の際、特に「減量」「血圧の定期測定」「服薬」に関して直接利用者に指導を行った。体調管理に関して特にご家族の協力等が必要な方については直接事業所から連絡をした。

インフルエンザ予防接種 35名

日 時：令和2年11月4日(土)13:30

まとめ

- ・予防接種を行うことで、インフルエンザ、風邪に対する予防意識が高まった。当日接種できなかつた方は、安里医院やかかりつけ医で接種をした。鶏卵アレルギーでこれまで接種できなかつた方が今回は接種した。今期インフルエンザ感染者はいなかつた。
- ・事業所で予防接種を実施していただけるため、受けやすい。本人、職員もだご家族からもこのような声がある。
- ・昨年度同様新型コロナウイルス感染症予防もあり、安全衛生委員会を中心に、保健・給食・清掃といった各係そして個人でも対策を講じた。
- ・新型コロナウイルスの感染防止「うつらない うつさない」を合言葉に「手洗い・消毒・マスク」を基本に常に朝会にて予防を訴えた。トイレ、洗面所での石鹸による手洗いと消毒の徹底。正しいうがい方法の指導。1日のうち2~3回手すり・作業台・台車等のアルコール消毒。朝会でのマスクの着用。乾燥防止。掲示物による呼びかけ。家庭内での感染防止等、様々な対策を行った。

(4) 新型コロナウイルス感染症対策

- ・昨年度より家庭・事業所での検温。次亜塩素酸水のミストによる消毒、泡ハンドソープによる手洗い・うがい・アルコールによる手指消毒・健康チェック表を用いての体調管理を実施している。
- ・食堂での食事は交替制とし密の状態を回避した。座席はテーブルの並びを並列にして隣の人との間隔をあける。飛沫防止パネルを隣や前との間に設置する。食事中は会話を慎む。食後は塩素を含んだ台ふきんでテーブルを拭く。個人の調味料の選択を止め厨房担当者から直接提供をしている。食堂は常に窓を開け換気をしている。
- ・NLS グループの行動指針の遵守を徹底し、休業日の過ごし方や外出等についても相談に応じた。県外への外出等において必要な場合は注意喚起を行うとともにご家庭とも相談をさせていただいた。
- ・日頃から三密を避けること、不要不急の外出を避けること。等 NLS グループの行動指針に沿いながら、日々全体および個人に訴え実践している。
- ・コロナに関して不安を抱き通所をしばらくの間やめる方や、本人あるいはご家族が他県へ滞在のため帰宅後 2 週間のお休みをされる方等が 4 名程いらした。休みの間は電話連絡等にて健康状況の確認等を行なった。

(5) 健康講話

令和 3 年 3 月に予定をしていたが新型コロナウイルス感染防止のため中止をした。

(6) その他 利用者の状況

既往症等

- ・糖尿病 1 名・食物アレルギー 2 名・メニエール氏病 1 名・てんかん 4 名

通所状況等

- ・令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりホテル等の宿泊者数が少ないことから、クリーニングの作業量も大幅に減少をした。そのため A 型利用者は 4 月下旬から 7 月末まで休業の措置をとることとなった。その間、障がい福祉サービスの提供は継続し利用者は体力づくり、環境整備等の活動や、日常行なわないガウン等のたたみ方を学ぶ機会とした。
- ・通常の開所時間：生活介護事業は 9：00～16：00 であったが令和 2 年 12 月 1 日運営規程を改訂し 9：00～15：00 となった。通年をとおしてこの時間帯での開所とした。他の事業は 8：40～17：10 であるが、休業の間は開始時刻を 9：20 に繰り下げ、終了時刻も 12：10。あるいは 14：00 / 15：00 と状況に応じ都度対応をした。活動時間の変更は作業量等の変動もあるが、いちばんにはコロナウイルスの感染対策、密になる状況を回避するために通勤時間をずらすなどの考慮であった。
- ・通所率は良い。

感染対策として手洗い、消毒をはじめ体調管理に重点をおいていたせいか年間を通じて「風邪」症状での欠席がほとんどなかった。

グループホームの入居者の体調不良等場合は生活支援員と連携をとり早い段階で通院等の対応をした。

熱中症対策

今年度は工場内にクールミスト発生装置ユニットを設置した。細かい霧を気化することにより表面温度を下げ暑さ対策を行なった。熱中症対策に大きな効果があった。

常時マスク着用の中、呼吸がしにくい等の方に対しては、適宜マスクをはずして屋外での休息をうながした。

11 安全・衛生管理

スタジオ CoCo 安全衛生方針

当事業所は、従業員の安全を第一に考え運営をしていきます。また、従業員も安全衛生意識を向上させるため朝礼・会議などで情報交換を行いOJTで危険箇所周知・不安全作業防止について確認をしていきます。労災事故が起こらないように安全衛生上の提案を積極的に行う風土をつくりあげていきます。

スタジオ CoCo 令和2年度安全衛生目標

労働災害0

決まった作業手順を必ず守る。

相互の安全確保のため、大きな声での掛け声と合図を徹底する。

(1) 安全衛生委員会の開催

令和2年度は休業などもあったため隔月での開催となった。労働災害に関する知識を深めるとともに、危険予知トレーニング「KYT」をしながら工場のパトロールをしている。新型コロナウイルス感染症対策に関しても対策を確認した。

日時	内容
4月1日(水)	新型コロナウイルス感染対策の問題点 食堂・更衣室での密の解消。噴霧装置の不足。来訪者への対応。 マスク不足。
6月9日(火)	休業により出勤している職員数が減っている中での安全対策。
8月4日(火)	安全パトロール。洗剤タンクの非常停止スイッチに表示がなく、コンベアーの非常停止と間違える可能性あり。
10月6日(火)	ヒヤリハットの報告と対策。
12月9日(水)	安全パトロール。半開き状態のシャッターの下で起きた労災の 検証と対策。
2月3日(水)	ヒヤリハットの報告。上越方面の猛吹雪で動けなくなる。事前に 気象状況を把握する必要あり。

(2) 安全管理

《事業所・工場》

- ・労働安全衛生手帳(日本リネンサプライ協会発行、全49ページ)の読み合せを平成27年12月11日以降毎日朝礼の中で行っている。気を付けなければならない事を説明し、注意を喚起し、安全意識の向上に努めている。
- ・停止スイッチの作動確認を現場作業者が毎朝行っている。(平成27年12月より)異常があった場合には工場長または洗い場担当者に報告し安全確認を実施している。その他の異常(異

- 音・異臭・蒸気漏れ・エア－漏れ)も部署ごとで確認をしている。
 - ・朝礼にてヒヤリハットの情報を発表してもらい、対策につなげている。
 - ・毎月スタジオ CoCo における安全衛生の重点項目を決めて「今月の安全作業宣言」を掲示している。朝礼で趣旨を理解してもらい事故防止を呼び掛けている。
 - ・毎日 12:00～12:10 の時間で部署ごとに清掃を行っている。当番でトイレ・玄関・廊下・食堂を清掃し、他の人は職場周りの清掃を行っている。
 - ・玄関・トイレ・事務所・食堂・工場の出入り口ドア等の取っ手、ノブ、電気のスイッチ等をエタノール系消毒液で拭いて感染症の対策をしている。
- 平成 30 年度からは、工場内の洗濯後の清潔物を扱う台車、作業台等も消毒液を用いて拭いている。
- ・令和元年 10 月 12 日の水害以来、衛生向上の為スチールラックを増す等により物品の床への直置きをなくした。また、食堂の机・椅子・床を毎日消毒するようになった。
 - ・令和元年 11 月より手指の消毒のため、エタノールスプレー容器を食堂入り口に 2 ヶ、工場入り口 2 ヶ、玄関 1 ヶ、洗い場 2 ヶ設置した。
 - ・令和元年 12 月より、手洗い場の固形石鹸が細菌の繁殖の危険があるため、泡ハンドソープに切り替えた。手洗いの大切さを朝会等で啓蒙し続けている。
 - ・令和 2 年 1 月よりマスクを必ずつけることにした。年度当初、市場にも不足気味であった使い捨ての不織布マスクだが、供給が満たされてきたことから布マスク等に替えて装着を推奨した。
 - ・令和 2 年 2 月より新型コロナウイルス感染拡大防止のため、朝出所時や訪問者の入所時に検温を行う 健康チェック表を毎日記入する 入所前に次亜塩素酸水を噴霧した状態のクリーンルームで 3 分間待機した後、入所をしてもらう 密な状態を避ける 等の対策をとっている。噴霧装置は工場を含め事業所内に 5 台設置して対応している。

《交通・車両》

- ・トラックの後方に関するヒヤリ・ハットが多かったため、バックモニターを全車両に取り付けている。
- ・危険運転があった場合ドライブレコーダーで確認。注意を促す。

(3) 防災訓練

スタジオ CoCo

令和 2 年度は防災訓練を 2 回実施した。

令和 2 年 9 月 30 日(水)

- ・火災避難誘導訓練
- ・通報訓練

乾燥機からの出火を想定して訓練を行った。避難・誘導、火災通報専用電話通報を行った。

令和 3 年 3 月 10 日(火)

- ・乾燥機より出火を想定して訓練を行った。初期消火 消火係の連絡 放送により支援員の指示通り避難を行うことができた。

火災通報専用電話通報訓練を行った。実際の火災が発生したため中断し、次回行うことに

なった。

消火器の訓練。消火器で的に向かって消火の訓練を行った。

自動火災報知設備のバッテリー交換時期経過の交換を行った。

CoCo レスト

令和3年3月31日(水)

- ・火災避難誘導訓練
- ・通報訓練

避難・誘導、火災通報専用電話通報を行った。事業所から避難場所までの避難経路の確認も合わせて実施した。。

12 委託給食

常時利用者 8名

昼食数 令和2年4月～令和3年3月 267日

利用数 2,126食

検食日誌の記録

利用者の希望・意見収集(都度確認)

利用者の食物アレルギーの調査

希望メニューの実施

給食検討会の実施(キッチン CoCo・栄養士・調理師・工場長・給食担当)

13 QOL活動の実施状況

諸行事の実施及び参加

- ・千曲・坂城自立支援協議会さんさんネットの行事実施及び参加(今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため実施なし)
- ・スタジオ CoCo での事業及び行事の実施
- ・季節に応じた行事「クリスマス会」「鏡開き」「節分」等

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため「旅行」をはじめ通年実施している諸行事等を中止、あるいは縮小する形とした。

千曲川の堤防沿いや近隣地域のウォーキング、新しく開所した CoCo レストでの交流会以外は、事業所外での行事等に参加をすることはなかった。

月	日	曜日	内容	備考	利用者	他
4	1	月	入所式	スタジオ CoCo	全員	
5	11	月	千曲川を見ながらウォーキング		11名	3名
5	12	火	千曲川を見ながらウォーキング		11名	3名
5	13	水	コロナの生活を考える		11名	2名
12	23	水	クリスマス	クリスマスメニュー	全員	
1	6	水	風船パレー	レスト交流会	5名	2名

1	11	月	鏡開き	スタジオイベント係	全員	
2	2	火	節分	スタジオイベント係	全員	
3	19	金	スタ レク	Café CoCo レスト	4名	2名
3	26	金	スタ レク	Café CoCo レスト	4名	2名

14 CoCo 家族会ちくま

令和2年度の諸行事・活動は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため会合形式での開催はしなかった。総会は文書をもって行なった。

15 地域への開放状況

千曲市及び周辺市町

- ・地域の常会への会費納入、清掃活動等へ参加をした。
- ・千曲・坂城地域自立支援協議会

全体会 事業所連絡部会 就労部会 さんさんネット部会 に参加

(Zoomでの開催に参加した。コロナ禍での事業所運営、対応に関する情報共有が多かった)

現場実習の受入れ

- ・稲荷山養護学校(本校) 更科分教室、基幹相談支援センター等の関係支援機関からの体験実習や、他の就労移行支援事業所からA型での就職をめざしての実習の受け入れを行った。
- ・令和2年度は見学及び実習も感染症対策をしながら行なった。感染症拡大が著しい時期には外部の方の来所を遠慮いただいた。もしくは屋外での対応とさせていただいた。
- ・実習、見学に際しては隣接する地域生活支援センターCoCo 千曲/CoCo ホーム三本の紹介もさせていただき希望に応じて見学を合わせて行っている。

16 職員研修について

- ・毎朝の打ち合わせ会、職員会議(全体で月1回)生産会議(月1回)支援会議(おおよそ月1回)を行い、ヒヤリハットをはじめ日常の気づきを共有し、より良い生産活動、事業運営が行えるよう努めた。
- ・毎朝全員で「安全衛生手帳」の読み合わせを行い工場内における危機管理・安全管理と工場運営について学び、確認を行った。
- ・安全衛生委員会においてリネンサプライのみではなく、感染症、防災等多岐にわたる話題や課題について学び合い、毎月の安全衛生宣言に反映させ事業所内で労働および活動をする全ての人に周知を行った。
- ・障がい者虐待防止・権利擁護について学んだ。

主催・実施主体	内容	出席者
長野県知的障がい福祉協会関係	北信支部代表者会	1名
	行動障がい支援 Start up セミナー	1名
千曲・坂城自立支援協議会関係	事業所連絡部会	1名

長野県相談支援専門 員協会	サービス管理責任者更新研修	1名
長野県	障がい者虐待防止・権利擁護研修	1名

17 職員体制について

管理者 1名(工場長兼務) サービス管理責任者 1名

職業指導員 1名 生活支援員 1名 賃金向上達成指導員 1名

事務員 医師(嘱託) 看護師(非常勤)

支援員は一緒に作業を進め、一人ひとりにあった作業の見極めを行うことや、面談等利用者に寄り添い支援計画の作成をした。

就労移行支援

1 利用者の内訳

出身市町別 千曲市 2名

性別 女性 2名

平均年齢 19.5歳(19~20歳/ 10代...1名 20代...1名)

障がい種別 知的障がい 療育手帳 B1...1名 B2...1名

2 作業訓練内容

事業運営日数 270日(基本的には木・日の週休2日制 他開所日は希望通所)

日 課 8:40~17:10 昼休み 50分 15時休み 20分

(基本的には本人希望と体調・体力等状況を見ながら、ご本人にとって無理のない状況で行っている。)

作業訓練内容 タオルのたたみ作業 タオル・ガウンの袋詰め作業就職に向けて職場実習
求職活動を行う

状 況

- ・工場内で就職に向けて作業をした。2名とも作業はゆっくりではある。確実に体力・精神を高めてきた。
- ・2年目の利用者は将来の希望を飲食業と明確にしている。コロナ禍もあり実習等具体的に進めることができなかった。翌年度、就労継続支援事業利用とはなるが就職を目指しカフェでの体験を実施予定である。

3 利用者の通所方法

(1) スタジオ CoCo の送迎バス利用しなの鉄道戸倉駅と事業所間 2名マイクロバスを利用している。

- ・事業所において通所費市町補助の申請をサポートしている。

4 通所状況

通所率

R 2.4	R 2.5	R 2.6	R 2.7	R 2.8	R 2.9
97.6%	95.5%	100%	95.7%	87.5%	89.1%

R 2.10	R 2.11	R 2.12	R 3.1	R 3.2	R 3.3	平均
97.7%	97.6%	95.7%	90.9%	97.5%	97.8%	95.2%

5 利用者の工賃支給

年・月	平均工賃額	年・月	平均工賃額
R 2.4	10,745円	R 2.10	16,150円
R 2.5	10,990円	R 2.11	15,350円
R 2.6	10,550円	R 2.12	29,000円
R 2.7	13,200円	R 3.1	10,238円
R 2.8	15,750円	R 3.2	10,255円
R 2.9	15,350円	R 3.3	16,725円
月額平均		14,525円	

6 個別支援計画について

通所する利用者一人ひとりの願いに沿った計画を立て日々の支援を行った。計画を立てるにあたりご本人、ご家族との面談や関係機関とのケア会議を経て、アセスメントを行い「就労移行支援計画」を立てる。また3ヶ月ごとのモニタリングを行い、見直しを行った。

7 健康管理

就労継続支援 A 型事業及び就労継続支援 B 型事業及び生活介護事業と同様

8 安全衛生管理

就労継続支援 A 型事業及び就労継続支援 B 型事業及び生活介護事業と同様

9 委託給食

希望者には給食を提供（1食 260円）

常時利用者 1名

昼食数 令和2年4月～令和3年4月 267日

合計 256食

検食日誌の記録

利用者の希望・意見収集（都度確認）

利用者の食物アレルギーの調査

希望メニューの実施

給食検討会の実施（キッチン CoCo・栄養士・調理師・工場長・給食担当）

10 QOL活動・スタレクの実施状況

就労継続支援 A 型事業及び就労継続支援 B 型事業及び生活介護事業と同様

11 CoCo 家族会ちくま

就労継続支援 A 型事業及び就労継続支援 B 型事業及び生活介護事業と同様

12 地域への開放状況

就労継続支援 A 型事業及び就労継続支援 B 型事業及び生活介護事業と同様

13 職員研修について

就労継続支援 A 型事業及び就労継続支援 B 型事業及び生活介護事業と同様

14 職員体制について

管理者 1 名（工場長兼務） サービス管理責任者 1 名

職業指導員 1 名 生活支援員 1 名 就労支援員 1 名

事務員 医師（嘱託）看護師（非常勤）

支援員は一緒に作業を進め、一人ひとりにあった作業の見極めを行うことや、面談等利用者に寄り添う支援を行った。

就労継続支援 B 型

1 利用者の内訳

出身市町別 長野市 1 名 千曲市 8 名 上田市 1 名 坂城町 1 名

性別 男性 6 名 女性 3 名

平均年齢 39 歳（21～56 歳/20 代...3 名 30 代...2 名 40 代...4 名 50 代...1 名）

障がい種別 知的障がい 療育手帳 B1...6 名 B2...2 名

精神障がい 精神障がい者保健福祉手帳 2 級...2 名

2 通所方法

（1）スタジオ CoCo の送迎バス利用 しなの鉄道戸倉駅と事業所間 6 名

（うち 1 名は路線バスと併用、1 名は行きのみ路線バスを利用）

マイクロバスを利用している。

（2）自転車 1 名

（3）徒歩 1 名（CoCo ホーム三本木より通所）

事業所において通所費市町補助の申請をサポートしている。

3 作業訓練内容

事業運営日数 270 日（基本的には木・日の週休 2 日制 他開所日は希望通所）

日 課 8:40～17:10 昼休み 50 分 15 時休み 20 分

（精神面・体力面で継続しての作業が困難な方、既往症のある方等、体調管理や個別対応が必要な方が多い。相談をしてできるだけ本人の体力等に沿った日課を決めてご自分のペースで作業を行っている）

作業訓練内容 タオルたたみ ガウンたたみ作業 袋詰め作業 洗い場補助 他
状 況

- ・令和 2 年度途中には、利用者増となり、一時期定員を上回る 12 人が在籍をしていたこともある。
- ・8 月に 1 名、10 月に 1 名が退所をしている。各々、対人関係での課題があった。1 名は約 3 年ほど通所をしたが事業所の日課に馴染めないことが増え退所に至った。それぞれの相談支援専門員と連携をとり、退所後の生活や行き場等の相談にも応じた。

- ・作業能力には差がある。タオルたたみを中心に得意なこと、不得意なことを見極めながら個別に応じた作業内容を見極めて作業の支援を行っている。
- ・対人面・人間関係で課題がある方が増えてきている。コミュニケーションのとりにくい方が増えており対応に苦慮することも多かった。
- ・全員が個々の体調に合わせて、ご家族やご本人と話し合いながら、全体の休憩時間のほかにも休憩を設定する等して日課を作り作業を進めている。
- ・生活介護と就労移行支援の仲間と一緒に1回のスタレクを楽しみにして作業のモチベーションにしている利用者もいる。今年度はレクリエーションの機会もごくわずかであった。今後実施内容を検討することとした。

4 通所状況

通所率

R2.4	R2.5	R2.6	R2.7	R2.8	R2.9
80.2%	91.3%	93.2%	88.4%	71.5%	81.8%

R2.10	R2.11	R2.12	R3.1	R3.2	R3.3	平均
87.2%	92.4%	87.0%	80.5%	87.5%	81.3%	85.2%

- ・個々の精神面等から通所状況は大きく異なる。体力精神面などから、週に4日のみの通所の方もいる。自由通所日に一部積極的に通所をされる方もいるが、自由通所日は欠席する方がほとんどである。したがって自由通所日となる祝日が多い月は通所率が低くなる。
- ・コロナウイルス感染防止の2週間程度自宅待機をされた方も若干名いる。

5 利用者の工賃支給

年・月	平均工賃額	年・月	平均工賃額
R2.4	10,022円	R2.10	16,318円
R2.5	11,760円	R2.11	16,735円
R2.6	12,128円	R2.12	30,448円
R2.7	13,847円	R3.1	10,521円
R2.8	14,275円	R3.2	10,596円
R2.9	16,091円	R3.3	27,070円
		月額平均	15,565円

6 個別支援計画について

通所する利用者一人ひとりの願いに沿った計画を立て日々の支援を行った。計画を立てるにあたりご本人、ご家族との面談や関係機関とのケア会議を経て、アセスメントを行い「就労継続支援B型計画」を立てる。また6ヶ月ごとのモニタリングを行い、見直しを行った。

7 健康管理

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

8 安全衛生管理

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

9 給食の提供

希望者には給食を提供（1食 260円）

常時利用者 8名

昼食数 令和2年4月～令和3年3月 267日

合計 1,835食

検食日誌の記録

利用者の希望・意見収集（都度確認）

利用者の食物アレルギーの調査

希望メニューの実施

給食検討会の実施（キッチン CoCo・栄養士・調理師・工場長・給食担当）

10 QOL活動・スタレクの実施状況

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

11 CoCo 家族会ちくま

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

12 地域への開放状況

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

13 職員研修について

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

14 職員体制について

管理者 1名（工場長兼務） サービス管理責任者 1名 職業指導員 1名

生活支援員 1名 目標工賃達成指導員 1名 事務員 医師（嘱託）

看護師（非常勤）

生活介護事業

令和2年12月1日「従たる事業所 CoCo レスト」が開所をした。

このことに伴い定員数を6名から12名に増やした。主たる事業所スタジオ CoCoの利用者のうち2名がCoCo レストへ異動し通所を開始した。

CoCo レストでは令和3年2月より週2回カフェの運営を行っている。仕事の他に創作活動や地域のウォーキング、公園での体力づくり等も実施している。主たる事業所スタジオ CoCoのメンバーとの交流会も定期的を実施をしている。

1 利用者の内訳

出身市町別 千曲市 5名

性別 男性 4名 女性 1名

平均年齢 26歳（22～37歳 / 20代 4名 30代...1名）

障がい種別 知的障がい 療育手帳 A1...3名 B1...2名

身体障がい 身体障がい者手帳 2級...1名（知的障がいと重複）

2 通所方法

自転車及び家族の送迎 5名

3 日課

9:00～9:30 通所
9:30～9:40 朝会、ラジオ体操
9:40～12:00 作業
12:00～12:10 清掃
12:10～13:00 休憩
13:00～15:00 作業、創作的活動
15:00 帰宅

4 通所状況

通所率

R2.4	R2.5	R2.6	R2.7	R2.8	R2.9
90.5%	88.6%	91.8%	94.3%	90.0%	89.5%

R2.10	R2.11	R2.12	R3.1	R3.2	R3.3	平均
90.9%	88.6%	91.4%	89.0%	91.0%	89.6%	90.4%

・週5回通所者3名、週4回通所者2名である。

体調不良が原因での欠席の方はほとんどなく、皆元気に安定して通所をされている。

5 利用者の工賃支給

年・月	平均工賃額	年・月	平均工賃額
R2.4	6,832円	R2.10	10,280円
R2.5	6,657円	R2.11	9,530円
R2.6	7,287円	R2.12	15,620円
R2.7	8,136円	R3.1	5,412円
R2.8	7,390円	R3.2	6,184円
R2.9	9,640円	R3.3	8,707円
		月額平均	8,473円

6 個別支援計画

通所する利用者一人ひとりの願いに沿った計画を立て日々の支援を行った。計画を立てるにあたりご本人、ご家族との面談や関係機関とのケア会議を経て、アセスメントを行い「生活介護計画」を立てる。また6ヶ月ごとのモニタリングを行い、見直しを行った。

7 生産活動

スタジオ CoCo

クリーニング作業

- ・タオル・ダスターのたたみ作業
- ・ガウン類・作務衣ズボン・ホテル館内着（ジャージ）のたたみ作業
- ・ウエス作り
- ・商品の納品回収・配達業務補助

その他

- ・ 食堂清掃（全体の清掃時間のほかに行う）
- ・ 食材運び補助・昼食前のテーブル拭き、トレイの準備補助など
- ・ 事業所内のドアノブ等の消毒

活動状況

- ・ 生活介護事業利用者の作業は作業室と通称きらきら棟で行っている。作業室ではタオル・ダスターたたみとガウンのたたみ作業を主としている。丁寧できれいな製品作りをすることができる。
- ・ 障がい特性や個性に応じタイマーや枚数を表示するカード、ボード、日課表等を活用している。また、パーテーション等を使用しスペースの確保をしたり、並列での作業体制にする等環境を整備している。
- ・ コロナウイルスの感染対策としてマスクの着用や手洗い・消毒の徹底を図るが、単独では難しい方もいる。マンツーマンによる支援にて都度消毒等をしている。「1ケア1手洗い」を意識するが日常の支援の中で曖昧になりやすい。密着する場面もあるため緊張感を持ち徹底していく必要があると考える。
- ・ ウエスの販売については継続して受注のある企業に販売を行なった。
ウエス売上 1 kg 360 円
令和2年度売上 合計 60kg 21,600 円（昨年比 +5 kg 2050 円）

CoCo レスト

カフェ運営補助

- ・ 店内の清掃・消毒
- ・ 環境整備・植木の水やり・手入れ
- ・ 販売品クッキーの包装
- ・ 接客

活動状況

- ・ 令和2年12月1日開所。月～金開所。2名の方が利用をしている。開所当初は、主たる事業所の仕事であるタオルたたみを行っていた。
3月からカフェの営業が始まったため、店内外の清掃、消毒、開店準備、植木の水やり、寄せ植え、販売用クッキーの包装、ときには接客などを行なっている。
プレオープンの際は来店者用にコースターを製作した。

8 その他の活動状況

- ・ レストでは少しずつ自立した社会生活をおくれるよう、生活のなかでできること、身につけることを行なおうと作業以外にも、まずは自分の食器洗いや配膳、掃除、カフェでの金品のやりとり等から行なってきた。今後もさらに幅をひろげていきたい。
- ・ レクリエーションでスタジオとの交流会を行なったほか、習字、ものづくり、ゲーム、ウォーキングなどを行っている。コロナ禍で積極的な活動ができなかったが今後は感染対策を第一とし、工夫をしながらレクリエーションやでき得る活動をしていきたい。

9 健康管理

就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業及び就労継続支援 B 型事業と同様

10 安全衛生管理

就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業及び就労継続支援 B 型事業と同様

11 委託給食

希望者には給食を提供（1食 260円）

常時利用者 5名

昼食数 令和2年4月～令和3年3月 253日

合計 1,148食

検食日誌の記録

利用者の希望・意見収集（都度確認）

利用者の食物アレルギーの調査

希望メニューの実施

給食検討会の実施（キッチン CoCo・栄養士・調理師・工場長・給食担当）

12 QOL活動・スタレクの実施状況

就労移行支援事業及び就労継続支援 B 型事業と同様

13 CoCo 家族会ちくま

就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業及び就労継続支援 B 型事業と同様

14 地域への開放状況

就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業及び就労継続支援 B 型事業と同様

15 職員研修について

就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業及び就労継続支援 B 型事業と同様

16 職員体制について

管理者 1名（工場長兼務） サービス管理責任者 1名 生活支援員 6名

医師（嘱託） 看護師 3名（2名常勤・1名非常勤） 事務員

心身障害児（者）タイムケア事業

利用者の心身機能・生活・人生を尊重した上で、利用者と家族の意向に基づき、その置かれている環境に十分に配慮しながら、安心して自立した地域生活を営むことができるように支援していく。

心身障害児（者）が家庭において介護を受けることができず、一時的に介護を必要とする場合に、依頼に応じて介護を行なう。

利用実績

	利用者数（人）	延利用者数（人）	総利用者時間（時間）
令和3年1月	7	29	44
2月	10	47	72

3月	8	39	51
----	---	----	----

障害者等日中一時支援事業

地域で生活する障がい者の自立した日常生活、社会生活をこの地域において営むことを目指し、社会生活を実現するための相談や支援を行う。そして、その方の居場所として、自由な憩いの場として、創作的活動及び余暇支援等の実施を通じ、社会との交流の機会を促し、利用者の要望に沿った活動・主体性が確保されるサービスを提供する。また、利用者個人の尊厳の保持に努め、この地域における地域福祉の増進を図っていく。

利用実績

	利用者数（人）	延利用者数（人）	総利用者時間（時間）
令和3年1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	4	23	51

実施状況

- ・令和2年1月 タイムケア事業 3月 日中一時支援事業 を開始した。
当初は、2月から日中一時支援を実施予定だったが、CoCo レストの開所時から利用希望の声が多く1月からタイムケア事業での受け入れとなった。定着した利用の方には現タイムケアから日中一時支援事業に切り替えている。現在登録及び利用されている方は全員千曲市在住の方である。
- ・利用希望の方は、自分に合った日中の居場所や過ごし方を求めてくる。「家からやっとな歩でる」という方もおり、様々なニーズや課題のある方を受け入れている。安心してすごせる居場所や個人に合った活動の場の提供もしているが、必要によっては「つなぐ」役割があり、関係者・支援者や関係機関と連携しながら個別対応、個別支援もしている。
- ・タイムケア・日中一時支援の利用条件に独居の方は「自立」とみなされ該当外となる。家族やヘルパー支援などの福祉サービスを利用して独居生活をしている方が「レストを利用したい」と希望をしたが受け入れられないケースがあった。
本人が願う暮らしができるためには何ができるのか。検討をしていく必要がある。課題である。

令和2年度アートカフェ CoCo 事業報告

【第2種社会福祉事業 障がい福祉サービス事業生活介護事業】

【フリースペース事業】

障がいのある人たちの表現活動を行う場として、4年を終えることができました。当法人がこれまで実践してきた障がいのある人が地域の中で望むスタイルで自分らしく生活をおくことを支えてきた活動を、新たに須坂市(須高地域)において行っております。障がいのある人の多様な生き方に貢献するために、求められている必要となる資源を整えて、質の高いサービスを提供することで障がいのある人及び家族の望みをかなえることができるように更に一層と応えていくための所存を冷ますことなく持ち続けています。

アートカフェ CoCoに通ってくる障がいのある利用者たちは、自分の考えや想いを上手く言葉にして表すことが苦手だったり、言葉を扱うことが全くできなかつたりとする方が多いです。最近では、自閉症スペクトラム症による独特の特性をもつ人たちの利用が増え始めています。いわゆる行動障害という自傷・他傷・他害等の行為があり、生きづらさを抱えている人たちもいます。こちら側の支援者側もその生きづらさに向き合い、適切な支援の提供により、解消及び改善を目指しています。自らの存在や価値を肯定して、自分を労り、自らの望む生活をおくっていただきたいと思います。日々の関わりを行っています。彼ら彼女たちの意思や想いは社会の中では見逃されやすいですが、私たちは日々彼ら彼女たちに真摯に向き合っており、声なき声や思いを丁寧に探り、感じ取ることに努めています。

利用者たちは、自らが好きである表現活動を通して日々、自分らしく表現しています。個性的な色気をたっぷりと感じられる素敵な作品もたくさん生まれています。令和2年度は、前年度に引き続いて、作品展実施しました。今回は、アトリエ CoCo と共催して、秋の時季に1週間ほど、善光寺近くの武井工芸店様にて、2階のギャラリーをお借りしました。相変わらずの、新型コロナウイルス感染症を警戒して生活をおくらなければならない状況の中での開催でしたが、それでもこの開催期間中はちょうど比較的落ち着いた状況でしたので、かつ善光寺近くという立地条件も好条件となり、多くの来場者がありました。書や絵画の作品も気に入って下さる方も多く、実際に購入して下さった方もいらっしゃいました。そして、今回も昨年度と同様に、この作品展に合わせて、カレンダー・クリアファイル・缶バッジ・はがきなど、利用者の作品をデザインとして利用して製作を行い、この作品展にて販売を行いました。売れ行きは好調でありました。一方で完売とはいわずに、以降も販売を行いました。販売方法等などの課題が残り、今後この課題の解決にあたってまいります。

いずれにせよ、このような機会は利用者にとって自信や意欲を一層と持てることにつながりましたし、スタッフにとっても、より多くの人たちに当事業所の運営や活動をより広く知ってもらい、より理解を深めてもらえることになったので、自らの普段の取り組みを振り返るよい機会になったと思います。利用者及びスタッフ共に、今後の運営や活動に、更なる望みをより一層と抱けることができましたので、素晴らしい場であり取り組みであったと思います。今後もこのような取り組みを続けたいです。

カフェの運営は、スタッフ体制の確保やカフェのスペースが利用者の活動等の場として利用しており、休止しております。

また、障がいのある人たちの表現活動を行う場と併設する形で同時にフリースペース事業を行っており、不登校や引きこもりの状態にいる人たちの居場所づくりを行っています。自らのことを肯定できなかつたり自信を持てなかつたりする人たちが当事業所にて行っている活動（表現活動や社会体験活動等）に個々で自らに合った形で参加して取り組むことで、安心して活動できる居場所として過ごすことができる、社会や地域の中で自分らしく活躍していくことを成し遂げることができる、そのようなフリースペースの運営を目指しています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の対策等に追われた1年間でありました。以前においても同様に、感染症対策は、事業所運営を行ううえでは、重要課題であり、マニュアルを整備して対応してきましたが、この新型コロナウイルス感染症に対しては、対策の手立てを整備しなおして、強化しなくてはならないものでした。まずは予防することに徹底的に努めてきましたが、スタッフ及び利用者共に、業務中だけではなく、私生活まで及んで日常の行動に従来以上に気配りを行い、従来以上に健康管理に気を使い、従来以上にスタッフ双方で、そして利用者及び家族の方とコミュニケーションを図り、正直な心境として、心身共に負担が増えました。そのような状況の中で、利用者の居場所を確実に安全に確保し続けました。利用者によっては、事業所を一か所に絞ったり、通所を控えたりとした方もおりましたが、安定的に事業所を開所し続けて、そして活動を提供し続けてきたことは、ひとえに全スタッフの尽力によるものだと思います。

生活介護事業

（利用者の推移）

（定員 20 名）	令和2年度総在籍者数	19名	（令和2年度末 登録者数	17名）
令和2年4月	1名入所 （特別支援学校高等部等卒業生1名）		・・・ 在籍者数	17名
令和2年7月	1名入所（他事業所より）		・・・ 在籍者数	18名
令和2年11月	1名入所（在宅より） 2名退所		・・・ 在籍者数	17名

1 利用者の内訳

（6）利用者総数 20名

（7）出身等市町村別 長野市 11名 須坂市 5名 小布施町 1名 高山村 1名
千曲市 1名

（8）性別 男 13名 女 6名（総数）

（9）年齢 30.9歳（令和2年度末）

（10）障がい種別 知的障がい者 19名

身体障がい者 3名

発達障がい者 9名 重複者数名あり

（6）障害支援程度区分 <3> 2名 <4> 4名 <5> 9名 <6> 4名

2 通所方法

- (6) 徒歩または自転車 0名
- (7) バイクまたは車(本人運転による) 0名
- (8) 公共交通機関利用 2名
- (9) 事業所送迎 13名
- (10) 家族または他事業所等による送迎 13名
- (ア) 重複者あり

3 日課について

9:30 ~ 10:00まで	着替え 朝会 ラジオ体操等
10:00 ~ 12:00まで	午前の活動
12:00 ~ 13:00まで	昼食 休憩
13:00 ~ 15:00まで	午後の活動
15:00 ~ 15:30まで	掃除 おやつ 着替え 帰りの会等

- ・利用者の事情または活動内容等によっては、このとおりの日課ではない。
- ・8時30分~9時30分及び15時30分~17時の間もタイムケア事業で利用して方もいる。
- ・土または日曜日は活動内容によって様々に設定した。

4 通所状況

通所実態(通所率)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
43%	40%	43%	42%	42%	43%

10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
42%	44%	45%	47%	45%	45%	49%

上記の通所率の数字は、週に5~6日を開所としているところで、個人個人の事情により週に1~4日で通所している方も半数程度あり、その状況を条件にした通所率の数字である。

5 個別支援計画

本人や家族との面談や、関わりのある関係者等を含めた会議を開くなどして、本人のそれまでの歩みや、好きなことや得意なこと、苦手なこと、行動面や日常生活上の行為等で配慮すること等々に関して、情報収集や確認を行い、本人の願いをベースにして個別支援計画を作成した。

何よりもまずは、本人中心というスタンスを重視して、願いやニーズ等を把握するように努めた。言葉にして相手に自分の意見や考えを伝えることが難しい利用者が多いので、日常の行動等を観察して分析したり、家族等の周りの関係者等からのアドバイス等をもったりして、本人の意思や思いを探り、個別支援計画に反映した。当事業所外での、生活の場面などの困り感や希望があった時には、他の機関と連絡をとって情報を共有して、そのうえで当事業所として担うべき課題に関しては、個別支援計画の目標として取り入れ対応にあたった。

そして、6カ月ごとに1回の見直しを行った。来年度も、本人の願いをベースに、より良い支援に繋がるように計画的また必要に応じて面談等を行い、定期的に支援計画を作成していきたい。

6 活動について

【表現活動(絵画、造形、書道等の創作的活動他)等】

(1) 表現活動(絵画、造形、書道等の創作的活動他)

日々の日課の中で、活動内容に関しては、基本的に利用者個々が気に入っている活動に個別に取り組んだ。絵を描いたり、書道を行ったり、ウォーキングをしたり、音楽を聴いたり歌ったり、ペーパーで工作をしたり、話をしたり等々。毎週月・木曜日にはプロの講師の方である関孝之氏および佐々木良太氏に来ていただいてアートワークショップを行った。プロの講師の方によるワークショップはより深みのある活動を行うことができ、より興味を持ち楽しんで活動に参加することができた。

(2) 作品展の開催及びグッズの製作販売

冒頭で述べたとおり、令和2年度も前年度に引き続いて、利用者の人たちが製作している作品の展示会の開催を、そして作品を使用してグッズの製作販売を行った。

(3) その他

県内外で開催されたアート展に参加して、美術館等での作品の展示や作者紹介の機会をいただくこともできた。また、個人的に作品展に応募する方もいて、「パラリンアート世界大会2020」で、グランプリ賞(世界最高賞)を受賞した方もいた。

7 QOL 活動について

QOL 活動については日々の活動の中で取り入れ、実施した。季節ごとの行事を企画して行い楽しんだ。新型コロナウイルスの感染症への対策もあり、例年通りの内容を実施することはできなかった。

8 保健衛生について

(1) 健康相談について

- ・日時 : 毎月 第四金曜日午後 13:30 ~ 15:30
- ・実施者 : 斎藤恵子看護師
- ・実施内容 : 体重測定、血圧測定、検温、健康相談
- ・相談者数 : 毎回 8 名程度

血圧測定

- ・エラーが出てしまう利用者さんが毎回数名出る
- ・血圧が高めの方が 2 名いる。いずれも定期通院し、かかりつけ医に相談しながら生活している。他にも突発的に高い血圧の出る利用者があるが、前後の出来事を踏まえつつ家庭と連絡を取って様子を見ている。

相談内容

- ・生活の中で困っていること、心配なこと
- ・体重や血圧数値について

その他

- ・相談中に別の利用者さんが入ってしまい、なかなか出られないことがあった。

(2) 健康診断について

- ・日時及び実施者 : 10月15日(木)利用者5名、スタッフ2名
: 10月29日(木)利用者3名、スタッフ2名

実施にあたっての配慮

- ・聴覚過敏や場所見知りなど、個別対応が必要な利用者さんのため、事前に情報を伝え、当日はスタンプラリー形式で個別対応をしながら各検査を受けた。
- ・絵カード、写真等を使いながら、どこでどんな順番で検査を受ける等の事前説明を丁寧に行った。
- ・当日、健康診断は受けずにアートカフェに残る利用者さんもいたため、スタッフや利用者さんの動きがわかるタイムスケジュールを用意した。
- ・10月15日、10月29日とも同じ木曜日だったため、木曜日しか利用しない利用者さんには当日の活動や昼食の時間変更にご協力をいただいた。

結果について

- ・視力検査を事前に練習していったメンバーさんもいたが、当日の検査内容が難しかったため判定不能になってしまうメンバーさんが多かった。一度に全ての画面が見えてしまうものより、一文字ずつ測定できるものだとよいか。
- ・BMIが25を超えている利用者さんが5人いるため、ご家族と情報共有をしながら様子を見ている
- ・高血圧の利用者さんが3人いる。2人は診察前に興奮していたためか、普段よりも高い数値が出ていた。1人は通院先やご家庭と情報共有しつつ、生活している。
- ・血糖値高めの利用者さんが1人いる。通院先やご家庭と情報共有しながら生活している。
- ・要精検となった3人は、12月9日にアトリエ CoCo で行われた立岩先生の診察を受けた。

その他

- ・ご家庭からの要望(項目、実施場所)

(3) インフルエンザワクチン

11月4日: 利用者1名、スタッフ1名

11月11日: 利用者3名、スタッフ3名

- ・それ以外の利用者さんについては、2名を除き全員が実施している。スタッフはかかりつけ医等を含め全員が予防接種を実施した。

(4) 新型コロナウイルス対策

- ・手洗いうがい、マスク着用、距離の確保のお願い
- ・体調チェック
- ・館内、床、車両の消毒
- ・加湿器の設置
- ・対面にならない食事の席の配置
- ・アクリル板の設置

(5) 救急箱について

風邪薬、胃腸薬、鼻炎、痛み止め等の経口薬、及び消毒液、絆創膏、湿布、目薬等、かゆみ止

め並びに体温計を整えている。自傷行為があったり、肌が荒れやすい体質等のため、手指等に傷がしやすい利用者が数名いて、絆創膏が使われることが多かった。一部の風邪薬や目薬・湿布薬などのように全く使用しない薬もあった。

(6) 服薬支援について

服薬支援を行っている利用者は4名である。管理を行っており、行為は自身でできる。

(7) 個別の健康情報について

自身の体調不良等の訴えを行えない利用者が多いので、日常的に利用者の様子をしっかりと観察することで体調を把握している。また休むときも電話や訪問等を行って連絡をとり、状態の確認等を行っている。そのうえで、必要な支援を行い、そして当事業所のスタッフ間でも所員個人の基本的な情報と日々における状態について情報共有を行い、事業所スタッフ全員で連携して支援にあたっている。

(8) 清掃、整理整頓等について

清掃については、利用者によってそれぞれができる箇所を行っている。清掃を行っていない利用者もいる。従って、利用者が来所する前の朝に、週一回職員が一斉に清掃を行う日を設けている。整理整頓にも心掛け、5Sが保たれた事業所を維持できるように努めている。

9 給食について

- ・給食を楽しみに通所する利用者が多い。楽しい時間でもあった。
- ・キッチン CoCo より弁当を提供してもらっており、栄養士に作成したメニューで提供されており、適切であったと思われる。
- ・日頃よりキッチン CoCo とは給食に関する情報交換及び共有を行い、課題検討を行った。また、嗜好調査も行い好き嫌いやアレルギー等のアンケートをとり、必要に応じて対応をした。アレルギーによる配慮は行い、弁当の変更をお願いすることもあった。また11月より、米・小麦・豆類を含むかなりの食材でアレルギーが検出された所員がいて、この所員に対しては家族と連携・相談をして弁当から該当食材を排除したり、家から持参した弁当を配膳したり等の対応を行った。
- ・体重など考慮して、職員が調節してごはんを盛ったり、また、調味料もかけすぎないように職員が行うなどして、健康面での配慮を行った。

10 旅行について

令和2年度は実施しなかった。

11 防災訓練について

(1) 防災訓練

第1回目

- ・実施日：令和2年 9月30日(水) 13時30分～14時00分
- ・参加者：利用者9名 職員6名 計15名
- ・内容：避難訓練。事業所内の食堂キッチンのIHの不具合により、火災が発生したと想定して避難訓練を行った。
- ・課題及び反省点：

令和2年度で初めての避難訓練であり、前回までの経験を参考に、職員と利用者双方を対

象として、「通報・消火・避難訓練実施マニュアル」にのっとり一連の動きを確認した。今回は建物内部北側に位置する食堂キッチンのIHの不具合による出火という事態を想定して、発見、通報、初期消火、避難（誘導）における、それぞれの対処方法を順番どおりに1つ1つ確認した。火災感知警報機による感知(サイレンが鳴った)から避難完了までの時間は、3分45秒であった。前回とは違う場所よりの出火の想定であるが、参加者全員の協力により大きな混乱もなく、無事に訓練を終了することができた。

避難時間は前回より30秒遅くなったが、状況を理解できずに、すぐに避難できなかつたり、その場をなかなか動こうとしなかつたりとして利用者が2名おり、手間取った。実際の避難時でも考えられることであるので、対応を今後検討し次回訓練に反映させたい。

以上、今回の経験をもとにそれぞれの状況に合わせた相応な判断と行動及び誘導ができることを目指して、状況に合わせた訓練を次回以降も続けていきたい。

第2回目

- ・実施日：令和3年 3月17日(水) 13時15分～13時45分
- ・参加者：利用者9名 職員6名 計15名
- ・内容：避難訓練。事業所内の食堂キッチン内のIHの不具合により、火災が発生したと想定して避難訓練を行った。
- ・課題及び反省点：

まず事前に、参加するスタッフ全員で、「通報・消火・避難訓練実施マニュアル」を見て、一連の動きを確認してから訓練に臨んだ。今回の訓練では、建物内部北側に位置する食堂キッチンのIHの不具合による出火という事態を想定して実施した。発見、通報、初期消火、避難（誘導）における、それぞれの過程での対処方法を順番どおりに1つ1つの動き方を確認できた。火災感知警報機による感知(サイレンが鳴った)から避難完了までの時間は、3分30秒であった。前回とは同様の場所よりの出火の想定であるが、参加者全員の協力により大きな混乱もなく、無事に訓練を終了することができた。

避難時間は前回より若干短縮できた。状況を理解できずに、すぐに避難できなかつたり、その場をなかなか動こうとしなかつたりとして利用者が1名おり、手間取った。実際の避難時でも考えられることであるので、対応を今後検討し次回訓練に反映させたい。

以上、今回の経験をもとにそれぞれの状況に合わせた相応な判断と行動及び誘導ができることを目指して、状況に合わせた訓練を次回以降も続けていきたい。

(2)消防設備点検

総合点検として年に2回(令和2年5月及び11月)に業者に委託して実施した。

(3)その他

- ・自衛消防団の編成及び調整。職員緊急連絡網の作成及び配布。
- ・消火器、非常警報装置、誘導灯、火災探知報知機の設置。

12 地域との協働について

- ・見学や研修を受け入れた。
(特別支援学校等の先生及び生徒、保護者、他事業所等)
- ・地域の諸団体等との連携を行い、様々な地域ネットワーク等に積極的に参加した(須高地域

自立支援協議会等)

13 職員研修について

- ・個別支援に関するサービス担当者会議等の支援会議や職員会議を定期的を実施して、支援や活動等に関する知識及び技術の向上や研鑽等に努めた。
- ・相談支援従事者初任者研修、サービス管理責任者研修、虐待防止研修、強度行動障害研修等の外部の機関が行う研修に積極的に参加し、知識や技術の向上に努めた。

14 職員体制について

所長兼サービス管理責任者	1名
生活支援員	7名
送迎運転手(支援員補助)	1名
看護師(嘱託)	1名
医師(嘱託)	1名

フリースペース事業

[事業及び活動等の内容・課題・評価等について]

普段より、障害福祉サービス事業生活事業を運営しており、障害のある人のエンパワーメントを最大限引き出し活かした活動(表現活動(アート活動等))を行っております。その自由であたたかな空間として、不登校やひきこもりの子どもや大人たちが自分らしく過ごすことのできる癒しの場として利用していただくことを目指しております。令和2年度においてはスタッフ体制や予算、活動等の場所の確保等に課題があり、運営を思うようにできませんでした。

個別にゆったりとのんびりと自分の思うように時間を過ごしたり、スタッフや利用する仲間たちとの会話を楽しんだり、相談をしたり、そしてアート関係の表現活動や調理実習等の社会体験活動等の、自らが楽しめて取り組むことのできる活動に参加したりして、居心地のよい安心できる居場所として、そして他者及び地域や社会とつながりを得ることで、自分らしく生きていくことのできるきっかけやパワーの源を得ることのできる場として、今後において運営を目指していきたいと思っております。

1 活動内容等について

(1)アート関係の表現活動について

年間をとおして、毎週月・木曜日に外部講師である関孝之氏及び佐々木良太氏に来ていただいて、生活介護事業の障がいのある利用者を対象としてアートワークショップを行っている。絵を描いたり、書を書いたりして、好きな表現活動を行うことで楽しく時間を過ごし、自らのことを表現していくことの面白さを味わうことのできる場面であるが、フリースペースの利用者も気軽に参加してもらいたいと思っている。

令和2年度事業報告

第2種障害福祉サービス事業

(共同生活援助事業・居宅介護事業・短期入所(ショートステイ)事業・相談支援事業)

地域生活支援センターCoCo ながの・ちくま

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止に努めた1年となりました。グループホームにおけるスタッフについては、どんなに地域に新型コロナが広まったとしても、ホームを閉所することはできないという、エッセンシャルワーカーとしての、社会を支えるための責任ある仕事だと実感することとなりました。

そして、グループホームに限らず、ショートステイ、行動援護、居宅介護と地域生活支援センターCoCoの担っている福祉サービスは、地域で生活していくには欠かすことのできないサービスだと実感することができました。

まだまだ続く自粛生活。生活様式を変えながら、地域での暮らしを支え、その方にとっての幸せ、夢の現実に向け、日々支えていきたいと感じています。

【共同生活援助事業】グループホーム

1. 事業の開始

平成16年	1月15日	CoCoホーム千曲	(女性4名)
			平成21年4月～(女性5名男性2名)
			平成28年3月～(女性6名男性4名)
平成17年	7月1日	CoCoホーム白塚102	(女性4名)
		CoCoホーム白塚103	(男性4名)
平成18年	8月7日	CoCoホーム表参道	(男性6名・女性1名)
			平成22年6月～(男性7名)
平成20年	12月1日	CoCoホーム蔵町	(男性7名)
			平成21年11月～(男性9名)
平成22年	6月1日	CoCoホームぼたんの里	(女性4名)
平成25年	2月10日	CoCoホーム山王	(男性5名)
平成29年	6月1日	地域生活支援センターCoCoちくま	開所
			長野・須坂市内のホームを地域生活支援センターCoCoながのの事業とし、 千曲市内のホームを地域生活支援センターCoCoちくまの事業とする
平成29年	6月1日	CoCoホーム三本木	(男性8名)

入居者定員総数 51名

・令和2年度の入居者数の変動

令和2年4月	CoCoホーム白塚102	女性1名退去	自宅へ
令和2年5月	CoCoホームぼたんの里	女性1名入居	(自宅より)
令和2年8月	CoCoホーム山王	男性1名退去	自宅へ
令和2年9月	CoCoホーム三本木	男性1名退去	一人暮らしへ

令和 2 年 11 月 CoCo ホーム三本木 男性 1 名入居 (自宅より)
令和 3 年 3 月 CoCo ホーム白塚 102 男性 1 名入居 (自宅より)

令和 3 年 3 月時 入居者実数 48 名 (男性 35 名・女性 13 名)

2. 入居者の状況

< CoCo ホーム白塚 102 > 女性 3 名 / 男性 1 名

- ・出身市町村 (長野市 1 名)(須坂市 1 名)(千曲市 1 名)(高山村 1 名)
- ・年齢 41 歳 ~ 61 歳
- ・日中の場 キッチン CoCo2 名 (就労継続 B 型) / アトリエ CoCo2 名 (就労継続 B 型)
- ・ホームの様子

ホーム内での人間関係によるトラブルが日ごろからの課題となっている。世話人、生活支援員が情報共有を密にとると共に、日中事業所との統一された支援を心がけ支援を組み立てている。支援者は日々の発信に適切に対応することを心掛け、入居者の話を丁寧に聞き取り、気持ちよく過ごせるアドバイスを心がけている。また、医療との連携、環境の調整、今できることを実践している。

< CoCo ホーム白塚 103 > 男性 4 名

- ・出身市町村 (長野市 1 名)(飯山市 1 名)(小川村 1 名)(筑北村 1 名)
- ・年齢 62 歳 ~ 76 歳
- ・日中の場 アトリエ CoCo3 名 (就労継続 B 型) / 企業就労 1 名 (株式会社ミヤマ)
- ・ホームの様子

高齢期にさしかかった男性のメンバーが暮らすホーム。加齢による様々な体調の変化に対応して、通院や服薬を含めた健康管理の支援を続けている。4 名とも人間ドックを受診し、必要な治療に結びつけてきている。定期的な通院が増え、付き添っての受診ができるように支援している。現在は 4 名とも元気に日中の就労・活動の場に通うことができている。

居室の整理整頓や衣服の管理が難しくなっており、個別に居室の整理を行なっている。また、ご本人の希望に合わせた外出・買い物や余暇の充実等の支援を広げている。

< CoCo ホーム表参道 > 男性 7 名

- ・出身市町村 (長野市 6 名)(坂城町 1 名)
- ・年齢 23 歳 ~ 60 歳
- ・日中の場 アトリエ CoCo2 名 (就労継続 B 型 2 名)
アートカフェ CoCo1 名 (生活介護 1 名)
CoCo JAVJAV 2 名 (就労継続 B 型 2 名)
ななせ仲まち園 1 名 (就労継続 B 型)
企業就労 1 名 (長野リネン本社工場)

・ホームの様子

365 日ホームを利用する方、週末には実家へ帰省をする方、一般就労している方、生活介護に通所している方等々、様々な生活スタイルを持つ方たちが同居している。時にはホーム内でトラ

ブルも起きるが、支援者が間に入り調整している。

健康管理や金銭管理、余暇の過ごし方など、個々の課題に目を向け取り組んでいる。

< CoCo ホーム蔵町 > 男性 9 名

- ・ 出身市町村 (須坂市 7 名)(長野市 1 名)(木島平村 1 名)
- ・ 年齢 46 歳 ~ 61 歳
- ・ 日中の場 企業就労 9 名 (長野リネン須坂工場 8 名・本社工場 1 名)
- ・ ホームの様子

60 歳となり働く場でも定年として一区切りついた方がいる。一区切りとして、それぞれの望む形の夢プランを実施する予定でいたが、新型コロナウイルス感染症が広がっているため、実施することなく過ぎてきている。落ち着いてきたところで実施して行きたい。楽しみを考えると共に、高齢になってきた今後の過ごし方についても相談に乗っていく。

また、加齢に伴う体力の低下や、疾病も現れるようになってきた。しっかりと働き続けるための健康管理とともに、日常生活や余暇の経験の幅を広げる支援を心がけている。ご家族の高齢化や他界による、親から兄弟への代替わりで、身内との関係性に変化があり、ご本人を取り巻くご家族との関係調整の支援を始めていきたい。

< CoCo ホームぼたんの里 > 女性 3 名

- ・ 出身市町村 (長野市 3 名)
- ・ 年齢 28 歳 ~ 32 歳
- ・ 日中の場 アトリエ CoCo 2 名 (生活介護 2 名)
キッチン CoCo 1 名 (就労継続 A 型)
- ・ ホームの様子

自然に恵まれた環境の中で住み込み世話人の支援を受けて暮らしている。ショートステイの利用者さんも受け入れながら、3 名の入居者が暮らしている。

新型コロナウイルス感染防止により、ホーム等お楽しみ企画が実施できなかったことが残念。

週末は帰省する人・余暇支援を受けて楽しむなど、思い思いの過ごし方をしている。

< CoCo ホーム山王 > 男性 4 名

- ・ 出身市町村 (長野市 4 名)
- ・ 年齢 26 歳 ~ 57 歳
- ・ 日中の場 企業就労 2 名 (株式会社ミヤマ 1 名・轟電化工業 1 名)
アトリエ CoCo 1 名 (生活介護) CoCo JAVJAV 1 名 (就労継続 B 型)
- ・ ホームの様子

長野駅前のホームということもあり、企業就労されている 2 名は、自分の時間を有効に活用し、それぞれの余暇を楽しむことができている。ホーム内もそれぞれの個性を尊重し合いながら、また、助け合いながら暮らしている。その中で、若い入居者さんたちも生活の中でできることを増やしながら生活している。

< CoCo ホーム千曲 > 女性 7 名 男性 2 名

- ・ 出身市町村 (長野市 4 名)(坂城町 2 名)(上田市 2 名)(中野市 1 名)
- ・ 年齢 22 歳 ~ 55 歳

- ・日中の場 クリーニング工房 CoCo 6名
 (就労継続A型4名・就労継続B型2名)
 スタジオ CoCo 1名(就労継続A型)
 企業就労 2名(長野リネンサプライ1名・(株)ロビニア1名)

・ホームの様子

CoCo ホームの中で1番歴史のあるホーム。このホームを地域生活のスタートとして、一人暮らしから結婚まで実現させた先輩がいる。元気に挨拶を交わしたり、体調の悪い仲間に気遣いの言葉をかけたりと人間関係は良好。朝夕には共有スペースに男女混合の食事風景が見られる。新たな入居者となったメンバーもホームの雰囲気溶け込み、仕事に余暇に思い思いの毎日過ごしている。

<CoCo ホーム三本木> 男性 8名

- ・出身市町村(長野市4名)(千曲市2名)(坂城町1名)(須坂市1名)
- ・年齢 23歳~56歳
- ・日中の場 クリーニング工房 CoCo 3名(就労継続A型3名)
 スタジオ CoCo 2名(就労継続A型1名・就労継続B型1名)
 チューリップの家 1名(就労継続B型)
 企業就労 2名(戸上リネンサプライ1名・西友1名)

・ホームの様子

平成29年度6月に新しく開所したCoCoホーム。地域のニーズに応えるために、ショートステイ付ホームとして8名の入居者がホームでの暮らしをスタートしている。

現在は、食卓では冗談を交えた会話があり、食後も世話人や入居者同士の団欒する姿が見られている。日中はそれぞれの場所で就労され疲れて帰る方が多く、ホームに戻られてからは、心身共にリラックスできる環境を目指したい。

入居されている方の多くが、社会の中でトラブルを抱えやすい障がい特性を持っているため、トラブルを未然に防ぐ、または初期の段階で対応できる環境にしておく必要がある。

3.生活状況 / QOL等

各ホームとも、地域の中で行事や清掃活動に声をかけていただき、世話人と共に地域の実情に合わせて積極的に参加させて頂いているが、今年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、地域の行事が自粛され活動することがなかった。

地域で暮らしながら、思い思いの余暇を過ごして頂きたい気持ちは強いが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止を一番に考え、グループの行動指針に従った行動制限をお願いしてきた。入居者さんたちにとっては厳しい状況だったと思われるが、今後も外出の自粛をお願いをしていきたい。感染防止については、基本的な感染対策方法をわかりやすくお伝えをしてきている。

また、自粛を頑張るだけではなく、ホームにいても楽しい、嬉しいを実感することができるよう、テイクアウトの食事を準備するなどの工夫をしてきた。

4.職員体制

地域生活支援センターCoCo ながの

管理者 1名(ちくまと兼務) サービス管理責任者 2名 生活支援員 6名

世話人 16名 白塚102・103：3名 / 表参道：4名（宿直1名）
蔵町：4名 / ぼたんの里：1名（宿直1名：住み込み）
山王：4名

地域生活支援センターCoCo ちくま

管理者 1名（ながのと兼務） サービス管理責任者 1名 生活支援員 2名
世話人 14名 千曲：6名 / 三本木：8名

5. 食事

各ホームとも手作りで栄養バランスのとれた食事の提供をこころがけると共に、世話人の負担を軽減するために、ヨシケイの食材配達業者を適時活用している。季節の行事メニューや誕生日メニュー、外食の企画等、入居者にアンケートをとりながら嗜好を取り入れた献立も作っている。入居者や体験で利用された利用者からは「食事が美味しい」と良い評価を頂いている。

6. 健康管理

日常の健康チェックに加えて、通院・服薬の支援を行ってきた。加齢とともに体調の変化が現れてきている入居者が多く通院の種類や回数が増えてきている。必要な人にはホームで血圧や体重測定を続けている。通院先は、地域の内科をはじめとして、歯科・眼科・耳鼻科・精神科・皮膚科・胃腸科・婦人科・整形外科・総合病院と多岐にわたり、定期通院の付き添いが必要なところを複数持っている入居者もいる。医療機関と連携しながら情報を共有して支援してきた。

また、40歳以上で人間ドックの受診を希望する方には、申込み手続から当日の付添いまでを支援しており、今年度は2ホーム、6名の入居者が受診した。疾患の早期発見に努めている。

今年度は、新型コロナウイルス感染予防に取り組んできた。マスク・消毒・手洗い等の予防に係る準備品をそろえると共に、発生時のマニュアルを作成し、職員スタッフの意識も高めてきている。また、厚生労働省をはじめ県、市から出される文章を、入居されている方たちにもわかりやすいよう、工夫しながらお伝えしてきている。

帰宅時の手洗い、手の消毒、ホーム内の換気、毎日の検温、食事時間の変更、部屋から出る時にはマスクを使用、外出の自粛、外出先のメモ等ホーム内でできることを呼びかけ、入居者、職員ともに感染予防に取り組んでいる。

7. 防災体制

各ホームとも、前期後期2回の避難訓練を実施。新たに水害時の災害想定にて訓練を実施している。新型コロナウイルス感染防止のため、1回しか実施できなかったホームもある。

防災用品については期限切れの水や食料がないかを点検、不足の物を補充できるよう手配した。

また、水防法の改正に伴い、水害・土砂災害のイエローゾーンに入っているホームについては、防災計画、避難訓練の見直しを行っている。

8. 研修等

- ・月1回を目標にホーム毎の支援会議を行い、世話人と生活支援員で支援の振り返りと情報の共有及び支援の方向性の確認に努めた。
- ・長野市・千曲市・須坂市の自立支援協議会の各部会に参加して情報共有を行った。
- ・世話人研修は集合研修ができなかったため、それぞれのホーム毎、災害時のマイタイムスケ

ジュールの作成について研修を行い、ホーム毎の災害時のマニュアルの確認をした。

- ・その他、各関係機関で開催される新型コロナウイルス感染症についての研修会に参加。学んだことを現場で活かすことができるよう、スタッフ会議等で報告伝達している。また、研修会自体が Web 環境での開催となったため、スタッフ間で Web 会議アプリ Zoom の使用方法を確認し、積極的に研修会へ参加している。

9. 地域への開放

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、自由に施設を開放することはなかったが、長野清泉女学院の心理学科の実習生を受け入れ、地域で暮らす障がい者の生活について学ぶ機会を提供してきた。今後も続けていく予定。

10. 評価及び課題（実践を通して）

今年度は新型コロナウイルス感染症の感染予防に努めた一年となった。グループホームで暮らす皆さんたちにとっても我慢の日々となると共に、今までの日常が大きく変化した一年だった。

変化を苦手としているのが、自閉症スペクトラムの方たち。そんな自閉症スペクトラムを抱える K さん。彼にとっては日常が、非日常となった今年度は大変な思いをして生活していたことが想像できる。毎日通所できていた日中事業所への通所を嫌がり、または日中事業所ではちょっとしたことで怒り、座り込みを続けたり...と、不調なことが何度も繰り返された。今振り返って見ると、K さんが不調になる時には、長野市で感染者が増え感染防止レベルが上がった後だったり、ニュースで「感染者が増えています」と話題に上がった時だった。

目に見えない物を想像することの苦手さをもつ彼にとって、目に見えないウィルスへの恐怖（これについては私たちも同じですが）と共に、今までの日常にはなかった感染防止の取り組み、環境の変化、周りの職員や仲間のピリピリした雰囲気などが、大きなイレギュラーだったと想像する。

ホームの支援として取り組んだ事は、目に見てわかるように感染防止の方法を K さんにお伝えすること、ホームの中の環境は何も変わらないということを伝えた。もちろん、人混みへの外出の自粛や手指消毒などをお願いしてきたが、個別に分かりやすい方法で説明をした。また、日中事業所への通所を嫌がる時には、無理に通所させず、ホームで過ごせるようにし、「ホーム生活は変わらない」「ここは安心して生活できる場だ」ということを伝えてきた。

東京で緊急事態宣言が出ると、K さんは「(ぼくも)緊急事態宣言！」と言って日中事業所への通所を拒んだ。もちろん、「そうだね、緊急事態だ。今日はホームで過ごそうね」と伝えることで、安心して過ごす事ができている。この一年ホームでは一度もパニックを起こさず日常を過ごしている姿から、ホームが安心の場となっているが分かる。

ご本人の困っていることは何なのか、その方にとって安心できる環境とは、イレギュラーをレギュラーにするためには、私たちは常に想像する力を試されている。

U さんが新しくホーム入居となった。彼もまた自閉症スペクトラムだ。彼のストレングスは仕事に休まず通い、決められたことをこなすところにあった。しかし、新型コロナウイルス感染症が広まる中、通所している日中事業所は作業量が減ったため、活動内容が変わったり、通所できる時間も

半日になったりと毎日がイレギュラーとなっていた。それまでも家庭ではイライラする姿が多くみられており、将来のことも考えグループホーム入居を検討していた。そして、イレギュラーの続く日中事業所でもイライラする姿が多くなり、家族と相談する中でグループホームへの入居となった。

ちょっとしたことでイライラして怒ってしまう彼の様子をお聞きし、集団生活のグループホームでやって行けるか心配する気持ちはあったが、現場のスタッフには、彼にとって安心できる場となるよう、行動観察しながらホームでの日課を組み立てていった。

当初、彼の生活には難しさがあった。日中事業所が終わってもどこかで時間をつぶして遅く帰って来たり、食事は皆がいなくなったキッチンで食べたり、口頭でのやり取りは苦手だったり、初めての人とはやり取りできなかつたり・・・たくさんのことが挙げられた。一つひとつ、自閉症スペクトラムの障がい特性と環境要因とを照らし合わせながら、ホームでの生活に落とし込んで行った。

そして、入居から5ヶ月経った彼の行動は、当初の心配をよそにとても安定している。原因のわからないイライラは見られず、ホームの生活を楽しんでいるように感じられる。遅い帰りについては、早く帰って来て良いことを紙に書いて説明するだけで、帰りは早くなった。食事は、時間や場所を決め周りもそれに配慮することで早い時間に食べることができ、その後の洗濯や入浴もホームのルール通りにこなすようになった。コミュニケーションは特性に合わせて、紙に書いたやりとりを中心にすることでスムーズにできる様になった。そんな一連の支援は、生活全体をレギュラー化させ、安心できる環境づくりにつながった。そして、彼の気持ちにも余裕が出て来ている。ホーム入居前は誰とも進んでコミュニケーションをとらなかった彼が、特定の職員とは、自分の好きなゲームや映画の話題についてやり取りするようになり、積極的に彼の方から係ってくる姿がある。また、週末帰省した時の家庭においても、イライラする姿が減るだけでなく、それまでいつでも邪険にしていた飼い犬をかわいがる姿まで見せてくれている。

ホームでの支援は、彼の障がい特性を知ったうえで環境を整えること、やり取りができる様になったら、必ず相談することを続けている。特性に合わせて環境を整えることの大切さと、一方通行にならないやり取りの大切さを感じている。今後も、Uさんの新しい発見があることを期待している。

「答えは現場が教えてくれる」、常に現場の支援を通して学び、地域で暮らす方々の生活、夢の実現を支えて行きたい。

【短期入所事業】ショートステイ

「自立生活をしたい!」「グループホームで生活してみたい!」「将来的には自立した生活をしてほしい」「親元を離れての暮らしがイメージできる体験をさせたい」「緊急時に対応してもらえると安心」という本人・保護者の願いに沿うべく、当法人の共同生活援助事業所住宅の一室を活用して短期入所(ショートステイ)の事業を開始して、10年が経過した。

利用のきっかけや目的は様々で、グループホームで生活リズムを作りたい人、家を離れる

体験をしてみたい人、グループホーム入居に向けて練習したい人のほかに、家庭の都合や事情で緊急に利用したい人などであった。

1. 事業の開始

平成 22 年 7 月 1 日 CoCo ホーム表参道 / CoCo ホームぼたんの里

平成 29 年 6 月 1 日 地域生活支援センターCoCo ちくま (CoCo ホーム三本木)

2. 事業提供の場所と定員

CoCo ホーム表参道 定員 1 名

CoCo ホームぼたんの里 定員 1 名

CoCo ホーム三本木 定員 2 名

3. 利用状況 (月別のべ利用人数)

	R2 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	R3 1月	2月	3月
表参道	15	26	34	23	12	13	9	17	12	18	17	22
ぼたんの里	10	13	9	8	7	8	9	8	8	8	8	9
三本木	30	27	39	29	36	27	33	17	20	33	28	39

4. 評価及び課題

事業開始 10 年目、定期利用者 (月 1 回・隔週 1 回) が定着している。

ホーム表参道においては、当法人内で福祉サービスを利用されている方が利用をしているが、それ以外の、地域で暮らす方のショートステイ利用希望も増えている。

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を行いながらショートステイの利用を続けてきている。

そんな中で、表参道のショートステイには、新規の利用を希望する方が多く、一人暮らしやホームの利用を考えている方の体験の場として利用を始めた方もいる。また、新型コロナウイルスの感染予防のため、利用の頻度を増やして利用された方もいた。

ホームぼたんの里においては、定期的に利用されている方が定着して利用している。今後も、個別のニーズに合わせ利用して頂ける環境を整えていきたい。

ホーム三本木は、利用できる居室が 2 床あることが大きなメリットであると共に、2 床が利用されていても、緊急的に 3 人目を受け入れる体制ができていた。新型コロナウイルス感染症の感

染予防のために長期として利用する方がいたり、他のショートステイが使用できなくなり急遽受け入れた利用もあった。

定期的な利用の理由としては、ご家族の介護軽減もあるが、よりご本人の自立を視野に入れた利用を希望されていることが多いと感じる。障がいの重い方であっても、地域で自立した生活を送るための地域社会資源として有意義に活用されることにつながり、今後も利用頻度は高くなっていくと思われる。

【居宅介護等事業】 地域生活支援センターCoCo ながの -

事業開始年月日 平成 18 年 7 月 1 日

平成 22 年 5 月より、長野市基準該当事業所として登録

事業内容

- ・居宅介護事業（身体介護中心・家事援助中心・通院等介助）
- ・行動援護事業
- ・移動支援事業
- ・長野市障害児自立サポート事業
- ・市町村障害児（者）タイムケア事業

職員体制

管理者 1 名 / サービス提供責任者 1 名 / 居宅介護等従事者 5 名

行動援護従事者 2 名 / 移動支援従事者 8 名 / タイムケア等従事者 8 名

利用者

日中の通所事業利用者 / グループホーム入居者

在宅単身生活者 / 在宅の障がい者・児（日中を他法人事業所利用）

長野養護学校児童・生徒 / 稲荷山養護学校児童・生徒

特別支援学級及び情緒学級在籍児童・生徒

評価及び課題

<居宅介護事業>

居宅介護事業については、ヘルパーの不足により当事業所だけでは担うことができないことが多く、他事業所との協力体制の上、支援提供を続けている。情報の共有、ケア会議への参加等を行うことで、関係者間との連携を円滑にとることができた。

通院等介助の利用を希望が年々増え続けている。障がいを抱える方にとって、通院に関する支援はとても重要な部分であり、地域で暮らす方達にとっては、その人を大きく支えるためになくてはならないものとなっている。必要な方に対しては、適切な支援提供がされるべきである。また、グループホーム入居者の高齢化も進み始め、現状のスタッフで何とかやりくりしている。これからも通院の支援は増えることが想定できるため、通院を担うことのできるヘルパーが必要となる。

< 移動支援事業・行動援護事業 >

移動支援については、利用者さんからの希望が多く上がっているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の広がり治まらず、利用者の安全、支援者の安全を考え、長野県から出される感染防止レベルを判断基準として、サービスの提供を行ってきた。そのため、利用者からの希望に添えないこともあった。

行動援護についても移動支援と同様に対応してきたが、移動支援に比べサービスの必要性は高いため、感染防止の工夫をしながらサービス提供を続けてきている。当法人内の方の利用希望、及び当法人以外の場からの利用希望があり、出来る限り対応してきている。そのため、地域で暮らす重い障がいを持つ方の社会参加を支え、余暇支援、外出支援を積極的に提供することが出来ている。しかし、対応が困難な場合もあり、今後も行動援護従事者の育成、確保が必要となっている。行動援護に従事することのできるヘルパーの確保が急務であり、ヘルパーやスタッフの専門的スキルの獲得も必要となっていく。

< 障害児自立サポート事業・タイムケア事業 >

障害児支援においては、利用されている児童が学童期を過ぎたため、年々利用時間は減っている。今年度は主に2名の児童の受け入れを続けてきた。利用する児童については、個別の活動が必要となる方のため、支援者の配置に配慮が必要なことが多くあった。

新型コロナウイルスの感染防止を第一に考えながら、外出先を決め、集団での活動、様々な社会体験を積む時間を提供することを心がけてきた。また、ケア会議を通して各事業所間の情報共有を計ると共に、統一した支援につなげることができている。

特別支援学校在学中の児童さんについては、サービス利用に関すること、また生活上の困りについてケア会議に参加する等相談にのることができた。タイムケア事業としてお預かりするだけでなく、相談にのる、今後について一緒に考えるといった地域の社会資源としての役割を果たすことにつながっている。また、個別の相談を受ける中で、当法人に計画相談を依頼される方が増えており、児童期からの信頼関係の築きが大切だと言える。

今後も活動の充実及び、個々に合わせた療育的支援の充実を図っていきたい。

< 全体的課題 >

今年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止を第一にサービス提供を考えてきたため、多くのサービスは提供することができなかった。

今後のためには、利用者一人一人のその人らしい要望、多様な要望に応え、充実した地域生活を支えるためには、サービス提供従事者の増員、スキルアップ、及び統一された支援提供が不可欠。

利用実績

	居宅介護 (身体介護・家事援助・通院等介助)			行動援護			移動支援			タイムケア			長野市障害児 自立サポート		
	利用者数	延利用者数	総利用時間	利用者数	延利用者数	総利用時間	利用者数	延利用者数	総利用時間	利用者数	延利用者数	総利用時間	利用者数	延利用者数	総利用P
令和2年 4月	5	8	7.5	7	20	61.0	4	4	15.5	10	63	290.75	2	17	118.00
5月	6	8	8.5	5	23	66.0	4	4	14.0	11	96	415.5	2	16	117.25
6月	5	7	8.5	7	26	75.5	8	9	28.0	10	72	239.5	2	12	82.00
7月	5	5	6.0	10	31	92.5	7	8	36.5	8	56	182	3	11	91.75
8月	2	3	4.5	8	28	73.0	8	8	38.5	8	38	129.5	3	17	172.00
9月	5	7	9.0	8	26	73.0	8	8	35.5	10	34	116.5	2	10	65.00
10月	5	6	6.5	8	29	88.0	10	12	56.0	7	35	115.00	2	7	62.75
11月	2	3	3.0	8	28	86.0	8	8	43	7	32	103.00	2	7	63.50
12月	6	8	7.5	8	21	71.5	6	7	24.5	8	45	123.75	3	12	79.75
令和3年 1月	4	7	6.0	6	19	69.5	3	4	13	8	30	111.75	2	14	117.25
2月	6	9	9.5	8	22	82.0	10	10	43.5	8	29	92.25	2	11	92.75
3月	7	8	8.0	8	25	74.5	11	11	58.5	7	37	102.50	2	11	86.50
合計	58	79	84.5	91	298	912.5	87	93	406.5	102	567	2022	27	145	1148.50

【相談支援事業】

専任 3 名、兼務 1 名の相談支援専門員が、障害福祉サービス等利用計画の作成に取り組むことができた。そのため、特定事業所加算()の加算基準を満たした状態で運営することができた。そして、昨年と同様、長野市からの依頼や高等部卒業に当たり障害福祉サービスを利用したい新規の利用者の障害福祉サービス等利用計画の作成を行った。

長野市、千曲市の委託相談員とは連携を密にし、相談員から依頼の上がってくる新規の相談ケースに対しても積極的にお受けしてきた。

また、サービス更新、ご本人・ご家族からの相談(サービス追加・変更等)などに合わせてケア会議を実施してきた。ご本人・ご家族と市町村ケースワーカー、各事業所の担当者、サビ管、相談支援専門

員が顔を合わせて障害福祉サービス利用の状況把握や意向確認を行える良い機会となった。各種サービスの利用方法の相談等、ご本人やご家族に寄り添い身近な存在として相談支援専門員がいたことは、安心につながったように感じる。

相談支援専門員や障害福祉サービス等利用計画の質を向上させるために、指定事業所連絡会に出席し情報収集、情報共有や各種研修への参加を重ねてきた。各研修会に参加することで、行動障害支援体制・精神障害者支援体制・要医療児者体制の加算基準を満たすことができている。

令和1年12月に、法人内の相談支援事業をながのに統一したことで、法人全体の相談支援事業の体制が強化されている。情報の共有、支え合いながらの実践をすることで、相談支援専門員が今まで以上に連携をし、チームとして相談支援が進められる環境となっている。

受給者証の管理においては、障害福祉サービス支給決定期間終了後、一定期間を過ぎた時点で、受給者証の把握ができていない方の一表を毎月作成した。その一表を事業所へ配布し、家庭や市町村ケースワーカーへの確認を促した。また、内部の報告書についても、請求担当と相談しながら情報把握しやすいものを適時改訂しながら利用してきている。

市町村によって、提出書類や提出方法が異なる点や、受給者証の発行時期遅滞や更新内容と支給決定された内容に相違がある点等、戸惑う部分があったが連絡調整をしながら、順調に進めることができた。事務手続きについても、各相談支援専門員と請求担当者間で適切に連携を図って進めたい。

令和 2年度相談支援事業実績					
		ながの			
		サービス等 利用計画	モニタリング	認定調査	
R2	4月	9	32	1	
	5月	18	27	0	
	6月	24	44	0	
	7月	22	19	0	
	8月	10	32	1	
	9月	18	45	1	
	10月	13	25	0	
	11月	13	36	1	
	12月	20	49	1	
	R3	1月	18	36	0
		2月	15	23	1
		3月	44	35	0
合計		224	403	6	

【長野市障害児（者）ケアプラン作成事業】

長野市ケアプラン作成事業については、指定計画相談支援事業の補助的な役割となっている。当法人の持つ長野市障害児ケアプランは、すべて指定障害児相談支援事業に移行することができるため、令和2年度には長野市ケアプランは作成されなかった。

【千曲市障害者等基幹相談支援センター事業】

障害者等相談支援事業

- ・千曲・坂城障がい者（児）基幹相談支援センター 6名
（センター長1名・相談員1名・事務員1名 計3名が地域センターCoCoながの所属）
<1年間を振り返って>

新型コロナウイルスの感染拡大防止対策により、マスク着用・手洗い励行・三密回避を基本に、活動が制限されてきましたが、目の前にいる方の表情やしぐさ、その方の考え思いを聴き、気持ちに伝えることがいかに大切なことなのか、改めて気づかされました。また、メールでの相談が増えたことも、コロナ禍の影響を受けたのではないかと思います。

そして、引きこもりの方、環境の変化に弱い方への支援の在り方も、WEB会議が主流になりつつあるなかで、画面を通してのつながりではあるのですが、可能になる人も出てくるのではと希望を持たたことも収穫となりました。さらには、協議会への当事者参加の実現が具体化するよう検討できればと思います。

基幹相談支援センターの取り組みから、相談支援体制の強化を達成するために、まずは基幹の相談員のスキルアップを旨とするということで、1名が主任相談支援専門員の講習を受けました。一人ひとりが抱えている課題は、地域生活を継続するうえで、個の支援を通じ地域の課題として、地域で支える体制づくりを意識することが求められます。今後、主任相談支援専門員が果す役割を検討しながら、活動の場を広げていきたいと思っています。

最後に、自立支援協議会の事務局としては、新型コロナウイルスを理由に何も行動を起こさないと、事が進まないことを学びました。SOSを出している人には、「待っていて」「もう少し後で」は絶望に感じる人もいるはずです。同じように関係者のスムーズに事が運ばないジレンマを受け止めつつ、弱い立場にある人が、この地域から置いてきぼりにされない仕組みを、協議会を通じてこれからも考えていきたいと思っています。また、協議会としての機能を発揮できるよう人員増も含め、体制整備の検討を行い充実した運営に取り組んでまいりたいと思っています。

< 年間相談件数 >

相談形態	電話	2213	来所	467	同行	159	訪問	266
	メール	311	支援会議	223	関係機関	23	その他	97
対象者(のべ)	身体	274	知的	752	精神	2043	発達	152
3759 人	高次脳	5	重症心身	6	その他	527		
相談内容	福祉サービス利用	1155	不安の解消	799	人間関係	762	健康・医療	637
(相談件数の多いものから抜粋)	就労	752	家計・経済	571	保育・教育	86	生活技術	461
	障害の理解	272	社会参加	146	地域移行	21	権利擁護	48
家計・経済に関する相談のうち、年金に関する相談は 213 件								
福祉サービスに関する相談のうち、児童に関する相談は 317 件								

【長野市障害者相談支援センター事業】

長野市内は7か所の相談支援事業所が各地域で総合相談を受ける仕組み(サテライト)であるが、令和3年度より長野市南部については、正式に「長野市南部障害者相談支援センター」が開所され、長野市南部を対象地域とした3法人が一か所に集まり、新たな相談支援体制が始まっている。

センター化されたことで、複数の専門員同士で相談、情報共有ができる環境となった。センター内で情報の共有ができることで専門員同士の協力体制が強くなり、それまで以上に相談への対応がスムーズになった。困難ケースへのアプローチの仕方や、より専門的な支援が必要な方への支援の方法等、チームとして係ることが出来る様になっている。

また、主任相談支援専門員の研修を受講し、委託の専門員として今まで以上に相談支援専門員の相談にのる、スーパーバイズを行うといった立場になってきている。

長野市障害者相談支援センター事業としては、相談支援センターの基幹化に向け、人員配置・環境を整備していく予定。

障がい者総合支援センターの利用者及び相談支援の状況（R2）

センター名： 長野市南部障害者相談支援センター（CoCo）

1 障がい種別登録者数（実人数）

身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	その他	合計
20	26	41	9	10	106
視覚障がい者				高次脳障がい	
聴覚障がい者					

2 障がい種別相談延べ件数

身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	その他	合計
189	514	1,005	137	38	1,883

3 支援方法別相談延べ件数

訪問	来所	電話	電子メール	個別支援会議（ケア会）	その他	合計
115	90	1,213	3	38	424	1,883

4 相談の内容(複数回答あり)

相談内容	延べ件数	割合
福祉サービスの利用	667	33.52%
社会資源の活用	97	4.87%
障害や病状の理解	107	5.38%
健康・医療	119	5.98%
不安解消・情緒安定	85	4.27%
保育・教育	38	1.91%
家族関係・人間関係	128	6.43%
家計・経済	136	6.83%
生活技術	186	9.35%
就労	222	11.16%
社会参加	50	2.51%
余暇活動	34	1.71%
権利擁護	17	0.85%
その他	104	5.23%
合計	1,990	100.00%

把握している範囲